

### 3. 2 探究活動の指導法Ⅱ 探究カリキュラムの開発について

#### 【本校の探究を開発するに当たって】

#### ◎社会の変化による「総学」から「総探」への変化

総合的な探究の時間の学習指導要領が総説で述べているように、現在の生徒達が成人して社会で活躍するときには、生産年齢の人口減少やグローバル化、技術革新等により、予測困難な時代がやってくると考えられている。これまでの社会は明確な課題があり、それに対してどうアプローチすれば正解かを求めることが目標となっていた。しかし、現在の社会、これからの社会では、さまざまな価値観からさまざまな課題があり、「唯一絶対解」ではなく、答えのない課題に対して、多様な他者と共同しながら「目的に応じた納得解」を見出す必要がある。

教育の分野でも大きな変更がなされてきている。学習指導要領の中で、「総合的な学習の時間は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びであるのに対して、総合的な探究の時間は、自己の在り方 生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していく。」とあるように外に存在している一般的な課題だけではなく、自分自身が問題を設定し、課題を設定していくことが求められる。

#### 【探究の3つの型】

これまでの探究の実践から、指導をしやすいするために探究を3つの型に分類した。

- ① 基礎研究型探究
- ② 問題解決型探究
- ③ 未来創造型探究（課題達成型探究）

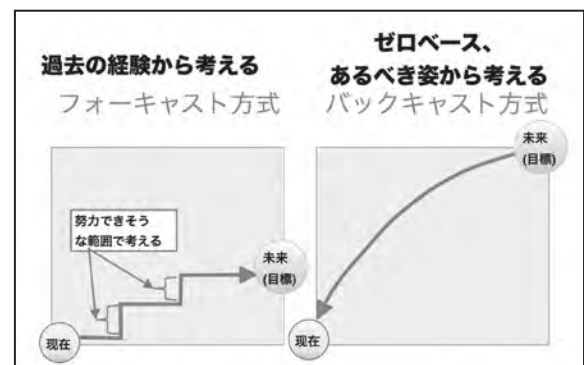
まず①は真理を追い求めるような探究である。科学の分野だと、山中教授のiPS細胞の研究のようなものであり、情報の分野だとブロックチェーン技術等、いわゆる基礎研究に近いものを想定している。本校では、再生可能エネルギー班などで、新しい発電方法などの探究がこれに当たる。②は、今現在目に見えているネガティブな事（顕在的な問題）やこのままだと起こることが予測できる問題（潜在的な問題）を解決する探究であり、総合的な学習の時間でも行われていたような探究である。③の未来創造型は、問題をとらえ直し、新たな課題を見だし、新しい価値や価値あるものを作り出す探究である。探究を進める上で、②の問題解決型の探究は、（地域）社会で共有された問題であり、共通の課題であるため、解決の方向性がある程度見える。そのた

め、参考事例があり、生徒が探究を進める際にアドバイスが受けやすいが、すでに行われていることをなぞることになったり、地域の活動の中に都合良く組み入れられたりする可能性がある。一方で、③の未来創造型の探究は、一般的に言われている問題や課題を再設定することから始めるため、具体的な解決アクションが（地域）社会で行われていることが少なく、オリジナリティのあるプロジェクトを行うことが可能である。

#### 【問題と課題の設定について】

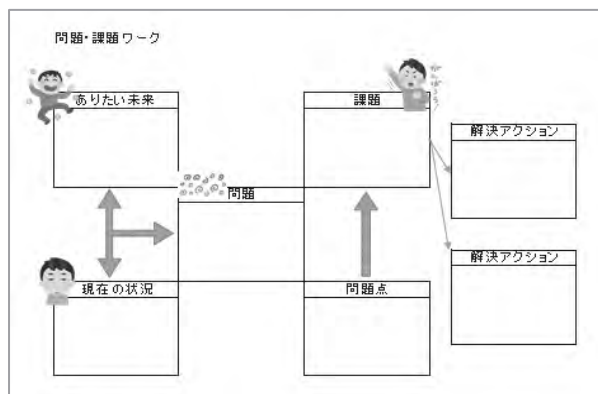
以上のようなことを踏まえ、探究プロセスの中の、課題設定を次のように進めている。本校では、課題と問題の違いをビジネスの分野で使われている定義で進めた。「問題」＝達成したい目標と現状の差、「課題」＝その差を埋めるために起こすべき具体的な方向性。さらに、達成したい目標についての次の2種類に分けた。「本来あるべき状態」と生徒それぞれが考える「ありたい状態」である。消しゴムを例にすると、「あるべき状態」はしっかり消しゴムとしての機能を果たすことであるが、「ありたい状態」はさまざまあり、その一つとして、「角で消す心地良さが続く状態」とゴールを設定することで、カドケシという本来の機能以上の付加価値を持つ商品を生み出すことができる。「ありたい状態」を達成したい目標にすることで、達成することでより付加価値の高いゴールを生み出す「課題」を設定できるようになる。この考えは、「バックキャストイング」の発想をもとにしている。

バックキャストイングとは、最初に目標とする未来像を描き、次にその未来像を実現する道筋を未来から現在へとさかのぼって考える手法であり、現在を始点として未来を探索するフォアキャストイングと対置される。フォアキャストイング型のシナリオ

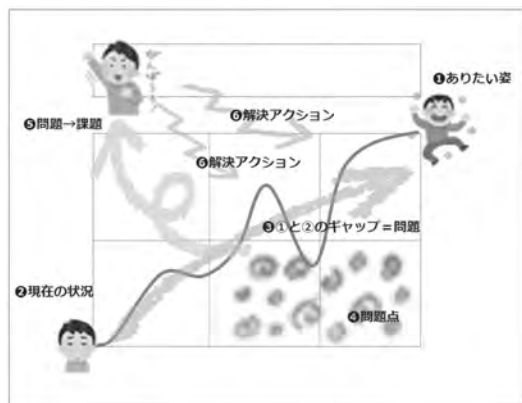


作成手法は、現在の延長上に将来を描くことについて有効だが、現在とは全く異なる未来を描くことは困難。それに対して、バックキャスト型シナリオ作成手法は、現在の状況を前提とすることなく、描きたい将来を定義するので、劇的な変化が求められる課題に対して有効とされている。

以上のことを踏まえて、「問題・課題ワーク」を作成し、生徒に対して課題設定を実施した。このワークを使い、ありたい未来を設定することによって、未来創造型の探究を進めることができる。



【問題・課題ワーク】



【問題・課題ワーク (フューチャーマッピング版)】

## 【生徒の未来想定能力向上のための取り組み (バックキャスト型を効果的に働かせる方策)】

### 1 Future Mapping

Future Mapping は、創造的課題解決を目的とする企業研修を手がける神田昌典氏により開発された思考法である。バックキャスト型の発想で、課題を達成していくために必要な、幾重もの思考レイヤーを一枚のチャートにまとめたもの。一般的な問題解決のフレームと異なり、理想の未来と現状とのギャップを埋めるストーリーの力を使うことで、枠を超えた発想と結果を生み出す行動シナリオを作り上げ実現させることができる思考法である。

このフューチャーマッピングを使うことで、物語の流れと状況の変化を想像できることから「問題・課題ワーク」を、より現実的行動に移すシナリオ作りに行うことができる。言い換えると、課題解決までの流れが、ストーリーとして作られ、さらに、作成段階から、問題解決プロセスを想像の中でトレースしてわくわくする臨場感を感じることもできる。横浜国立大学・教育学部高本真寛先生とベネッセ教育研究所の共同研究では、自律的動機付けがされた生徒だけでなく、外的動機づけによって学習を行っている生徒も学習それ自体の楽しさに気づく契機となりうることを示されている。

5期生は、1年次生の「産業社会と人間」でキャリア教育の一環として行い、2年次の探究の時間、原子力防災探究ゼミで探究テーマの深化を目的に、石ヶ森久恵先生を講師として迎え実施した。この思考法を使うことで、探究におけるプロジェクト設計が紙一枚で完成する生徒もおり、これからの探究学習のフレームワークとしての可能性が非常に高い。

### 2 問題/課題の再設定の考え方

問題と課題の設定方法の考え方を応用した方法を取り入れた。一般的な問題や課題に対して、問題・課題ワークで分析し考察することで、(地域の)問題や課題を新しい観点から再設定することができる。例としてあげると、「少子高齢化」という現象に対して、理想状態を「社会システムを維持できる若手人口の維持」とすると、問題自体が「少子化」になりその課題が今行われているような方向性になる。一方で、理想状態を「AI やロボットによる労働力の維持」とすると、課題は、「テクノロジーの発達と社会における積極利用」になり、「少子化」が問題ではなくなる。このように、一般的に言われている問題や課題と言うスタート地点とは異なる観点から探究を行うことができる。

\*オックスフォード大学でAIの研究を行うオズボーン准教授が2013年に発表した論文によると、「(当時の調査から)10~20年程度で約47%の仕事が自動化され、人間の職が奪われる」と報告され、野村総研の2015年のレポートでも、「(当時から)10~20年後には日本の労働力の約49%がAIで代替可能」と報告されている。しかし、この問題・課題ワーク的発想で、一般的に言われる問題/課題にとらわれず、新しい問題を見だし、それをスタートラインとして課題を設定することで、それまでの枠組みと

は異なる観点で、新しい解決アクションを考えることができる。

### 3 クリエイティビティに対するアプローチ

令和元年度の1年次の「産業社会と人間」において、「調べ学習アワード」という取り組みを行った。それまで、本校では「調べ学習」に対して、「調べ学習になっては良くない」等、非常にネガティブな印象を持っていた。しかし、探究を進めていく際、幅広くとことんまで調べる力は非常に重要であり、それは探究に限ったことではないので、より価値のある「調べ学習」になるように指導する試みを行った。1つのものを調べ尽くした後、自分の興味のあるものを掛け合わせることで、価値を創造するという講座を行い、クラス毎に代表を決め発表会を実施した。5期生長岡嘉人の発表では、漫画「キャプテン翼」について調べ、作品について調べた後、「リーダー」の在り方という観点で最終的にまとめた。以下まとめから

・・・リーダーには「トランザクティブリーダーシップ」と「トランスフォーメーションリーダーシップ」と言う考え方があり。前者は、飴と鞭を重視する従来型であり、後者は、啓蒙を重視するヴィジョンナリーな型である。キャプテン翼は30年前の作品であり、当時のリーダーについての考え方は前者であったが、作者高橋陽一氏は後者の価値に気づき、キャプテン翼を描いていた。不確実な現代社会で求められるのはビジョン啓蒙型のリーダーが求められる。30年前の漫画「キャプテン翼」に影響を受けたビジネスマンを見ると、新時代のリーダーを育成するための良い素材になっていたと思われる。  
(長岡嘉人の発表より)

このように、足し算で増やした知識に新しい概念を掛け合わせることで、より深い考察ができるよう

になった。この足し算とかけ算の発想は、実際の探究の中でも使われており、特に「解決アクション」の中で、自分の好きなことや興味あることを掛け合わせることで、よりクリエイティブなプロジェクトがうまれた。例としてあげると、「地域の記憶を伝える×ゲーム＝マインクラフトで地域を作る」、「地域に新しい産業を生む×南部鉄器＝鉄卵の研究」、「地域交換留学（3期生の探究）×デジタル＝VR 双葉郡ツアー」、「避難経路×祭り（2期生の探究）」等である。

### 4 メディアリテラシー（新聞やテレビの使い方）の育成

正確に現状を把握するために、マスメディアに対する向き合い方を伝える必要がある。新聞やテレビ等マスメディアのニュースは「事実＋メディアの考え」という点で2次情報であり、情報に色がついているということを理解させた。メディアの情報は、あくまで、1次情報へのアクセスのためのキーワード探しととらえさせ、事実に対するエビデンスの重要性を伝えた。

### 5 未来リテラシーの育成

“ありたい未来”を設定する際に、ある程度の未来予測ができることで、より可能性の高い未来を設定することができる。博報堂生活総合研究所の未来年表

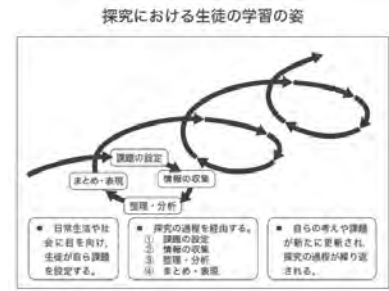
(<https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/>) の様な情報にアクセスすることで、より具体的なありたい未来を設置できる。未来に起こりうるテクノロジーの進化や社会の変化に対する情報にアクセスできる力を「未来リテラシー」と定義し、これから起こりうることに對する生徒のアンテナを高くさせる取り組みを行った。



# 【探究プロセスをアクセラメンツの学習サイクルを使って再構成】

## 1 探究プロセスの開発

「学習指導要領（総合的な探究の時間編）」で探究における生徒の学習の姿という形で探究プロセスが描かれているが、実際の現場に落とし込むためには、より具体的な探究プロセスを作らなければならないと考えた。探究のカリキュラム開発の際に、生徒の探究学習が効率的に加速するようにアクセラメンツを導入した。アクセラメンツは、Peter Klein 博士とアメリカの Paul R. Scheele 博士が開発した学習カリキュラム作成のための方法論である。また、学習者は①受容的に物事を吸収するステージ、②生成的に仮説を立てるステージ、③持続的に検証を行うステージという3つのステージを経験する。その要素を基に以下のような「未来創造探究プロセス」を作成した。



未来創造探究プロセス							
	Stage1	Stage2(1)	Stage2(2)	Stage3	Stage3	Stage3	Stage4
	問題発見 課題設定	現状分析	解決仮説	解決アクション① 考察 新たな課題	解決アクション② 考察 新たな課題	解決アクション③ 考察 新たな課題	考察 論文作成 道路実現
探究内容	問立て 目標設定 研究動機 背景分析	調査 調査のためのアクション 整理・分析	解決のためのアクション仮説 構造化した問題・課題との関係 性を知る	解決のためのアクション 考察 より本質的な問題の発見 新たな課題設定 具体的な解決アクション	解決のためのアクション 考察 より本質的な問題の発見 新たな課題設定 具体的な解決アクション	解決のためのアクション 考察 より本質的な問題の発見 新たな課題設定 具体的な解決アクション	考察 論文作成 道路実現
協働/個別	協働で行うと良い段階			プロジェクトごとに個別で行うべき段階			考察と論文
探究段階	調査研究			解決のためのアクションと考察			考察と論文
			発表会	中間発表会			未来創造探究発表会
カリキュラム 段階	産社/2年次生前期		2年次生後期		3年次生前期		3年次生後期
具体的行動	【調査のためのアクション】 文献調査/インターネット等を使った調査 アンケート調査/フィールドワーク 諸団体との共同調査			【解決のためのアクション】 実験/プロジェクト実施/大学との共同研究 企業との共同研究/行政との共同プロジェクト /プロジェクト実施のための資金準備等			論文作成 セルフエッセイ完成 道路実現
	【考察】 輪読・読書会 生徒同士でのディスカッション/教員とのディスカッション			【考察】 報告・発表を通じたフィードバック/教員とのディスカッション 仮説と実施結果の比較/学会等によるフィードバック			
生徒の態度 の変容	受容的態度 (Be Receptive)	生成的態度	持続的態度				
	生成的態度 (Be Generative)	受容的態度	受容的態度	受容的態度	受容的態度	受容的態度	受容的態度
	持続的態度 (Be Persistent)	持続的態度	生成的態度	生成的態度	生成的態度	生成的態度	生成的態度
総合的な学習 の時間							
総合的な探究 の時間							

## 2 実社会でのアクションの定義（調査アクション・解決アクション）

ここで大きく改善したことがもう一つある。これまでの探究の中で、生徒に対して、実社会に出てアクションを起こすことを促していたが、現状を把握するためのアンケート調査などと地域行政への提言というようなアクションでは質的に違うため、前者を「調査アクション」、後者を「解決のためのアクション」と区別しプロセスの中に入れたことだ。設定した課題に対して、しっかりした調査を行うことで、課題に対する仮説を生み出し始める。そのアイデアをしっかりと形にし、今度は実社会でそれを検証する。そこから得られたフィードバックを生かし、さらなる仮説検証を行う。この探究プロセスは、教員だけでなく生徒自身が見ても、自分自身が今どのステージにいるのかが明確に分かる。

## 3 生徒の態度変容と教員の関わり方

生徒の態度変容に着目すると、それぞれのステージでの適切な関わり方がわかる。教員はそれを適切にモニタリングできるように、生徒それぞれの知性、生徒の探究の進み方、生徒の探究を止めてしまう事象などを意識し、適切に関わる必要がある。それを構造化したものが次の表である。

生徒は、探究者として課題に対して“受容的に正確に物事を吸収するステージ”では、印象ではなく正確に事実をとらえ客観的に考える必要があるため、教員はインストラクターとして厳しく接しないといけない。“生成的に仮説を建てるステージ”では、アイデアをどんどん出したり、似たような事例を参考にしたりと発想力が重要になるため、教員はファシリテーターとして生徒のアイデアを引き出し、ジ

エネレーターとして生徒の中に入り一緒にアイデアを出していく役割になる必要がある。そして、実社会で“持続的に検証するステージ“では、生徒の背中を押してあげられるメンターになることも必要である。この態度変容については、明確にステージごとに変化するわけではなく、もっと小さいサイクルでも起こる。教員はそれをしっかりとモニタリングし、適切に関わり続けたいといけない。

## ◎教員の生徒への関わり方

### 1 インストラクターとして

- しっかりと課題設定のための、未来像を個人、または班の中で共有させる。
- 国内・世界の問題の構造にも興味を持てるように、インプットをする。
- 物事について、現在/過去/未来の観点でとらさせ、因果関係等についても考えさせる。
- 何のための調査、現状把握なのかをしっかりと意識させる。
- 現状把握の際の調査においては、文献だけでなく実地調査、RESAS等の最新の情報にアクセスさせる。
- 学校だけでは不可能な計画がある場合、外部との連携で可能になるかどうか柔軟に考えさせる。
- 考察については、①テーマと自分、②テーマと他の事例、③テーマと世界の問題の3つについてのつながりを意識させる。
- 論文作成については、アブストラクト(要旨)をしっかりと作ったうえで、規定にのっとった形で作成するように指導する。
- 企画書などの作り方を伝え、実現するために必要なことなどを自分から気が付くように配慮する。

### 2 ファシリテーター/ジェネレーターとして

- 生徒自身の探究だけでなく、他の生徒や、実社会で行われていることなども知れるような環境づくりをする。
- ブレインストーミングについては生徒が安心して発言できるように、またブレーキをかけることの無いようにファシリテーションする。
- 一見不可能に見えるアイデアであっても、問いかけを通して深化させる。
- 人と違うことを楽しませる。

- 未来ビジョンを想定させるときには、自由に行わせる。できるだけ創造的に行わせる。(様々な未来予測などを使う)
- 先生自身も一緒に楽しんでアイデアを出す。

### 3 メンターとして

- 生徒自身がどんどんチャレンジできるようにバックアップする。ただし、外部での活動に関しては、必ず学校側が把握できるようにする。
- 常に生徒が、ポジティブな未来を語れる(語り合える)雰囲気づくりをする。
- 生徒が持続してチャレンジできる環境作りをする。

### 【探究論文ルーブリックについて】

今年度、5期生に対して論文指導する際に「論文ルーブリック」を作成し、実施した。これまで、体系立てた論文指導がなかったことと、本校の探究の目指すべき4つポイント(①全国や世界の課題と照らし合わせた考察があるか。②課題解決に向けた調査や実践の報告があるか。③社会や未来に向けた提言があるか。④地域や社会の変革に繋がる特筆すべき成果があるか。)を生徒に意識させ言語化できるようにするという目的で作成した。大きく変更した点は、文字数を10,000字以上から以内に変更した。生徒が文字数を確保するために無駄に長くなり、論旨がわかりにくくなること、さらにバカロレア等の論文の規定が日本語8,000字以内と言うような文字制限であったことを参考にした。

論文ルーブリックを利用して分かったことは、論文の作成の方向性を生徒が理解したことで、各自が論文構成を洗練させることができたと言うことである。また、もう一つの大きな変化は、多くの生徒が、こちらから指導しなくても英語での発信を始めたことである。アブストラクトだけでなく、論文すべてを英語で作成した生徒もいた(論文集に掲載している)。

## 【今後の展望】

### 1 探究プロセスの改善点

5期生に探究プロセスをベースに進めてきて、課題の設定の難しさを体感した。ある程度のインプットがなければ課題設定ができないと考え、トライアル的に原子力防災探究ゼミで、帰還困難地区の双葉町等にフィールドワークに行った。それが大きなきっかけになり、探究プロセスが回り始めた。このことから、Stage2(2)の解決仮説の段階で、課題の再設定を行う必要がある。

生徒の探究取り組みステージと態度変容						
生徒の探究に対するあるべき態度の変容	Be Receptive (受容的に正確に物事を吸収するステージ)		Be Generative (生成的に仮説を立てるステージ)		Be Persistent (持続的に検証を行うステージ)	
	生徒思考・行動	該当のガガワガ	生徒思考・行動	該当のガガワガ	生徒思考・行動	該当のガガワガ
生徒の各変容フェーズにおける望ましい具体的態度や行動	①Think Flexibly ①柔軟に考える	意見が自由になるような学習づくり	①Seek Complexity ①自分の探究以外のこととの関係を探す	異論時に物事を捉えるようなアドバイス	①Take Risks with Courage ①勇気をもってリスクをとる	アクションを起こす習慣作り
	②Inquire ②詳細に探究し、様々なところから情報を引き出す	正確な情報収集・分析への強い探究	②Think Fluently ②アイデアが溢れてきたら、流れ続けるだけ考え、記録する	意見が自由になるような学習づくり	②Imagine ②より良い未来を想像し続ける	未来ビジョンを共に描き出せる環境作り
	③Access Expanded Brain ③直感を無視しないで積極的に活かす	誰でも受け入れられる学習づくり	③Combine ③人と違うことを楽しむ	他の人との強みを理解しあえるような学習づくり		
			④Elaborate ④アイデアを細部にまでこだわり洗練させる	課題にアイデアを浮かべさせるような探究		
探究フェーズ(簡易版)	探究フェーズ1 (仮テーマ設定)		探究フェーズ2 (本テーマ設定)		探究フェーズ3~4 (プロジェクト実践と考察)	探究フェーズ5 (まとめと発表)
	問題と課題設定 現状を正確にする		現状を他のこととつなげる 課題解決の仮説を立てる		プロジェクトを実施する フィードバックをかける (繰り返す)	
教員の役割	インストラクター		ファシリテーター ジェネレーター		メンター	

### 2 オンラインを通じた地区を越えた協働

コロナ禍により、ICTの活用が非常に活発になった。それにより、距離にとらわれない協働の在り方を探ることができた。実際、これまでも、3期生の渡邊美友のように他県の高校生との協働を行ってきた生徒はおり、非常に価値のある探究にしてきた生徒がいる。オンラインを活用することでやりやすくなると思われる。また、海外の生徒との協働も可能になる。探究ではないが、2020年に英語の授業で、アメリカの高校との協働学習やトルコの高校とプロジェクト学習を進めた。コロナによるロックダウン等で、最後まで達成することはできなかったが、世界共通の課題を踏まえた探究の深化、それに伴うプロジェクトの立ち上げを行う可能性を感じることができた。

### 3 未来創造型探究(課題達成型探究)

予測不能の社会に対して、価値を創造する未来創造型探究を生徒に挑戦させることが必要である。その際に、客観的事実を基にした現状把握をベースに、クリエイティブ思考を使ったプロジェクトを立案し、探究テーマを深めていく生徒を多く育成していくことで地域に対しても、さらに生徒自身の能力育成にも利益があると感じる。



### 3. 3 外部連携

本事業を行うにあたり、昨年度からコンソーシアムを構成し、双葉郡教育復興ビジョン協議会や福島大学などと連携し、地域から海外まで、様々なグループとの連携を意識的に推進してきた。今年度もコロナ禍により現地に赴くことができなかつたり、直接会って話ができなかつたりする等、活動に大きな支障が生じた。一方ではオンラインの活用によって移動の制約がなくなり、時間さえ合えば校内で様々な方と容易に話し合うことができるようになった。オンラインツールは慣れてしまえば大変便利であり、これを活かして逆境をチャンスに変えることにより新たな連の形が進み、生徒の様々な取組が面的、質的、量的に大きく展開してきた。ここでは外部連携の経緯や状況等について、「地域知」と「専門知」に分けてまとめた。

#### 3. 3. 1 コンソーシアム

##### (1) はじめに

昨年度に結成したコンソーシアムによって、これまで以上に外部連携を強化することとした。また、外部連携が教員個人の繋がりを活用しているケースが多く、長期的に連携を進めるには組織同士で連携する必要性はあるという課題は引き続き解消しなければならない。

##### (2) コンソーシアム

今年度のメンバーは以下のとおりである。

双葉郡教育復興ビジョン推進協議会	笠井 淳一 氏
福島大学 人間発達文化学類	中田スウラ 氏
福島相双復興推進機構	桜町 道雄 氏
福島イノベーション・コースト構想推進機構	山内 正之 氏
NPO 法人カタリバ	横山 和毅 氏
福島県教育庁	丹野 純一 氏
本校校長	柳沼 英樹 校長

今年度は令和3年7月と令和4年度の1月に協議会を実施した(コンソーシアムの記録については巻末に記載)。

コンソーシアム協議会では、まず本事業の目的や目指す人材育成像の確認を行い、今年度の開発計画の進捗状況を共有し、意見交換を行った。昨年度から双葉郡8町村との連携を面的に広げたので、今年度はその関係強化を進めてきた。具体的には地域の課題を把握するためのインタビュー取材先を福島相双復興推進機構に紹介していただくなどの新たな取り組みを行うことができた。また本校で行ってきた地域の方との連携の状況を説明し、具体的な連携方策について検討いただいた。

また、第2回では7期生1年次生の製作した「トリチウム水」を題材として扱った演劇を観ていただいた。委員の方々から取組みが蓄積され、課題の捉え方が進化しているのご意見を頂いた。

##### (3) 今後の展望

今年度は地域創造と人間生活における演劇プログラムの深化ができたが、2年生以降の「未来創造探究」への

継続性については、引き続き課題が残されている。同じ地域に住んでいるのに多様な意見が出る理由について、複眼的な検証作業をフィールドワークに組み込んでいく必要がある。

#### 3. 3. 2 地域知連携

##### (1) はじめに

本校では開校当初から地域の課題探究活動を学校の教育活動の中心に据えてきた。本校が所在する福島県浜通りは震災原発事故が起きた地域であることから、社会課題が顕在化しており、その課題の解決のために頑張る大人が他地域に比べると多い。このような方々を本校では「地域知を持つ方」あるいは単に「地域知」と呼んでおり、開校から7年目となる現在、「地域知」は増えてきている。一方、ターゲットとする地域が本校の所在する近隣に限定されてきことが課題の一つとなっていた。そこで今年度も双葉郡8町村全域での活動を展開した。

##### (2) 地域知連携

「外部連携を個人的なつながりから組織としての網切りにする」ことを目標に、コンソーシアムを軸とした連携を模索した。また、1年次に行く双葉郡8町村バスツアーで行った場所・出会った人の影響で2年次の探究学習を始まる生徒が増え、生徒が教員を介さずに地域の方々と直接つながる事例が生まれてきた。また、それに伴い、生徒が地域の祭りに参加するなどの取り組みが生まれてきた。

・葛尾村との連携：葛尾村で活動している下枝浩徳氏(葛力創造舎)との繋がりが深くなり、葛尾村でのイベント実施等の探究活動が始まった。

・川内村との連携：葛尾村のケースと同様、1年次のバスツアーで川内村を訪問するようになった。演劇のテーマ設定の場として川内村役場にお願ひし、村長である遠藤雄幸氏にもインタビュー等で関わっていただくことができた。

### (3) 今後の展望

年度当初に目標とした双葉郡8町村への活動展開をほぼ達成することができ、多くの「地域知」と繋がることのできた。教育と地域復興の相乗効果を目指し、この方向性を引き続き継続していく。

## 3. 3. 3 専門知連携

### (1) はじめに

前述した「地域知」に対して、生徒の考えた探究テーマに関連した学術的な見識を持った方を「専門知を持つ方」あるいは単に「専門知」と呼んでいる。本校がある地域には大学や研究機関はほとんどなく、結果的に専門知を持つ方との接点は限定的であった。

### (2) 専門知連携

オンラインの利用が日常的になったことで、今まで地理的な制約で接触できなかった方と容易につながることができるようになり、専門知へのアクセスが容易になった。また、今年度は早稲田大学との連携が強化され、早稲田大学高大連携リエゾンマネジャーを校内に常駐することとなった。このため、主に理系分野の生徒と「専門知」を持つ複数の研究者とのアクセスを容易にし、ふくしま学(楽)会などで生徒が外部研究会に参加することを促す体制が出来上がった。

生徒のテーマと関連のある、適切な専門知につながることも容易ではない。これまでは教員が仲介役を担っていたが、教員の人脈にも限界がある。今年度は、これまでの担当教員の仲介に加え、ふくしま学(楽)会でお世話になっている松岡俊二先生(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授)、永井祐二先生(早稲田大学環境総合研究センター准教授)が仲介役を申し出てくださり、これまで以上に複数の専門知とつながることができた。

### (3) 今後の展望

専門知との連携により、新たな見方、考え方が加わり、探究活動そのものの進展、深化がみられた。今後も引き続きこの環境を活用していきたい。

## 3. 3. 4 国際連携

### (1) はじめに

開校以来、本校は海外国際機関の関係者や、海外の学校との交流を継続してきた。海外研修のみならず、海外から日本への修学旅行や視察・研修の受け入れ実績も

多く、都度、授業内での受け入れ・交流や参加者を募ったプロジェクト型の交流を行ってきた。

COVID-19の感染拡大以後、国内外を行き来しての研修や交流の場面は限られてしまった。しかしながら、Zoomを用いたオンラインでの交流が継続されている。

### (2) 実施内容

授業内交流:イギリスWoodbridge Schoolとの交流(英語表現1 Zoom実施) 本校生徒と現地で日本語を履修している学生と文化交流を行った。

プロジェクトによる交流:ドイツ研修の代替研修として、Ernst Mach Gymnasiumの学生や教職員と交流が続いている。また、NY研修の代替研修として、国内在住の海外留学生を招待し、福島県の浜通り地域を案内するツアーが行われている。(それぞれ後述)

卒業生などの活躍:OECD東北スクールと福島大学の行ったイベントの実行委員として本校の卒業生と教職員がかかわった。また、過年度実際に現地交流を行ってきた9.11家族会との交流は続き、3・4期生がオンライン会合に参加した。その様子はテレビでも報じられた。

AFS生徒との日常生活:母国の政情不安により、昨年度から引き続きミャンマー生1名と、今秋から本校で生活しているベトナム生1名をAFSアジア架け橋プロジェクトから受け入れている。それぞれ2年次と1年次のHRに在籍し、本校生と一緒に学んでいる。普段は寮生活もともにし、閉寮期間中は通学生の自宅にホームステイをした。また、学校行事の代替案として国際問題を取り上げ、全校でパネルディスカッションを行うことに貢献した。

### (3) 成果と課題

オンライン交流によって、つながりを持ち続けることは容易になった。しかしながら、本来直接交流することによって習得されていたであろう身体知は、オンラインによる完全な置き換えがきかないものである。

本校5期生となる現3年生は1年次のドイツ研修を実施することができたが、6期生以降は1度も海外研修の現地渡航ができていない。

今後実施が可能になった場合は、コロナ禍に蓄積されたオンライン交流の技術を駆使した事前研修などを行い、学びの最大化へとつなげたい。



### 3. 3. 5 コラボ・スクール 双葉みらいラボ

コラボ・スクール双葉みらいラボは、生徒たちが放課後に集うコミュニティスペースである。学校と地域の「潮目」の場所として大学生や社会人、地域の大人たちとのナナメの関係に溢れた生徒にとっての学びの場となっている。そこは生徒たちの安心・安全な「居場所」であり、様々なことを挑戦できる「ステージ」でもある。

2019年4月新校舎への移転と共にプレハブ校舎から学校内へ移転して3年目を迎え、様々な法人・個人のご寄付に支えられながら、認定NPO法人カタリバのスタッフが常駐、運営。学校と協働する形で、地域協働スペース、協働学習ルームを使用し、毎日平日の放課後から20時まで運営が行われている。

#### (1) はじめに

コラボ・スクール双葉みらいラボは、ふたば未来学園内の地域協働スペース内に設置。施設内は大きく2つのエリアに分かれている。生徒が自学自習に取り組む協働学習ルーム、生徒が交流の場や居場所として用いる地域協働スペースである。

また施設内には「カフェふう」が併設されており、地域交流の起点として、卒業生や地域の大人なども含め、多様な人材が生徒に関わる場所となっている。

#### (2) 取り組み内容

##### ○困難さへの対応

原発事故での避難経験や居場所不足から起こる心のケアや学習の遅れ、また思春期世代特有の複雑な悩み相談に、居場所支援や学習支援を通して対応している。

居場所支援では、カタリバのスタッフがユースワーカーとして常駐し、コミュニケーションを通して意欲喚起の土台となる「安心安全なセーフプレイス」をつくっており、生徒が先生や親、友だちには相談できないような悩みを打ち明けられる場となっている。

学習支援では、日常においてスタッフが学習指導を行っている。また定期考査前には福島大学と連携し大学生ボランティアによる学習支援を開催している。



～双葉みらいラボでの居場所支援・学習支援の様子～

##### ○地域との連携・協働

双葉みらいラボを活用し、生徒主体で地域の方と打ち合わせやイベントを一緒に実施する姿が見られた。

地域協働スペースには、双葉郡8町村への理解を深めるために各地域の広報誌やイベント情報チラシがカウンターに並べられている。

また、オンラインを活用した地域連携も行われており、「探究・マイプロジェクトオンライン相談会」では、生徒の発表に対して地域の方々がアドバイスをを行い、その後の活動サポートに繋がっている。



～地域協働スペースを通じた地域の方々との交流の様子～

##### ○未来創造探究のサポート

2・3学年で取り組まれる「未来創造探究」のサポートを行っており、双葉みらいラボのスタッフが「未来創造探究」の授業にアドバイザーとして教員とともにゼミ運営を行っている。具体的には、地域の大人・企業の講演やフィールドワークのコーディネーター、生徒同士の議論のファシリテーター等を通して、生徒の学びを広げるサポートを行っている。

また、放課後の時間もさらに探究学習に取り組みたいという生徒に対して、個別で面談を行ったり、資料作成のフォローをしたりしている。

活動に対するフィードバックを受ける場として、「社会貢献活動コンテスト」や「全国高校生マイプロジェクトアワード」などの外部機会に生徒を送り出す支援もしている。

#### (3) 今後の展望

双葉みらいラボには、今年度7,375名の生徒が来館している。今後は地域の方々が双葉みらいラボを活用しながら生徒との接点を持つことにより、生徒主体の地域協働の企画・実践の後押しや、学びと地域復興の相乗効果に貢献できる場所を目指したい。

### 3.4 外部連携実績

#### 1年「地域創造と人間生活」お世話になった方々

活動名	日付	氏名	所属、役職		
コミュニケーションWS	2021.4.16	河野 悟	NPO法人PAVLIC		
		森内 美由紀	NPO法人PAVLIC		
		石本 径代	NPO法人PAVLIC		
		村田 牧子	NPO法人PAVLIC		
演劇WS	2021.4.21	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC		
		河野 悟	NPO法人PAVLIC		
		石本 径代	NPO法人PAVLIC		
		村田 牧子	NPO法人PAVLIC		
		有吉 宣人	NPO法人PAVLIC		
		宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC		
		植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC		
		北村 耕治	NPO法人PAVLIC		
双葉郡バスツアー	2021.7.7	木村 正信	浪江町役場		
		森 雄一朗	一般社団法人ならはみらい		
		松本 淳	株式会社FiveStar		
		堺 亮裕	一般社団法人葛力創造舎		
		松本 佳充	元双葉高校教員		
		磯辺 吉彦	広野わいわいプロジェクト		
		佐藤 亜紀	大熊町復興支援員		
		青木 淑子	3.11富岡町を語る会		
		平山 勉	双葉郡未来会議事務局代表		
		井出 寿一	一般社団法人かわうちラボ		
		演劇創作インタビュー	2021.10.6	鷺 周作	株式会社Jヴィレッジ
				下枝 浩徳	一般社団法人葛力創造舎
松本 佳充	元双葉高校教員				
森亮太	檜葉町				
菅原 文宏	ホテルリーブス代表取締役				
青木 淑子	3.11富岡町を語る会				
鈴木 謙太郎	木戸川漁業				
藤田 大	株式会社島藤本店代表取締役				
平山 勉	双葉郡未来会議事務局代表				
加井 佑佳	東日本史・原子力災害伝承館職員				
秋元 菜々美	富岡町職員				
木村 紀夫	大熊町				
西村 正夫	鹿島建設株式会社				
脇田 伸吾	鹿島建設株式会社				
清田 彰一	鹿島建設株式会社				
水野 静雄	鹿島建設株式会社				
大須賀 勝之	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社				
花井真里奈	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社				
青木 知里	東京電力ホールディングス株式会社				
演劇創作インタビュー	2021.10.13			鷺 周作	株式会社Jヴィレッジ
		菅原 文宏	ホテルリーブス代表取締役		
		鈴木 謙太郎	木戸川漁業		
		森 雄一朗	一般社団法人ならはみらい		
		青木 淑子	3.11富岡町を語る会		
		平山 勉	双葉郡未来会議事務局代表		
		加井 佑佳	東日本史・原子力災害伝承館職員		
		秋元 菜々美	富岡町職員		
		木村 紀夫	大熊町		
		松本 佳充	元双葉高校教員		
		西村 正夫	鹿島建設株式会社		
		脇田 伸吾	鹿島建設株式会社		
		清田 彰一	鹿島建設株式会社		
		水野 静雄	鹿島建設株式会社		
		大須賀 勝之	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社		
		花井真里奈	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社		
		青木 知里	東京電力ホールディングス株式会社		
		下枝 浩徳	一般社団法人葛力創造舎		
		演劇WS	2021.10.20	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
				河野 悟	NPO法人PAVLIC
石本 径代	NPO法人PAVLIC				
森内 美由紀	NPO法人PAVLIC				
有吉 宣人	NPO法人PAVLIC				
宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC				
植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC				
北村 耕治	NPO法人PAVLIC				

活動名	日付	氏名	所属、役職
演劇WS	2021.10.27	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		河野 悟	NPO法人PAVLIC
		石本 径代	NPO法人PAVLIC
		森内 美由紀	NPO法人PAVLIC
		有吉 宣人	NPO法人PAVLIC
		宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC
		植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC
		北村 耕治	NPO法人PAVLIC
演劇創作	2021.10.28	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		河野 悟	NPO法人PAVLIC
		石本 径代	NPO法人PAVLIC
		森内 美由紀	NPO法人PAVLIC
		有吉 宣人	NPO法人PAVLIC
		宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC
		植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC
		北村 耕治	NPO法人PAVLIC
演劇創作	2021.10.29	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		河野 悟	NPO法人PAVLIC
		石本 径代	NPO法人PAVLIC
		森内 美由紀	NPO法人PAVLIC
		有吉 宣人	NPO法人PAVLIC
		宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC
		植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC
		北村 耕治	NPO法人PAVLIC
演劇ブラッシュアップ	2021.11.17	わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		河野 悟	NPO法人PAVLIC
		宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC
演劇創作インタビュー	2021.12.08	植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC
		喜多見 薫	元学校経営支援課主任
		石井 宏和	富岡漁港 長栄丸船長
演劇ブラッシュアップ		わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		石本 径代	NPO法人PAVLIC
		村田 牧子	NPO法人PAVLIC
演劇成果発表会	2021.12.14	宮崎 悠理	NPO法人PAVLIC
		平田オリザ	青年団
		わたなべなおこ	NPO法人PAVLIC
		有吉 宣人	NPO法人PAVLIC
		植浦 菜保子	NPO法人PAVLIC
		石本 径代	NPO法人PAVLIC
		鷲 周作	株式会社Jヴィレッジ
		松本 佳充	元双葉高校教員
		鈴木 謙太郎	木戸川漁業
		平山 勉	双葉郡未来会議事務局代表
		青木 知里	東京電力ホールディングス株式会社
		園部 隆	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社
		日比 賢二	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社
		下枝 浩徳	一般社団法人葛力創造舎
		西村 正夫	鹿島建設株式会社
		脇田 伸吾	鹿島建設株式会社
		西村 聡	鹿島建設株式会社
吉越 巧	鹿島建設株式会社		
小田 浩暉	鹿島建設株式会社		
青木 淑子	3.11富岡町を語る会		
藤田 大	株式会社鳥藤本店代表取締役		
大須賀 勝之	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社		
花井真里奈	東京電力ホールディングス株式会社TEPCO福島復興本社		
清田 彰一	鹿島建設株式会社		
水野 静雄	鹿島建設株式会社		
新井 和仁	鹿島建設株式会社		
加井 佑佳	東日本史・原子力災害伝承館職員		
秋元 菜々美	富岡町職員		
木村 紀夫	大熊町		
高遠菜穂子	イラク人道支援ワーカー		
国際理解教育	2021.12.15	高遠菜穂子	イラク人道支援ワーカー
マインドマップ講座	2022.1.19	内山 雅人	一般社団法人学びコミュニケーション協会代表



## 2年 未来創造探究 まとめ

探究ゼミ名	日付	氏名	所属、役職
原子力防災探究ゼミ	複数回	横須賀 幸一	富岡町観光協会事務局長
原子力防災探究ゼミ	複数回	猪狩 幸子	富岡町観光協会
原子力防災探究ゼミ	複数回	岩清水 銀士朗	株式会社いわきスポーツクラブいわきFC経営企画室室長
原子力防災探究ゼミ	複数回	川崎 渉	株式会社いわきスポーツクラブいわきFCプロモーションチームマネージャー
原子力防災探究ゼミ	複数回	石河 美菜	NPO法人クラブス
原子力防災探究ゼミ	複数回	日野 涼音	東北芸術工科大学
原子力防災探究ゼミ	複数回		東北チアプロジェクト
原子力防災探究ゼミ	複数回		クラブスチアリーダーズ
原子力防災探究ゼミ	複数回		みんなの交流館ならはCANvas
原子力防災探究ゼミ	複数回		富岡町文化交流センター学びの森
原子力防災探究ゼミ	複数回	小松 和真	広野町復興企画課課長
原子力防災探究ゼミ	複数回	大森 博隆	広野町広野暮らし相談窓口「りんくひろの」相談員
原子力防災探究ゼミ	複数回	磯辺 吉彦	特定非営利活動法人広野わいわいプロジェクト 事務局長、ちやのまプロジェクト
原子力防災探究ゼミ	複数回		NPO法人いわきイルミネーションプロジェクトチーム
原子力防災探究ゼミ	複数回	青木 淑子	
原子力防災探究ゼミ	複数回	松本 登志枝	広野町食生活改善推進協議会会長
原子力防災探究ゼミ	複数回	及川	
原子力防災探究ゼミ	複数回	石井	
原子力防災探究ゼミ	複数回	小豆畑 望	株式会社公益財団法人ふくしま海洋科学館命の教育チーム指導主事
原子力防災探究ゼミ	複数回	佐藤 勇樹	Bridge for Fukushima
原子力防災探究ゼミ	複数回	佐藤 至子	Bridge for Fukushima
原子力防災探究ゼミ	複数回	辺見 珠美	
原子力防災探究ゼミ	複数回	鈴木 みなみ	
原子力防災探究ゼミ	複数回	吉田 恵美子	
原子力防災探究ゼミ	複数回	大和田	みかんクラブ
原子力防災探究ゼミ	複数回	薄井 健文	双葉郡富岡町立富岡第一小学校 教頭
原子力防災探究ゼミ	複数回	松本 涼一	檜葉町立檜葉北小学校 教頭
原子力防災探究ゼミ	複数回	阿部 加奈子	広野町こども家庭課 係長
原子力防災探究ゼミ	複数回	桜井 聖子	広野町公民館生涯学習課 会計年度任用職員
原子力防災探究ゼミ	複数回	石上 克洋	福島県相双地方振興局県民環境部県民生活課 主事
原子力防災探究ゼミ	複数回	大場 美奈	広野町起業型地域おこし協力隊、ちやのまプロジェクト 代表
原子力防災探究ゼミ	複数回	遠藤 一善	富岡町議会議員
原子力防災探究ゼミ	複数回	山根 辰洋	双葉町議会議員、一般社団法人双葉郡地域観光研究協会
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.3.23	吉田 恵美子	NPO法人ザ・ピープル
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.10.18	吉川 彰浩	一般社団法人AFW
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.10.27	小波津 龍平	クムト
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	大和田 徹	広野町役場復興企画課
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	北郷 功	広野町役場復興企画課
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.7.17		いわきアカデミア協進議会
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.10.27	猪狩 僚	いわき市役所保健福祉部
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.7.7	中津	広野町振興公社代表取締役兼社長
メディア・コミュニケーション探究ゼミ		下枝、篠田、半澤	葛尾野外劇関係者
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.7		アニメツーリズム協会
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.9	吉田 徹	アニメーター
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.5	渡辺 正勝	元役場職員(生徒の祖父)
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.8	新妻 良平	広野町の農業家
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.8	佐久間 辰一	田村氏の農業家
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.8	菊地 英文	鳴子温泉観光協会
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.7		母園・横浜バーン
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回		twitterで知り合った海外の学生
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	2021.10.27	平山 勉	ふたばインフォ
メディア・コミュニケーション探究ゼミ	複数回	青木 裕介	ぷらっとあっと
再生可能エネルギー探究	2021.6	松元 孝一	ドローン企画 一級建築士事務所
再生可能エネルギー探究	2021.6	渡邊友歩	浪江町役場 産業振興課
再生可能エネルギー探究	2021.7	小沢晴司	宮城大学 事業構想学群
再生可能エネルギー探究	2021.1	原田正光	福島工業高等専門学校 都市システム工学科
再生可能エネルギー探究	2021.12	永井祐二	早稲田大学 環境総合研究センター
再生可能エネルギー探究	2021.12	山田美香	早稲田大学
再生可能エネルギー探究	2021.12	青木裕介	プラットアット

探究ゼミ名	日付	氏名	所属、役職
アグリ・ビジネス探究ゼミ	複数回	三戸 豪士	GSauto
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.10.13	古林 秀雄	株式会社 レイス(RACE Co.,Ltd.)工場長
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.10.13	國井 佳奈	株式会社 レイス(RACE Co.,Ltd.)研究部係長
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.12	松本 正人	広野町副町長
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.12	根本 明和	広野町産業振興課
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野町みかんクラブ
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野小学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野町役場総務課
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野町認定こども園
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	権丈 泰巳	日本パラサイクリング連盟専務理事
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	寺澤 亜彩加	noreru
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		ふたば未来学園高校教職員
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		いわきFC
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	今井 純子	日本サッカー協会女子委員長
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	佐藤 慶	福島県サッカー協会
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	林 雄一	勿来フォーウインズ監督
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		Jヴィレッジ
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	青木 淑子	NPO法人3.11を語る会 代表
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		スポGOMI
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	馬見塚 健一	ソーシャルスポーツイニシアチブ
健康と福祉探究ゼミ	複数回	江川 賢一	東京家政学院大学
健康と福祉探究ゼミ	複数回	永井 祐二	早稲田大学
健康と福祉探究ゼミ	複数回	水口 公美	ふたば未来学園中学校 栄養教諭
健康と福祉探究ゼミ	複数回		広野町立こども園
健康と福祉探究ゼミ	複数回		リリー園
健康と福祉探究ゼミ	複数回		南相馬市小高区
健康と福祉探究ゼミ	複数回		広野町立こども園
健康と福祉探究ゼミ	複数回		富岡特別支援学校
健康と福祉探究ゼミ	複数回		檜葉町役場

### 3年 未来創造探究 まとめ

探究ゼミ	日付	氏名	所属、役職
原子力防災探究ゼミ	複数回	中津弘文	広野町振興公社
原子力防災探究ゼミ	複数回	西本由美子	特定非営利法人ハッピーロードネット
原子力防災探究ゼミ	複数回	橋爪清成	福島高校
原子力防災探究ゼミ	複数回	高橋洋充	福島県立福島東高等学校
原子力防災探究ゼミ	複数回	吉田秀亨	古代製鐵研究所 所長／川俣町教育委員会生涯教育課 主任専門員
原子力防災探究ゼミ	複数回	高島祥太	福島県いわき市遠野町地域起こし協力隊
原子力防災探究ゼミ	複数回	平子めぐみ	福島県いわき市遠野町地域起こし協力隊
原子力防災探究ゼミ	複数回	小林祐子	福島県いわき市遠野町地域起こし協力隊
原子力防災探究ゼミ	複数回	吉川彰浩	一般社団法人AFW
原子力防災探究ゼミ	複数回	澤田哲生	東京工業大学
原子力防災探究ゼミ	複数回	高橋徹治	原子力発電環境整備機構
原子力防災探究ゼミ	複数回	松本淳	株式会社Five Star
原子力防災探究ゼミ	複数回	高橋大就	一般社団法人 東の食の会
原子力防災探究ゼミ	複数回	前司昭博	一般社団法人 浪江町商工会議所
原子力防災探究ゼミ	複数回	安達 有希	NARA-ROMA.COM
原子力防災探究ゼミ	複数回		公益社団法人 福島相双復興推進機構
原子力防災探究ゼミ	複数回	先崎信一	常磐共同ガス株式会社 エナジーパークひろの
原子力防災探究ゼミ	複数回		東日本大震災・原子力災害伝承館
原子力防災探究ゼミ	複数回	齋藤健一	いわき市役所遠野支所
原子力防災探究ゼミ	複数回	松岡教授	早稲田大学
原子力防災探究ゼミ	複数回	永井祐二	早稲田大学
原子力防災探究ゼミ	複数回	藤安将平刀匠	
原子力防災探究ゼミ	複数回	高橋徹治	原子力発電環境整備機構
原子力防災探究ゼミ	複数回	石本 豊昭	原発のごみ処分を考える会
原子力防災探究ゼミ	複数回	永田 夏樹	一般社団法人 日本原子力文化財団
原子力防災探究ゼミ	複数回	碓井 天津博	東京電力ホールディングス株式会社
原子力防災探究ゼミ	複数回	加藤正人	東京電力ホールディングス株式会社
原子力防災探究ゼミ	複数回	庄司結衣	浪江プロモーション課
原子力防災探究ゼミ	複数回	田河 朋裕	なみえ焼きそば製麺所 旭屋
原子力防災探究ゼミ	複数回	下枝浩徳	葛力創造舎
原子力防災探究ゼミ	複数回	那須名奈子	一般社団法人ふたばプロジェクト
原子力防災探究ゼミ	複数回	祓川正道	一般社団法人ふたばプロジェクト
原子力防災探究ゼミ	複数回	石上 崇	一般社団法人ふたばプロジェクト
原子力防災探究ゼミ	複数回	高橋洋充	福島県立福島東高等学校
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021.6.16	菅波 香織	
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021.6.16	田子恵子	放デイU.AND舎代表
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021.6.16	藁谷弘子	Re.yoga.Lotusの代表
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021.6.23	猪狩幸子	富岡町観光協会
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	平山勉	ふたばいんふお
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	青木 裕介	ひろのパソコン教室
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	堀江莉帆	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	高橋七海	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	秋山杏由子	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	森崎陽	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	及川滉太	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	吉田智美	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	佐藤勇樹	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	山澤世和	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	田口未来	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	遠藤匠	OBOG
ｽﾏｰｲﾌﾞｺﾐｬﾝｴｰｼｮﾝ探究ゼミ	2021	猪狩幸子	富岡町観光協会
再生可能エネルギー探究ゼミ	複数回	鈴木 正範	NPO法人浅見川ゆめ会議 理事長
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.5.1	高荒 智子	福島高等専門学校建設工学科 准教授
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.6.23	松本 幸英	双葉地方水道企業団 企業長
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.6.23	松本 有加	双葉地方水道企業団
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.7.7		東京電力廃炉資料館
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.10.20		櫛葉遠隔技術開発センター
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.11.17	松本 広行	櫛葉町ユズ研究会 会長



探究ゼミ	日付	氏名	所属、役職
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.12.8	永井 祐二	早稲田大学理工学術院 環境総合研究センター 主任研究員
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.12.21	日比 賢二	東京電力ホールディングス株式会社福島復興本社部長
再生可能エネルギー探究ゼミ	2021.12.21	大須賀 勝之	東京電力ホールディングス株式会社福島復興本社副部長
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.7.17	西崎 芽衣	ならはみらい
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.7.17	木村 英一	ならはみらい
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.8	李 洸昊	早稲田大学
アグリ・ビジネス探究ゼミ	2021.12	坂上 英和	NPO法人コースター
アグリ・ビジネス探究ゼミ	複数回	猪狩幸子	富岡町観光協会
アグリ・ビジネス探究ゼミ	複数回	中津 弘文	広野町振興公社
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	大和田さん	広野町みかんクラブ 代表
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野小学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		檜葉北南小学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野中学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		檜葉中学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	小名山さん	Jヴィレッジ
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	明石さん	Jヴィレッジ
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		いわきFC
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野野球スポーツ少年団
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	佐藤さん	富岡さくらスポーツクラブ
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		NPO法人 うつくしまスポーツルーターズ
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広野町認定こども園
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		広桜荘
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		つくし会
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		富岡支援学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		県内特別支援学校
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		潮田玲子さん
スポーツと健康探究ゼミ	複数回	檜山さん	JFAメディカルセンター
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		二ツ沼総合運動公園
スポーツと健康探究ゼミ	複数回		東日本国際大学
健康と福祉探究ゼミ	2021.4.2	青木裕介	多世代交流スペースぷらっとあっと
健康と福祉探究ゼミ	2021.4.2	大場美奈	多世代交流スペースぷらっとあっと
健康と福祉探究ゼミ	2021.7.17	後藤采納	長岡造形大学
健康と福祉探究ゼミ	複数回	遠藤浩一	広野町居宅介護支援事業所 広桜荘
健康と福祉探究ゼミ	2021.6.18	松本聡二	広野小学校 教頭
健康と福祉探究ゼミ	複数回	櫻井聖子	広野町公民館
健康と福祉探究ゼミ	2021.6	古内伸一	広野町社会福祉協議会
健康と福祉探究ゼミ	複数回	小林誠	高野病院 看護部主任

### 3. 5 未来研究会

変革者としての生徒の資質能力向上と、教員の指導力向上のために行われてきたのが本校の現職教育「未来研究会」である。地域・世界の中の学校として、どのようなカリキュラムが実現されるべきかについて、その具体策について教職員どうしが議論を行い、外部から講師を招待しカリキュラムの実現に必要な知見を得る機会として開校時から行われてきた。しかしながら、中高一貫校としての完成年度となる今年度当初、本校教職員の多忙感の解消(Teacher's Well-being の実現)については課題があった。

#### (1) はじめに

中高のそれぞれの現職教育の計画や学校行事のスケジュールをもとに、今年度の未来研究会の方針を策定した。

ルーブリックの活用方法(形成的評価へのつなげかた・ルーブリック面談のコツ)や、**変革者としての資質・能力の向上を意識した場面を組み込んだ授業の在り方**を未来研究会の中で議論することで、中高横断で資質・能力の育成に取り組むことを目指し、今年度の未来研究会として次のような内容を取り扱うこととした

#### (2) 実施内容

年度当初に検討された内容は以下の通り。

##### ①ルーブリックの活用方法や資質能力伸長の評価方法についての共有

ルーブリックの資質・能力を、中高の探究や各教科等の授業を通じて高める方策について、高校でも次年度より始まる観点別評価(学習評価の3観点)とルーブリックによる形成的評価の関連について、中学教員の知見も生かしながら議論する。

##### ②探究活動指導法の研修

中高で探究活動指導方法を共有し、日常の指導に直結する形で指導法を議論する。

##### ③外部講師来校時等のワークショップ

哲学対話や演劇製作の講師によるWSや他地域や他国の方と生徒・教師が対話や議論を行う機会を保障する。

##### ④外部研修・外部発表の伝達研修

大学や他校での探究指導方法の講義(オンライン含)や、本校来校者へのプレゼンテーションなどでの発信内容を共有。

##### ⑤クロスカリキュラム関係

昨年度までの実践を生かし、より「普段使い」で「年間計画から大きくそれない」形で実現。

#### (3) 成果(2021年末時点)

##### ①7月 互見授業期間

8月5日 互見授業期間振り返り研修

##### ②4月5日 着任者フィールドワーク

5月19日 ICT活用研究会

##### ③6月25日 北角裕樹氏講演会

11月11日 飯盛義徳氏・田熊美保氏ワークショップ

##### ④福島大学にて講義

##### ⑤各教科で複数回実施

#### (4) 課題と展望



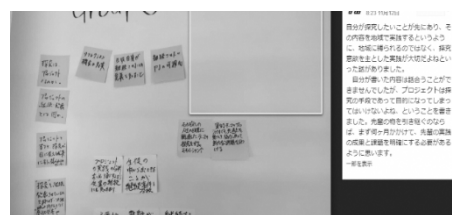
参加者と欠席者が継続したアイデア出しをするためのジャムボード



北角氏による講演会のYouTubeの共有



飯盛氏・田熊氏とのワークショップ、講演会の動画の共有。



ワークショップ中に使用された模造紙を写真で共有した。オンラインでコメントが付いた。

未来研究会として持続していくうえで、今後の課題となるのは、中高の接続を教員の中でもスムーズに行える体制づくりと実施までのプロセスの効率化である。

前者について、現状は、高校教員が中学の授業を担当する方法での交流を行っているが、中高をまたいで探究的な学びの橋渡しをするような機会や、6年間を見通した探究活動のデザインについての共有知が十分ではない。学校文化の異なる部分を強みにして、中高接続時に学びが止まらないカリキュラムにしていくことが求められる。

中高共通して早急に必要とされるオンライン授業に関する研修については、年度初めの段階で実施したことにより、突然の休校時にもスムーズにオンライン授業に取り組む体制づくりにつながった。現職教育についての中高それぞれのニーズを改めて考え、適切な時期に実施することで、今年度のオンライン授業研修のように、納得感のある教員研修を行うことにつながるのではないかと感じた。

後者について、これまでの未来研究会は考查期間中にまとめて行われることが多かった。しかし、完成年度に差し掛かり、中高それぞれの考查期間がずれ、多忙な時期もそれぞれずれてきた。これまでの形で持続していくことが難しくなっている。また、外部講師に依頼を行い、人を集めて集合研修を行うまでの手続きも、持続させることを困難にさせる一因となっている。

中高それぞれの探究活動に向けた指導者の月次会や打ち合わせは定期的に行われている。このような、日常の会合から学ぶことは多い。今年度十分に周知することはかなわなかったが、他学年やゼミの会合にオブザーバーとして気軽に参加できるような風通しも必要ではないかと考える。

主体的、創造的、協働的な学びを実現するためには「エージェンシー」の高まりが必要である。OECDによれば、これは、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」を言う。

しかし生徒エージェンシーは一人だけではぐくまれるものではない。共同エージェンシーとして、親や仲間、教師や地域住民等との交流の中で身に付いていくものでもある。

未来研究会の中で、「生徒プロジェクト継続性と学びの深化が両立可能なものであるか」を議論してきたが、今後の教員チームの現職教育を通して、校内外のステークホルダーと協働して、主体的・創造的・協働的な学びを実現できるようにしたい。



## 4 ICTの活用

COVID-19の感染が拡大し、学校が臨時休校になることで生徒の学びが止まってしまうぬよう、本校では2020年からICTワーキンググループが発足した。オンライン環境を活用した学習について校内外の関係者と取り組みを共有し、緊急事態に備えるだけでなく、主体的・創造的・協働的な学びの実現をするための手段として活用していくことにした。

### 4. 1 経緯

2022年1月、COVID-19第6波により、日本全国では今まで感染の広がりの少なかった若年層を中心に多数の感染者集団(クラスター)が発生した。本校も臨時休業を経験した。これまでの取り組みの蓄積や普段の取り組みから、本校はスムーズにオンライン学習に移行することができた。

本校は、東日本大震災後、原子力災害によって休校となった双葉郡5校の教育を汲んでいる。2011年の震災時には、生徒・家族の安否確認の連絡がつくまでに相当な時間を要した。学校が再開されるまでにはさらに長い時間がかかり、生徒と教師がつながっていることも困難であった。

震災から10年ほどが経過し、COVID-19により休校となっても、「一人も見捨てない。学びを止めない」をスローガンに学校が一丸となって遠隔授業を行う原動力でICTワーキンググループが結成された。

コロナ禍以前も、原子力災害で避難した生徒が通う学校は県内各所にサテライト校舎を開いた。散り散りになった生徒たちは、ビデオ会議で顔を合わせることも行っていた。また、本校の海外研修プロジェクトや探究活動では、活動の進捗や成果の共有のため、積極的にICTやインターネットを活用してきた。ニュージーランドの関係者とビデオ会議を行ったこともある。

文部科学省からの通知やGIGAスクール構想、各県・各市町村教育委員会が提供するオンライン支援を受け、学習指導要領が変わることも相まって、オンライン授業に必要な機材環境などは徐々に整ってきているようにも感じられる。

緊急事態宣言下に行ったオンライン学習や、登校が可能になったあとも、オンラインの学習環境を活用した対面学習から得られたのは、緊急事態のためにICTを備蓄しておくことではなく、コミュニケーションツールとして、学習の質を高めていくことへの期待感と、教員個人の活用技術の格差や与えられた人的資源の中でICTを活用したカリキュラムが実施可能かどうかという不安感である。

これまでに行われてきた議論も常に心に置きながら、学びを止めないレジリエンスのある学校にしていきたいと考えた。

### 4. 2 内容

#### (1) 今年度体制

企画研究開発部 塩田を責任者として、高校企画研究開発部より5名、中高教務部より4名、進路指導部より1名、カタリバ職員から2名をメンバーとしてワーキンググループ(以下WG)を結成した。授業者・担任・実践経験の視点を踏まえ、WGの検討事項の議論に参加する教員を「指名協力者」として、中高各学年の担任団から1名ずつ指名した。指名協力者を中心に全教員が実践事例の情報提供等でWGに協力する体制とした。

WGで検討を重ねる内容は次の通り。

- ①本校におけるICT活用事例の整理(形態、長所短所、留意点等)
- ②今後臨時休業や複数名同時出停が発生した際の、望ましいICT活用形態の検討(学活・HR、授業、課題進捗確認、面談、みらいラボ等)
- ③組織的対応のための環境整備
- ④その他本WGの目的達成に必要な事項

#### (2) オンライン授業のための講習会

主に今年度着任した職員向けに、未来研究会を実施した。Zoomの基本操作と、Google classroomの基本操作について取り扱った。

The image shows a slide from a training session. At the top, it says '令和3年度未来研究会 Zoom 授業活用' (Future Research Association 2021 Zoom Lesson Utilization). Below this is the Zoom logo and the text '令和3年5月19日 企画研究開発部・ふたば未来学園ICT-WG'. The slide is divided into two main sections. The left section is titled 'Zoom' and lists: '会議(授業)を主催する、会議(授業)に参加するホストになる', '各種機能を使う', '画面共有をする', and '会議を終了する'. The right section is titled '① 生徒がメールを見て参加誘導する。' and contains instructions: 'スマートフォンにフィルタリングがかかっている場合、生徒が招待メールを要らない、保護者に一時的にフィルタを解除してもらうか、個人のアドレスでクラスコードからのログインを促す。(緊急事態下、連絡がつかない場合は一審官にて、HIS には授業に参加させる。HIS でつながっていないらば、ログインできない生徒にクラスコードを送付してあげることが可能。)', '② クラスコードからログインさせる', '講習作成時にクラスコードが発行される。(トップ画面内やページの設定ボタンで表示可)', '授業で', '① 教室の座席に置く', '② 席間などで伝える', '③ 席間 HIS 経由でコードを示す', '等で生徒にログインさせる。(生徒がタブレットなら chrome から開かせ、ケータイならアプリをインストールさせて起動させる。アプリでもいいですが同じアカウントを使わせる。)', and '生徒がログインする際の注意事項: 学校で共有しているアカウントは個人のキーボードでは使わない。(後とから判別がつかなくなる。ラッキー番号したマイドライブが他人に見られる。)'

### (3) 各学校行事オンラインハイブリッド化

#### 「未来フォーラム」

今年度は COVID-19 第 5 波の影響により、文化祭を行うことができなかった。学校内で議論を行い、代替行事として「未来フォーラム」を実施した。外部講師と留学生を含む本校生徒代表数名のパネルディスカッションに、フロアの生徒がオンラインで意見を投稿する形態をとった。壇上のファシリテーターが適宜意見を取り上げ、ディスカッションに反映させていった。

#### 「未来創造探究成果発表会」

今年度の成果発表会については、中高 6 学年の完成年度となり、中学 3 年次と高校 3 年次の発表会が同時に開催されることとなった。また、探究的な学びが活発になってきたことにより、発表プロジェクト数が増加し、効率的かつ公正に最終発表に進出するプロジェクトを選定する必要があった。

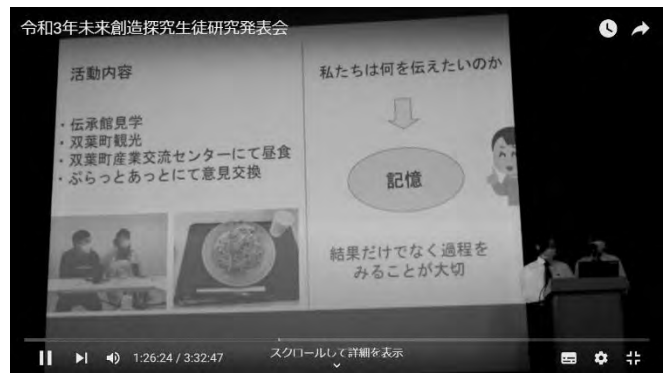
そこで、各ゼミ内での事前審査において全プロジェクトの発表を録画し、外部・内部の審査員に共有するために、Flipgrid というアプリを使用することにした。これは前年度から、主に本校英語科の授業で授業内の交流活動に使用してきたものである。



発表会のグループを作成し、各ゼミの名称でトピックを作成した。それぞれのトピックに生徒は発表の様子を収録した動画をアップロードし、その QR コードや URL を各審査員に共有した。



当日体育館で行った全体会については、発表の様子を各教室に Zoom で配信し、遠隔参加している外部審査員や保護者にも同じ Zoom で発表をリアルタイムで視聴いただいた。



### (4) Google アプリセットの活用方法共有

Google Classroom 以外にも、生徒・教師が普段使いできる技術として、複数のアプリの活用方法を提案した。なお、生徒が 1 人 1 つずつ与えられている momo.fcs.ed.jp のアカウントは google をもとにしているので、以下のアプリセットは生徒のタブレット等との親和性も高い。

**Google Forms** : 前年度から頻繁に活用されている。生徒が探究活動で作成する機会も多くなってきており、教師向けには未来研究会で使用方法の資料を共有した。



#### Jamboard :

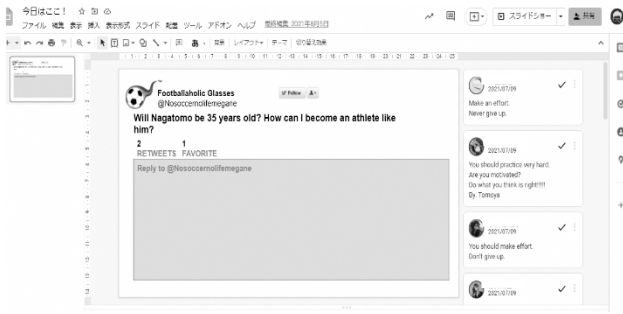
授業中に活用することもできるが、教員研修でも密になる環境を避け、当日欠席者が活用できるように用いた。県教育センターの研修で用いられている教科もある。



**Google Slide** : 授業内で教師がプレゼンテーションで用いるだけでなく、能動的に言語活動に参加できる手法を英語科の研究授業で取り扱った。以下のようなやり方が考えられる。

#### 「コメント欄活用型」

- ① 教師がプレゼンテーション用の Slide を作成し、言語活動に用いるスライドを最後に入れる。
- ② 言語活動のタイミングで、教師が開いているものと同じファイル・スライドを共有ドライブから開かせる。(コメント可能閲覧者)
- ③ 発問への回答をコメント欄に記入させる。



[高校コミュニケーション英語 I の言語活動において、SNS 投稿を模したスライドに、参加生徒がコメントを付けた様子。]

### 「スライド編集型」

- ① 教師がプレゼンテーション用の Slide を作成し、言語活動に用いるスライドを最後に入れる。
- ② 言語活動に用いるスライドのみ必要分複製し、生徒には個人・ペア・グループ単位でスライドを編集するように指示する。
- ③ 生徒は編集したスライドを活用して発表をする。
- ④ 聴衆は発表者と同じスライドを開き、コメント欄にフィードバックを記入する。



[中学 3 年英語の授業で新しい ALT に英語でミニプレゼン。原本スライドを複製しているのので、短時間で生徒が編集可能。]

コメント欄活用型については、高校 1 年生の英語科の授業内で、スライド編集型については、コメントの部分抜きにして中学 3 年生の授業の中で実施した。生徒がリモートで参加する授業や、後述のハイフレックス型の中でも活用が可能な方法である。一方で、生徒・教師それぞれにある程度の技術と準備が求められるため、対面授業のうちに活用方法が共有される必要がある。

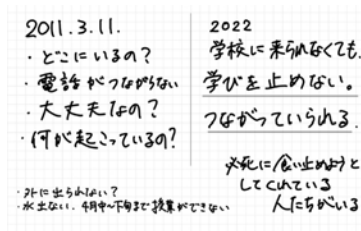
### (5) 臨時休校中のオンライン授業

今年度は、2021 年の 8 月末に 1 度目、2022 年の 2 月上旬には、COVID-19 第 6 波による 2 度目の臨時休校があった。

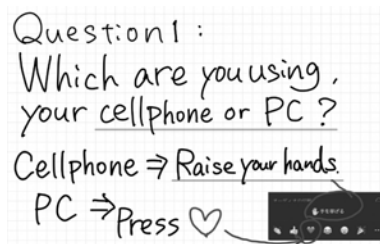
1 度目の休校期間中は、休校クラスのホームルームなどにおける体調確認等で Zoom を活用した。

2 度目の休校期間は 2 週間程度続いたため、最初の 1 週間を生徒が一切登校せずに授業に参加するフルリモート型、翌週を後述のハイフレックス型で行った。

フルリモート型では、リアルタイムの Zoom 授業を行った教科と課題配信型で行った教科、課題配信後にリアルタイムの授業で補充学習を行う方式も見られた。出席停止の生徒に不利益を生じさせず、これまで掲げてきた「学びを止めない」姿勢が、早急なオンライン授業への切り替えにつながった。

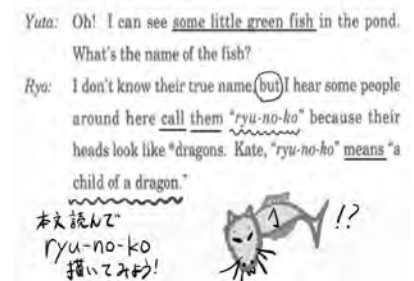


[初めてオンライン参加した生徒との目線合わせに使用した手書きスライド]



[オンライン授業のアイズブレイク、反応ボタンの操作確認を兼ねる]

[オンライン授業で使用したスライド。手元に教材がない生徒もいるため、スマートフォンでも視認可能な大きさでテキストを準備。本文を読み取り、想起される生き物を図示する活動。]



### (6) ハイフレックス(Hybrid-Flexible) 型授業

今年度 2 度目の臨時休校期間は、感染終息のスケジュールを見ながら、分散登校を行うこととなった。とはいえ、中高一貫の本校は、生徒数も多く、通学には公共交通機関を使用する生徒が多いため、登校時間を分けただけの分散登校では対応しきれない事情があった。そこで本校は分散登校の一形態として、ハイフレックス(Hybrid-Flexible)型の分散登校へと移行した。国外研修でつながりのある学校では、3 グループ(分散①・分散②・フルリモート)に分けたハイフレックス型で実施しているところもあった。



**中学生：**時間をずらした分散登校で出席停止生徒や出席に不安のある生徒への授業配信

**高校生：**1 学年を午前中登校、2 学年を午後登校にすることに加えて、曜日ごとに登校する生徒を指定する。登校日に当たらない生徒と出席停止生徒、出席に不安のある生徒に授業を配信する。

#### 高校1年次

月曜1・3組 火曜2・4組  
水曜1・3組 木曜2・4組…

#### 高校2年次

月曜1・4組 火曜2・3組  
水曜1・4組 木曜2・3組…



〔登校日ではない生徒の分、距離を開けて着席する。スクリーンには、リモート出席の生徒や教師の手元の資料が共有されている。〕

### 4. 3 考察

今年度は、必要性に迫られ、急遽ハイフレックス型の分散登校を実施した。導入期に苦労はするものの、本校ではスムーズに実施された。各部・学年から ICT ワーキンググループにメンバーが所属し、特に教務部からオンライン授業の時間割等が速やかに提案されたことで、適切に学校の日課が定まり、生徒も生活リズムを崩さずにオンライン授業に参加できることにつながった。また、学校外の関係者等と多くかかわりを持ち、ICT の活用の実績が多くあった企画研究開発部からメンバーが所属したことで、教務メンバーが生徒の動線を的確に準備し、企画研究開発部からは技術的な準備を行うという分担ができた。このワーキンググループ体制が、オンライン授業の実施に大きく貢献したといえる。

ここ2年ほどで、GIGA スクール構想のもと、児童生徒に1人1台のタブレット端末が行きわたり始めた。しかしながら、現状では非常時のために備えて使わずにとっておく学校や、出席停止になった生徒に対して補充学習を行うことに使わず、ただひたすら出席停止が明けるのを待っている子供たちも少なくない。本校でも、1日~2日程度の欠席生徒には即座に授業配信等をしていなかった。技術的には可能である以上、今後は一人も取り残さない指導にも活用されていくことが求められる。

### 4. 4 今後の展望

前述のとおり、ICT は備蓄しておくものではなく、生徒の学ぶ権利の保障と主体的・創造的・協働的な学びの実現のために、活用されるべきものである。今後は教師方にも1人1台端末が導入され、ICT を活用した授業への期待は高まっていくことになる。

しかしながら、今後、ICT が日常使いになっていくまでには、本校のみならず、各校乗り越えていかなければならない課題として次のことが考えられる。

- ① 生徒用端末、教師用端末の導入に伴う機器の設定とメンテナンスを行うことのできる、熟達した技術者の確保や校内外研修の充実。
- ② ICT 活用についての指導方法の蓄積と活用を行う上で、チャレンジ精神のある学校文化の創造
- ③ 情報リテラシー・情報モラルの指導
- ④ 安定した通信回線の確保

生徒の Well-being を高めるために導入された ICT によって、特定の教師の Well-being が損なわれている学校の話も耳にする。生徒用タブレットの設定やメンテナンス等を特定の個人が請け負っている例である。本校にも来校している ICT 支援員のような専門知識のある技術者の力を借りながら、課題解決を図っていきたい。

本校の例のように、校内部署を横断したワーキンググループとして活動することで、ICT 技術は特定の教員のみ技術ではなく、共有知化が進む。未来研究会のような現職教育の場面でさらに活用を推進していきたい。

## 5. 1 ルーブリック評価

本校では生徒の資質・能力をはかる指標のひとつとして独自のルーブリックを作成し、定期的に評価を行っている。ルーブリックは本校で育成したい生徒像でもあり、これを用いた面談も行いながら、総括的評価としてだけでなく、形成的評価として活用し、生徒の目標設定等に活かしている。ここではルーブリックの推移を分析し、本校生の特徴や学年ごとの特徴等について考察する。

### (1) はじめに

平成27年度に開校した本校では、「未来創造型教育」を目指すグランドデザインの下、開校直後4月、教員全員による教員研修会(本校では「未来研究会」と称する)を実施した。県下全域から赴任した教員集団はそれぞれの想いを抱きスタートを切った。そこで、新しい学校・教育としての「育成したい生徒像」としての共通イメージを持ち、互いに意思疎通を深めていくために、ワークショップ形式での意見交換会を行った。

開校当時、入学してきた子供たちの8割は原発事故で避難を強いられた地域の出身であった。子供たちの状況は多様だが、数カ所の避難先を転々とし、学力に課題を抱えている子供も多かった。また、避難する中で不登校となってしまった生徒も存在した。一方で、地元への愛着や、世界からの支援に対する感謝の気持ちから、社会に貢献したいという意欲の強さも感じられた。「この子供たちが卒業する3年後に、どのような姿になっていて欲しいか」教職員全員が付箋に書き込み、出し合いながら議論を重ねた。

研修後、「育成したい生徒像」に必要な「育成したい能力」を分析し、共通項をまとめると同時に、本校の校訓である「自立」「創造」「協働」を意識し、福島県双葉郡教育復興ビジョン、OECD キーコンピテンシー等の内容を踏まえ、本校のルーブリックを作成した(巻末関係資料参照)。

ルーブリックの言葉の一つ一つに、教職員の感覚や想いが反映されている。例えば、「寛容さ～異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協調して共に高めようとする事ができる」という項目である。この地域は今、放射線の安全性に関する考えが違う者同士の衝突や、避難した人と帰還した人との気持ちのすれ違いなどに直面している。考えの違う人を排除しても地域復興はままならない。仕事をする上でも生活をすることも、考えの違う他者との関わり合い無くして成り立たない。考えの違う人を説得していく交渉力と

言うより、異なる考えも受け入れ、ユーモアを持って接し、包み込んでいく「あたたかさ」が必要であると私たち教職員は考えた。この力が土台となって、別の項目に定義された「他者との協働力」が発揮される。

また、「表現・発信力～どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる」という項目も同じように教職員の想いが詰まっている。震災や原発事故のバックグラウンドを否応なく背負ってしまった子供たちは、世界中のどこに行っても意見を求められる。その時、言葉を発せず沈黙すれば、風化や風評に繋がっていく。例え突然指名されたときでも、自分の言葉で語れることが大切だ。話し相手のバックグラウンドも考えながら、定量的なデータの説明や定性的な復興のストーリーを組み合わせ、情緒にも働きかけながら相手の心を動かす力が求められる。

開校して真っ先に行ったのが、このルーブリックの設定である。目指す資質・能力を明確化して、その目標に向けて学校をあげて取り組むために、よそから借りてきた表面的な言葉では無く、自分たちの視点・言葉で定義することを重視した、学校全体の欠かせない出発点である。指導の重点の設定も、授業の展開も、学習の評価も、学校評価も、このルーブリックと関連づけながら展開していくことを目指している。

開校から7年が経過し、ルーブリック評価は学校に定着している。当初は年度終了時に生徒がどの程度資質能力を伸ばしてきたか検証する、いわゆる「総括的評価」として使ってきた。しかし、ルーブリック評価は本来生徒個人が活用すべきものであるという考え方から、生徒ひとりひとりにフィードバックし、その先の目標設定等に活かすような「形成的評価」として使うため、ルーブリック面談を導入した。面談は手間がかかるものの、メタ認知の向上にも役立っていると思われ、生徒、教員共に好意的に捉えている。また、2年間かけてルーブリックの改訂を行い、令和3年度からCの思考・創造力をC-1思考力、C-2創造力と分けて運用している。

(2) 1期生（平成27年度入学生）から7期生（令和3年度入学生）のルーブリック評価（表1～7, 図1～7）

表1 1期生 ルーブリック推移表	1年4月	1年7月	1年3月	2年2月	3年1月	簡易グラフ
A. 社会的課題に関する知識・理解	0.65	1.43	1.87	1.88	2.48	
B. 英語活用力	0.50	1.00	1.17	1.14	1.26	
C. 思考・創造力	0.74	1.32	1.78	1.94	2.43	
D. 表現・発信力	0.64	1.28	1.47	1.42	1.83	
E. 他者との協働力	0.85	1.59	1.77	1.80	1.90	
F. マネージメント力	0.84	1.37	1.75	1.71	1.96	
G. 前向き・責任感・チャレンジ	0.62	1.03	1.50	1.43	2.04	
H. 寛容さ	1.06	1.73	1.98	1.77	2.07	
I. 能動的市民性	0.66	1.17	1.36	1.57	1.91	
J. 自分を変える力	0.78	1.38	1.78	1.81	2.04	
平均	0.73	1.33	1.64	1.65	1.99	



表2 2期生 ルーブリック推移表	1年4月	1年12月	2年6月	2年3月	3年9月	簡易グラフ
A. 社会的課題に関する知識・理解	0.98	1.70	1.85	2.52	3.20	
B. 英語活用力	0.78	1.05	1.25	1.39	1.46	
C. 思考・創造力	1.28	1.70	1.98	2.47	2.71	
D. 表現・発信力	0.75	1.51	1.54	2.10	2.40	
E. 他者との協働力	1.35	1.66	2.04	2.45	2.73	
F. マネージメント力	1.23	1.60	1.73	2.17	2.55	
G. 前向き・責任感・チャレンジ	1.00	1.45	2.00	2.35	2.86	
H. 寛容さ	1.66	1.77	2.11	2.47	2.95	
I. 能動的市民性	1.27	1.39	1.73	2.13	2.84	
J. 自分を変える力	1.40	1.56	2.04	2.19	2.63	
平均	1.17	1.54	1.83	2.22	2.63	

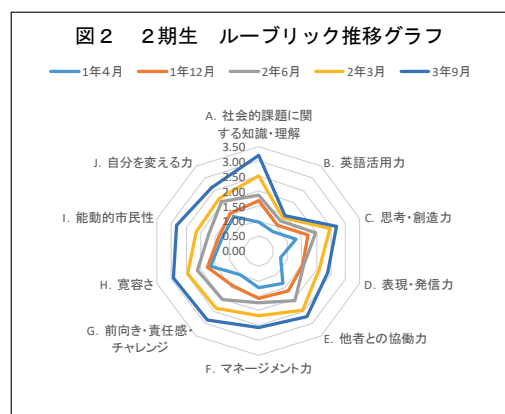


表3 3期生 ルーブリック推移表	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月	簡易グラフ
A. 社会的課題に関する知識・理解	0.83	1.99	2.21	2.80	3.33	
B. 英語活用力	0.93	1.23	1.54	1.79	1.95	
C. 思考・創造力	1.34	2.07	2.37	2.81	3.18	
D. 表現・発信力	0.89	1.51	1.92	2.55	3.09	
E. 他者との協働力	1.51	2.18	2.52	2.71	3.21	
F. マネージメント力	1.45	1.96	2.27	2.58	3.10	
G. 前向き・責任感・チャレンジ	1.33	2.06	2.15	3.47	3.35	
H. 寛容さ	1.73	2.39	2.70	2.92	3.39	
I. 能動的市民性	1.26	1.80	2.29	2.61	3.21	
J. 自分を変える力	1.39	2.25	2.43	2.86	3.15	
平均	1.27	1.94	2.24	2.71	3.10	

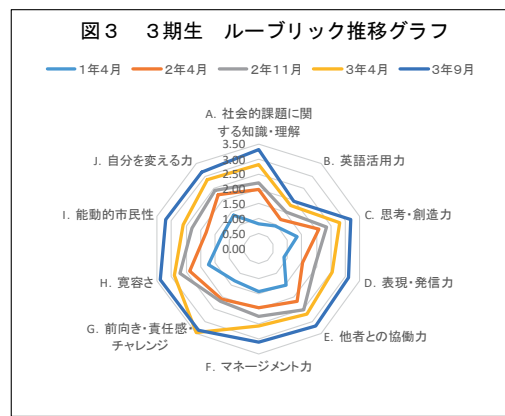


表4 4期生 ルーブリック推移表	1年4月	2年4月	2年11月	3年5月	3年10月	簡易グラフ
A. 社会的課題に関する知識・理解	0.69	1.71	1.96	2.48	2.83	
B. 英語活用力	0.89	1.29	1.28	1.59	1.70	
C. 思考・創造力	1.27	1.68	2.11	2.49	2.77	
D. 表現・発信力	1.04	1.40	1.75	2.10	2.36	
E. 他者との協働力	1.42	1.80	2.11	2.59	2.68	
F. マネージメント力	1.49	1.71	2.04	2.43	2.64	
G. 前向き・責任感・チャレンジ	1.19	1.54	1.84	2.40	2.72	
H. 寛容さ	1.69	2.12	2.26	2.63	2.95	
I. 能動的市民性	1.38	1.63	2.09	2.39	2.81	
J. 自分を変える力	1.51	1.95	2.17	2.48	2.78	
平均	1.26	1.68	1.96	2.36	2.62	

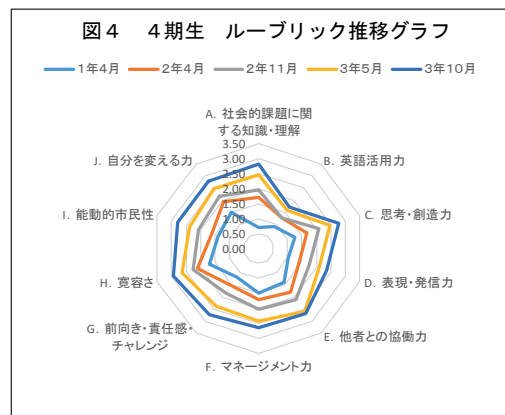


表5 5期生ルーブリック推移表	1年4月	2年4月	2年11月	3年6月	3年1月	推移グラフ
A 社会的課題に関する知識理解	1.43	1.70	1.94	2.98	3.04	
B 英語活用力	1.11	1.44	1.06	1.71	1.95	
C 思考・創造力	1.91	2.18	2.04	2.87	3.13	
D 表現・発信力	1.52	1.72	1.64	2.51	2.69	
E 他者との協働力	1.93	2.02	1.94	2.88	3.07	
F マネージメント力	1.83	1.97	1.77	2.77	2.87	
G 前向き・責任感・チャレンジ	1.80	2.09	1.82	2.88	3.14	
H 寛容さ	2.25	2.31	2.38	3.15	3.15	
I 能動的市民性	1.62	1.81	1.78	2.81	2.92	
J 自分を変える力	2.16	1.98	1.91	3.01	3.04	
平均	1.76	1.92	1.83	2.76	2.90	

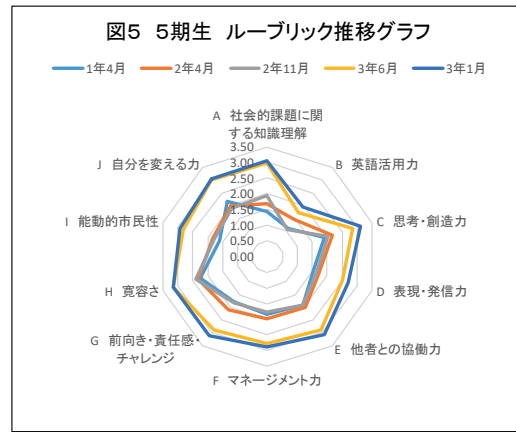


表6 6期生ルーブリック推移表	1年4月	1年11月	2年6月	2年10月	推移グラフ
A 社会的課題に関する知識理解	1.69	1.89	2.24	2.54	
B 英語活用力	1.23	1.27	1.49	1.75	
C 思考・創造力	2.05	2.07	2.45	2.67	
D 表現・発信力	1.78	1.72	1.92	2.29	
E 他者との協働力	2.15	2.20	2.23	2.51	
F マネージメント力	1.96	1.98	2.15	2.49	
G 前向き・責任感・チャレンジ	2.20	1.99	2.39	2.45	
H 寛容さ	2.58	2.44	2.58	2.84	
I 能動的市民性	2.07	1.89	2.02	2.48	
J 自分を変える力	2.16	2.16	2.42	2.67	
平均	1.99	1.96	2.19	2.47	

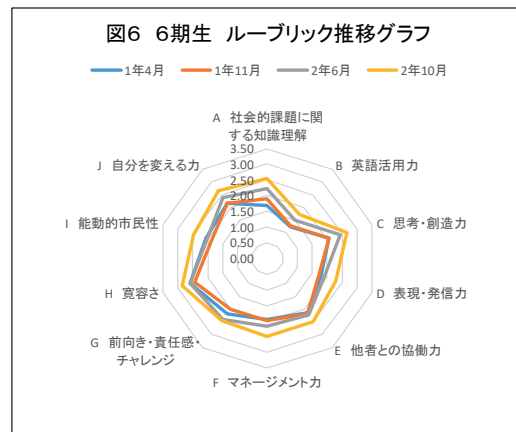
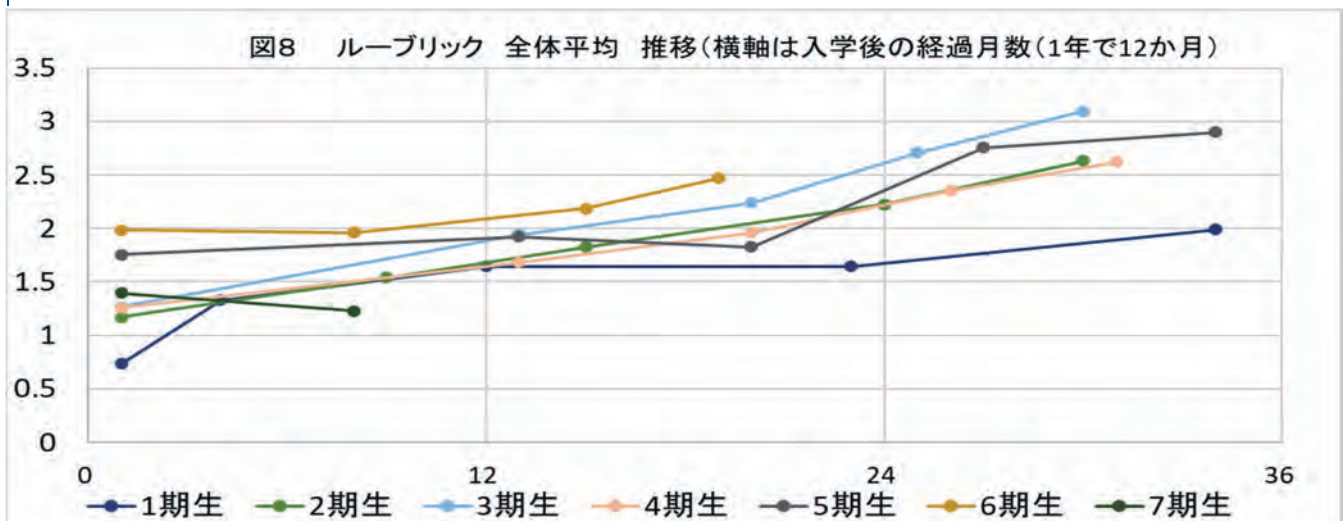
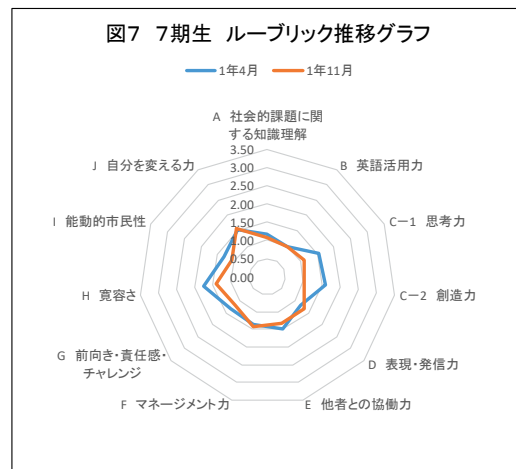


表7 7期生ルーブリック推移表	1年4月	1年11月			推移グラフ
A 社会的課題に関する知識理解	1.16	1.08			
B 英語活用力	1.00	1.00			
C-1 思考力	1.55	1.09			
C-2 創造力	1.62	1.01			
D 表現・発信力	1.21	1.33			
E 他者との協働力	1.50	1.33			
F マネージメント力	1.37	1.42			
G 前向き・責任感・チャレンジ	1.33	1.17			
H 寛容さ	1.77	1.42			
I 能動的市民性	1.30	1.08			
J 自分を変える力	1.52	1.58			
平均	1.39	1.23			





### (3) 5期生(令和3年度3年生)の評価

5期生(3年次)に対しては、本校入学から卒業までに計5回のルーブリック調査を実施した。なお、本校のルーブリックについては本報告書の関係資料に掲載した。

調査では、生徒自身が評価の観点10項目それぞれに対して自己評価を行った。各項目について最低は0、最高は5である。最高レベルは本校の開学の精神である「変革者たれ」を実現できるレベルとして設定している。自己評価後、生徒同士のピアレビューや教員と生徒による1対1の面談(ルーブリック面談)による修正を経て、自身が現在どのレベルにいるかを評価した。また1期生からの評価条件を統一するため、ここでまとめたものは自己評価後、ピアレビュー、面談前のデータを用いる。

5期生のデータを(2)表5、図5に示す(表1~4、図1~4は1~4期生のデータである)。まず、1年4月の時点での値の平均が1.76とこれまでの1~4期生よりも高い状態からのスタートとなり、4期生の2年4月の時点の値(1.68)とほぼ同様な値を示した。その後、平均が2年4月には1.92と上がったものの、2年11月には1.83と下がった。

5期生では1年次より探究のプロセスを重視し、これまでの1~4期生の探究で多く見られた「自分の考えを印象で語る」ことをしないように客観的なデータに基づく自分の主張の構築やメディアリテラシーを高めるために、批判的に物事を判断するトレーニングを多く取り入れてきた。また、メンタルマップやフューチャーマップングなどの手法を取り入れ、探究のゴールまでのプロセスを見通した探究指導に取り組んできた。このような成果は2年次後半から3年次前半の時期の数値の伸長に大きくされている。特に、2年次後半から3年次にかけてはコロナの影響で再び学校が休校になって時期をふくんでおり、思うように探究が進まない中でも試行錯誤しながら探究を進めていく中で、これまでとは違った学びの形を5期生が自ら切り開いていったというところが見ることができる。オンラインでの交流会で探究を進めた生徒やコロナの小康状態を見計らって積極的に校外に出て探究を進めた生徒など活動は様々であるが、予測不可能な時代(VUCA)を生きるこれからの時代の学びを体現した活躍だったと考えている。

なお、例年よりも3年次最後のルーブリック取得時期が他の学年よりも遅い時期(1月の論文作成終了時)だったこともあり、自分のこれまで取り組んできた探究の総まとめを論文に反映し、俯瞰して自己評価ができたことが高評価につながっていると思われる。

### (4) 6期生(令和3年度2年生)の評価

6期生はこれまで4回ルーブリック評価を行っている。値を表6、グラフを図7に示した。6期生の推移は5期生の推移と非常によく似ている。最初の値は以前の1~4期生と異なり、高い値から始まっている。全体の平均値は1.99と、1~7期のなかでは最も高い値となっている。特に高いのはH寛容さであり、これは1~6期生で共通している。次に高い値はG前向き、責任感・チャレンジであり、6期生の学校生活に対する意欲や期待が非常に高かったことが伺える。Gが2番目に高かったことはこれまでの1~5期生とは少し異なる。

2年次は1~5期生とルーブリックの取得時期が異なっている。従来は2回目のルーブリック取得は2年4月の未来創造探究スタート時であったが、5期生は1年11月に演劇プログラムが終了し、2年次の未来創造探究の開始時期を前倒しするために、1年の12~3月は未来創造探究へとつながるプレ探究のプログラムを行った。そのため3~5期生の3回目ルーブリック取得データと6期生の4回目ルーブリック取得時期を合わせて比較できるようになっている。この比較によると、2年11月の同時期の比較では6期生の数値は全項目で3~5期生のデータを上回っており、特にG前向き・責任感・チャレンジの項目が高い。探究を前倒してスタートさせ、自分の取り組むべきことに積極的に取り組んでいるところや海外研修・マイプロへの希望率が高いことやふくしま学(楽)会への外部イベントへの参加率が高いなどにつながっている。

### (5) 7期生(令和3年度1年生)の評価

7期生はこれまで2回ルーブリック評価を行っている。値を表7、グラフを図7に示した。7期生の推移は1~4期生と似ている。1年次4月のデータでは5~6期生の4月のデータよりも全体的に低い、1~4期生と比べてA~Jの項目のばらつきが少ないことがあげられる。また、1年11月のデータではD表現力・発信力やJ自分を変える力が伸びたものの、多くの項目で数値を下げた。特に、C-1思考力とC-2創造力の落ち込みが大きい。高校生活が始まった直後に行った数値と演劇や地域の課題発見プログラムを終えた後のルーブリック取得であったことも数値には影響している。1学年担任団及び地域創造と人間生活の担当者との話から、11月のデータについては、「4月当時よりもより客観的にルーブリックの指標を理解し、演劇プログラムを通じて内省的に自分を客観視できるようになってきている。見かけのデータとしては

数値は下がっているが、11月の評価の方がむしろ適正な評価であり、次年度以降の探究学習に向けて大きく期待できる。」というコメントがあり、今後も推移を見守っていきたい。

#### **(6) 1期生から7期生の平均値の推移**

1～7期生のルーブリックの推移について、値の全体平均値の推移グラフを(2)図8に示す。1～4期生までは1年次から3年次まで順調に値が高まっているのに対し、5～6期生は、1年次最初から値が高く、その状態をほぼ維持したまま推移している。

これまでのところ、3期生が3年最後の値としては最も高くなっている。昨年度、4期生(今年度卒業生)は2期生とほぼ同じような推移を示した。3期生は特に3年次の最後の半年で大きな伸びを見せており、4期生でも同様な状況になることを期待したが、コロナ禍の影響もありそれほど高まらなかった。3年間のグラフの傾きに注目すると、5期生の第3回(2年11月)から第4回(3年6月)の急上昇が見られる。

5期生の3年ゼロ学期はコロナによる3回目の緊急事態宣言が出ていた時期で、探究が当初の計画通りに進まなかったことも多いと思うが、探究に必要な力が定着してきた時期がこの頃だったと考える。

また、6年間のデータより、当初、最終的に高くなるのはA社会課題に関する知識・理解、H寛容さ、G前向き・責任感・チャレンジあたりであったものが、最近ではH寛容さ、J自分を変える力、C思考・創造力あたりに変化しつつある。H寛容さが高いのは本校の1期生からの特徴である。寛容性は本校の設立経緯を踏まえて本校で独自に設定した項目であるが、この力が探究活動をはじめとする学校教育全体で育成されていることは注目したい。またJやCはこれからの教育で必要とされる要素であり、これらが高いことも、本校の教育が好ましい方向に進んでいることを示していると思われる。

## 5. 2 ルーブリック評価の定量的分析（アクセンチュア株式会社）

本校において独自に設定したルーブリック評価に基づき、定期的に測定してきた。その結果を基に、アクセンチュア株式会社様と一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構（CIE）様の視点から生徒の成長、変容を客観的に確認することに取り組んだ。その結果、全体的に成長している一方で、指標ごとの伸びの大きさに違いが確認できた。主に社会的課題に関する知識・理解、思考・創造力、前向き・責任感・チャレンジ、能動的市民性といった要素が成長しており、未来創造探究等の活動を通じた影響が現れていると考えられる。実際の活動内容と分析結果を比較することで、次年度以降のカリキュラム検討に活用することができる。

### (1) はじめに

本校では、指導の重点の設定、授業の展開、学習評価、学校評価等をルーブリックと関連づけながら展開することを目指している。ルーブリックの指標、レベル設定は全教員で議論を重ね、自分達の言葉で定義した。4 カテゴリー（「知識」、「技能」、「人格」、「自らを振り返り変えていく力」）、10 指標を定義し、それぞれ 5 段階のレベル（1～5）を絶対評価になるよう設定した。

■知識：A 社会的課題に関する知識・理解、B 英語活用力

■技能（スキル・コンピテンシー）：C 思考・創造力（7 期生からは C-1 思考力、C-2 創造力に分離）、D 表現・発信力、E 他者との協働力、F マネージメント力

■人格（キャラクター・センス）：G 前向き・責任感・チャレンジ、H 寛容さ、I 能動的市民性

■自らを振り返り変えていく力：J 自分を変える力

<データ取得タイミング>

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和1年度	5期生	①										
令和2年度	5期生	②						③				
	6期生	①						②				
令和3年度	5期生			④							⑤	
	6期生			③			④					
	7期生	①						②				

測定においては、自己評価に加え、生徒間ピアレビューを実施することで評価の客観性をもたせている。

データ分析はプロボノとして関わってアクセンチュア株式会社に依頼し、次項以降のデータ分析、示唆出しを行った。（OECD 東北スクール、地方創生イノベーションスクール 2030 東北クラスターにおいても福島大学と協働でルーブリック評価をしており、その知見も活用して実施していった。）

### (2) データ分析の概要

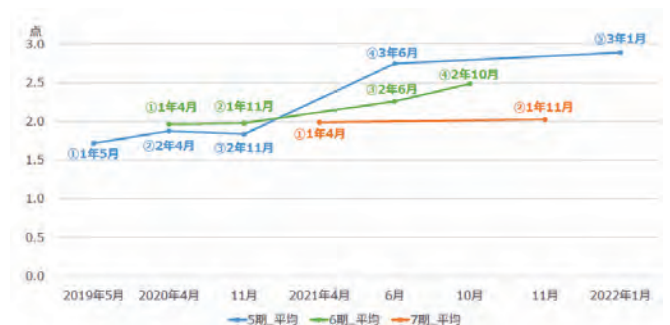
今回の分析対象は、全ての測定時に回答している学生のみとした（5 期生：計 99 名。アカデミック 36 名、ス

ペシャリスト 32 名、トップアスリート 31 名。6 期生：計 125 名。アカデミック 45 名、スペシャリスト 35 名、トップアスリート 45 名。7 期生：計 96 名）。入学時から卒業までの推移を見るとともに、5 期生と 6 期生、7 期生を比較しながら、指標ごとの傾向、生徒の系列ごとの傾向、海外研修有無別の傾向などの分析を進めていった。

#### 1) 5 期生・6 期生・7 期生の平均値の推移

5 期生は 2 年後半までの到達度は低かったものの、3 年への進級にかけて大きく点数を伸ばした。6 期生では点数の伸びは 2 年への進級にかけて (②→③) 確認できた。一方で 7 期生は、6 期生の同時期と類似した点数の推移であった。（図 1）

図 1



#### 2) 全体ルーブリック評価の学年別平均比較

左より 5 期生、6 期生、7 期生の順にグラフが示されている。全ての学年で A. 社会的課題に関する知識・理解の点数の伸びが最も大きい。その一方で、B. 英語活用力については全ての学年でどの測定時点においても他の項目と比べて最も低い点数で推移している。この傾向は 1～7 期生のすべての年次で見られる傾向である。（図 2）

図 2

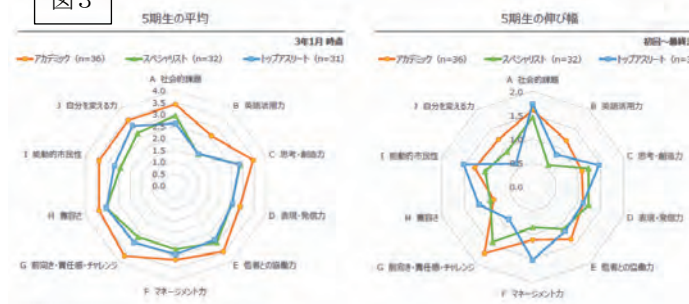




### (3) 生徒の系列ごとの比較

左のグラフが5期生の平均、右のグラフは5期生の伸び幅を示している。アカデミック系列が他の系列と比べ全ての項目で点数が高かった、一方、伸び幅については、能力をのばした項目が系列に異なる傾向が見られた。アカデミック系列では G. 前向き・責任感・チャレンジと E. 他社との協働力の項目、スペシャリストは A 社会的課題に関する知識・理解と G. 前向き・責任感・チャレンジの項目、トップアスリートは I. 能動的市民性と F. マネージメント力の項目の伸び幅が高かった。(図3)

図3



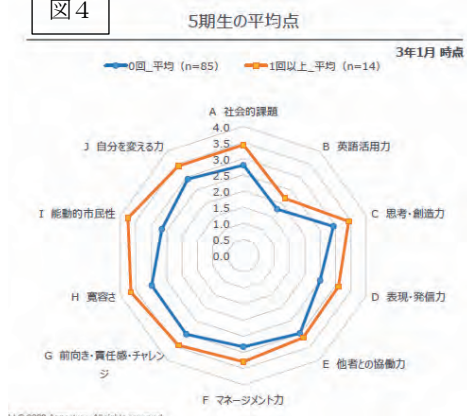
また、すべての系列で3年次以降の点数の伸びが顕著であった。一方トップアスリート系列については初回測定時①から J. 自分を変える力が他の項目に比して高いレベルにあり、その後も能力を伸ばしていった。

### (4) 海外研修参加有無の比較

海外研修は授業に加えて重要視される活動の一つがある。5期生の対象とする海外研修は、ドイツ(1年次)、アメリカ(2年次冬)であり、どれか一つでも参加した生徒は14名であった。ただし、コロナ禍の影響でドイツ研修は現地に行くことができたが、アメリカは国内代替プログラムとなった。そのため、今回の分析は参考として行った。

左側は5期生の平均点、右側は伸び幅を示している。オレンジは海外研修参加生徒を示しており、全ての項目で海外研修に参加していない生徒の数値を上回った。(ただし、海外研修への参加はランダムに決まったものではないため、研修参加と成長度合いの因果関係は必ずしもあるとは言えるわけでは

図4

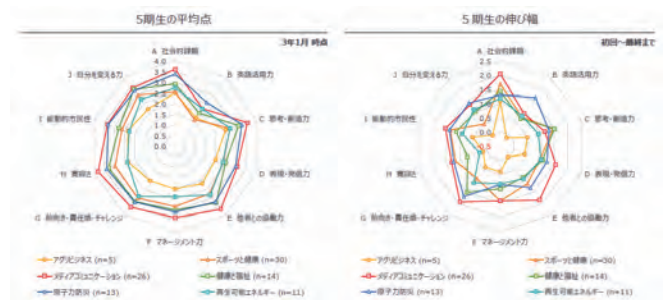


ないことは注意が必要である。)

海外に参加した生徒の中で特に大きく伸長が見られた項目は、I. 能動的市民性と J. 自分を変える力の項目である。A の項目は海外研修参加者の初期値がもともと高く、得られた知識を踏まえて行動に生かしたり、よりグローバルな視点で考えることができるなどの観点からこの項目が伸びたと推察する。

### (5) 所属ゼミごとの比較

7年間の探究活動の蓄積の中で、所属ゼミごとに伸長する項目が異なっているのではないかと仮説を立て、今年度は新たに所属ゼミごとの平均点の比較(左)と伸び幅(右)の分析を依頼した。



平均点については、どのゼミでもほぼ相似形を示しているが、メディア・コミュニケーションゼミが B. 英語活用力を除くすべての項目で最も高いレベルを示す一方、伸び幅については、原子力防災ゼミは B の項目の伸び幅が他のゼミと比して著しく高い。

### (6) 今後の展望

今回の分析では、ルーブリックの定点観測のデータから、全体の成長の傾向、及び系列や海外研修の有無といった活動内容ごとの比較検討を行った。今後、他学年のルーブリックの観測時期が揃えられ、さらに活動内容がより細かく記録されることで、成長の傾向を比較分析することができるになれば、より効果的にカリキュラム検討への示唆が得られるようになると思われる。

また、ルーブリック評価のデータを個人別に整理すること(例、生徒カルテの作成)により、生徒と教員の面談や、アクティブラーニングを実施する際の目標設定に活用することができる。到達レベルを可視化し、データを用いて面談を進めることにより、生徒のメタ認知を伸ばすことにもつながる。加えて、分析の元データの客観性、信頼性の担保という課題に対しても、教員による確認が入り、本人との面談を通じてレベルの修正が行われることにより、改善され、更に分析の精度が向上するものと考えられる。



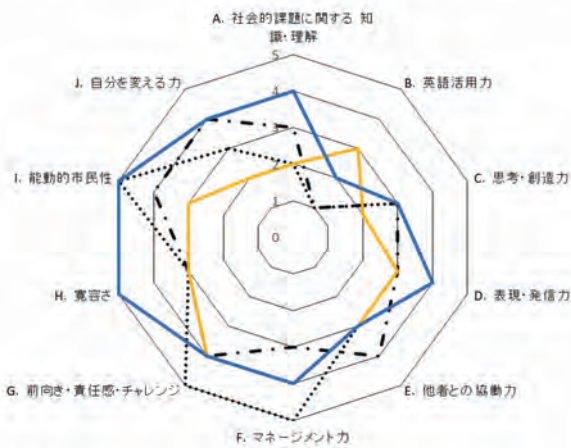
### 5. 3 5期生の個別評価

5期生のうち、未来創造探究の各ゼミ 1～2人ずつ生徒をピックアップし、本人の活動の様子とルーブリック評価の推移について分析した。

#### ○生徒 R・A（原子力防災探究ゼミ）

【平均値】平均値 3.40（1年4月）→3.80（3年1月）

..... 1年5月    - - 2年4月    — 2年11月    — 3年6月    — 3年1月

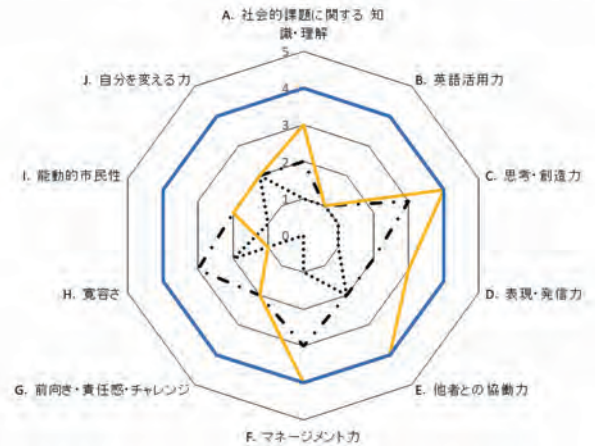


本生徒は、双葉郡出身の生徒であり、アカデミック系列に所属している。入学当初から双葉郡の復興に対して興味関心が高く、問題意識を持って生活しており、積極的に行動していた。しかし、1年次後半より、具体的に自分は何をすべきかに行き詰まりを見せ始めた。校内の海外研修や校外の様々なイベントにも積極的に参加し、視野を広めようと努力した。1年次にドイツ研修に参加しフライブルクの町づくりに感銘を受け、地元の強みを活かす町づくりという自分なりのテーマを持つことができた。2年次4月からの探究では、漠然としたテーマは持ちつつも、やはり具体的な行動に移すことができず、3年生の前半までほとんど探究を進めることができなかつた。そのことがこのルーブリックの自己評価に反映されている。3年次の夏休み前から、浪江町の商工会とつながることで、探究テーマに対するプロジェクトを設定し、地域と協働で企画立案から事前準備、そしてイベント開催中のマネジメント、その後の振り返りを通して、自己肯定感も高まり3年1月の自己評価につながった。浪江町商工会との関わり方が、比較的対等な立場で、意見を反映させることができたことが、全体的な自己評価の向上に反映していると思われる。

#### ○生徒 Y・A（原子力防災探究ゼミ）

【平均値】1.20（1年4月）→4.00（3年1月）

..... 1年5月    - - 2年4月    — 2年11月    — 3年6月    — 3年1月

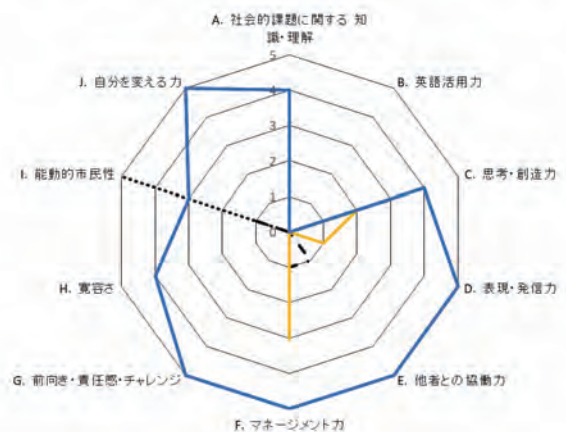


本生徒は、双葉郡外出身の寮で生活している。アカデミック系列に所属しているが、陸上に力を入れ、東北大会等でも活躍する生徒である。1年次から2年次の前半にかけて、探究にもあまり力を入れることなく、周りの生徒が行う調査研究などにもそれほど積極的に関わらない生徒であった。しかし、原子力防災班全体でのフィールドワーク等を通して徐々に双葉郡に対する知識を増やし、問題意識を持つようになり、探究に対して積極的に発言するようになってきた。そのことは、2年4月から徐々にルーブリックの自己評価に現れてきている。第1志望とする心理学系大学の総合選抜型の入試において、自分たちの班で行ってきた探究をアピールすることをきっかけに、論文作成において心理学を組み合わせ仮説を立てるなど非常に積極的に探究に取り組むようになった。それに伴い、班のメンバーだけでなく、多くの生徒や先生からの評価も高くなり、自己肯定感も高くなり、ルーブリックの自己評価の向上につながってきたと思われる。

#### ○生徒 M・S（メディア・コミュニケーション探究ゼミ）

【平均値】1.10（1年5月）→4.00（3年1月）

..... 1年5月    - - 2年4月    — 2年11月    — 3年6月    — 3年1月

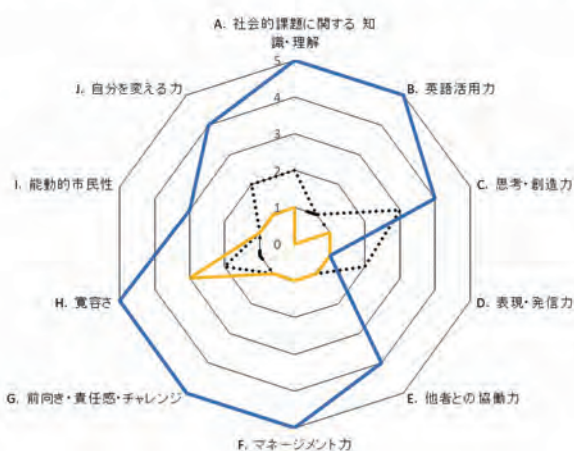


S は双葉郡大熊町にルーツを持つ男子生徒である。未来創造探究の当初から、ふるさとの大熊町に関する活動を行おうと考え、友人とともに大熊町出身の生徒の座談会や、役場職員と協力したイベントの企画に携わった。「他者との協働性」「前向き・責任感・チャレンジ」「自分を変える力」が0から5に、「表現・発信力」が1から5へ飛躍的に伸びている。探究活動の中で異なる世代との交流を行ったことが背景にあると考察する。

○生徒 Y・M (メディア・コミュニケーション探究ゼミ)

【平均値】 1.60 (1年4月) → 4.10 (3年1月)

.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月

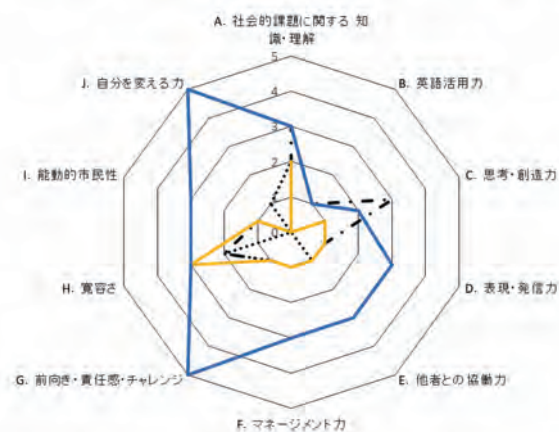


本生徒は双葉郡檜葉町出身かつ現在も檜葉町から通学し、町のYoutubeでのCMに出演、2021年の東日本大震災追悼復興祈念式では「誓いの言葉」を述べるなど、発信力が期待されていた女子生徒である。探究は人びとの諸問題へ関心を高めることを目標とする「「他人事」を「知り合い事」へ」をテーマに活動を行った。ルーブリックでは「マネージメント力」「前向き・責任感・チャレンジ」が1から5へと飛躍的に伸びた。特筆すべきは本校生徒の平均値が低い「英語活用力」も1から5へと伸びており、探究活動の論文も英語で執筆したことからも自信がうかがえる。本校のニューヨーク研修などに積極的に参加したことなどが背景にあると思われる。

○生徒 S.S (再生可能エネルギー探究ゼミ)

【平均値】 0.90 (1年4月) → 3.10 (3年1月)

.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月

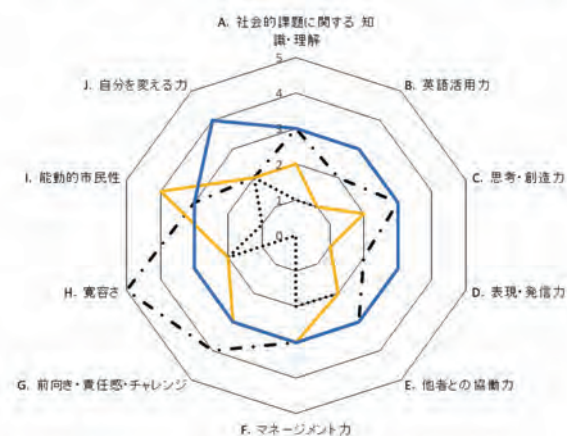


本生徒は広野町出身の男子生徒であり、地元の農業に貢献したいという思いから、スペシャリスト農業系列を選択した。高校2年次より、授業や探究活動、農業クラブの諸活動を通して、自分の興味関心の高い分野において、積極的にチャレンジをしてきた。その成果もあり、「前向き・責任感・チャレンジ」「自分を変える力」の項目において、1から5へ変化してきた。様々な挑戦を通して、自己肯定感が高まり、さらに新たな課題に挑戦してみたいという気持ちのサイクルが身についたようだ。

○生徒 S.S (再生可能エネルギー探究ゼミ)

【平均値】 1.40 (1年4月) → 3.10 (3年1月)

.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月



本生徒は広野町出身の男子生徒であり、情報系の大学進学を希望しており、アカデミック理系を選択している。当初は人と話すことを苦手としていたが、1年次のベラルーシ研修や2年次からの探究活動のテーマでもあるトリチウム汚染水処理問題を通して、コミュニケーションを取ることの難しさを痛感し、そこから徐々に姿勢が変化していった。周りへの感謝の気持ちが芽生え、「表現・発信力」「他者との協働性」「前向き・責任感・チャレン



ジ」等の項目において、全体的に数値が上昇した。

○生徒 F.K (アグリ・ビジネス探究ゼミ)

【平均値】0.80 (1年4月) →3.90 (3年1月)

.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月



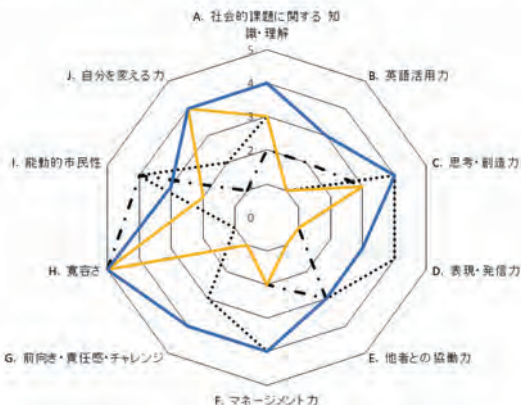
本生徒は双葉郡には縁のない女子生徒である。未来創造探究の当初から、スペシャリスト農業で菓子作りを授業で学んだことから、お菓子を通して地域コミュニティの復活を志し、大熊町新特産品「イチゴ」で双葉郡でも人口が最も少ない大熊町、原発の町としてのレッテルが貼られている大熊町に交流を生み出そうと活動した。

「他者との協働性」「前向き・責任感・チャレンジ」「自分を変える力」が0から5に、「表現・発信力」が1から5へ飛躍的に伸びている。探究活動で異なる世代との交流や発表会で高い評価をいただいたことも背景にあると考察する。

○生徒 N.S (アグリ・ビジネス探究ゼミ)

【平均値】2.90 (1年4月) →3.70 (3年1月)

.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月



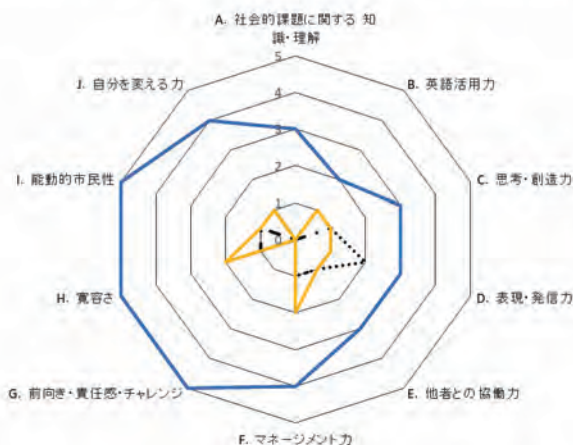
本生徒は原町出身の女子生徒である。2年次の途中からゼミ移動をしてきた生徒の一人である。福島(広野)を発信していくために、広野のバナナを使ってバナナ×

ギョウザを作り、県内+県外にイベントへの出店・出品を計画した。広野町内だけでの販売でおわったが「他者との協働性」「前向き・責任感・チャレンジ」「自分を変える力」が0から5に、「表現・発信力」が1から5へ飛躍的に伸びている。探究活動の中で、異なる世代との交流や、チーム内の意見を整理し、実現に向けた誠実な取り組みは評価に値する。

○生徒 K.E (スポーツと健康探究ゼミ)

【平均値】0.90 (1年4月) →3.70 (3年1月)

.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月

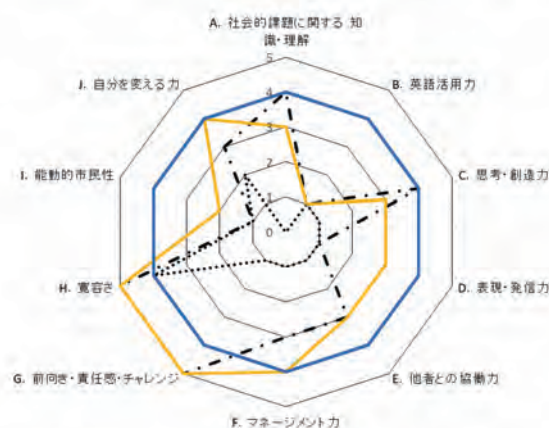


最初のテーマから試行錯誤を繰り返し、tik tokを利用した高齢者向けのダンスの配信というテーマまで実践を行った。コロナ禍で様々な制約がある中で3回のプロジェクトを実施できたことが、マネージメント力が1→4まで上昇したことに表れている。プロジェクトごとに課題を明確にし、改善して次のプロジェクトに臨めることができていた。

○生徒 M.A (スポーツと健康探究ゼミ)

【平均値】1.30 (1年4月) →4.00 (3年1月)

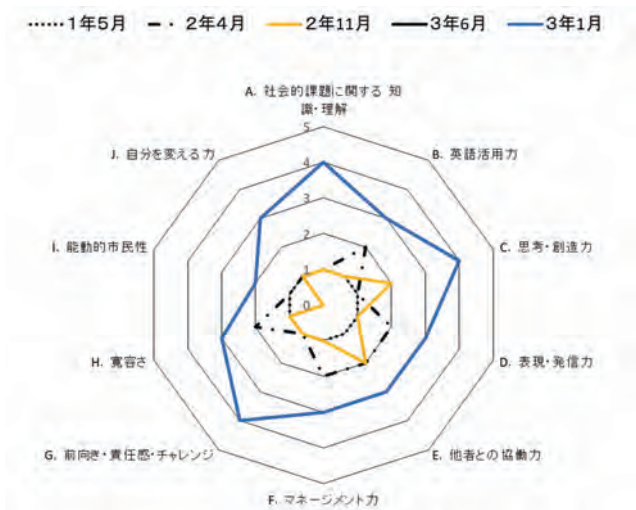
.....1年5月 - - 2年4月 — 2年11月 — 3年6月 — 3年1月



最初に設定したテーマがから何度も話し合いを繰り返して、自分たちで動画を作成して発信することで世界と繋がることを目指したプロジェクトを実践した。3本の動画を作成していく中で、世界に発信するため、英語の字幕を付けて動画を配信した。英語活用能力が1→4まで上がっており、成果が見られた。

○生徒M・S（健康と福祉探究ゼミ）

【平均値】1.00（1年5月）→3.20（3年1月）



本生徒は「高齢者の生きがい」をテーマとして探究活動を行ってきた。本校へ入学する以前から高齢者福祉に興味があり、介護に携わる仕事に就きたいと考えている生徒である。2年次では「ヘルプマーク」をテーマにすることを検討していたが、自らの興味・関心と進路の希望を踏まえて「高齢者に生きがいを！！」というテーマへ変更することとなった。テーマ変更後はコロナ禍において高齢者と安全に交流し、生きがいをどのように持ってもらうかを真剣に考え、高齢者との交換日記を積極的に実践した。この実践における思考や行動の変容は3年次1月のルーブリックに表れている。特にA.「社会的課題に関する知識・理解」、C.「思考・創造力」、G.「前向き・責任感・チャレンジ」では評価が「4」に高まった。



## 5. 4 3年間を通した各取組に関する評価

本校で探究に関連する科目（産業社会と人間、総合的な探究の時間（未来創造探究））や海外研修について、生徒がどのように捉えてきたのか、5期生に対してアンケートを行った。

### 意識調査

以下の表に示す内容について探究の授業についての意識調査を行った（実施時期：令和4年2月、回答生徒数：49人、任意）。Q1～Q3は地域との関わり、Q4～Q6は探究と教科の関わり、Q7～Q11は自分自身と社会との関わりについてである。

表 調査項目と結果（数値は回答の割合）

（4：とてもそう思う 3：そう思う  
2：あまり思わない 1：全くそう思わない）

	調査項目	4	3	2	1
Q1	探究授業を通じて、地域に対する興味関心が高まった。	49.0	51.0	0.0	0.0
Q2	探究授業を通じて、自分と地域とのつながりが増えた。	38.8	46.9	14.3	0.0
Q3	探究授業を通じて、地域のことが好きになった。	32.7	57.1	8.2	2.0
Q4	探究授業を通じて学んだことと、教科学習で学んだこととのつながりを感じることもある。	24.5	51.0	24.5	0.0
Q5	探究授業に、教科学習で学んだことを活かしている。	22.4	57.1	16.3	4.1
Q6	探究授業を通じて、教科学習の必要性を感じる。	38.8	46.9	12.2	2.0
Q7	探究授業を通じて、世界や日本で起こっている課題を自分の身近に感じるようになった。	46.9	42.9	10.2	0.0
Q8	探究授業を通じて、自分の在り方や生き方を考えるようになった。	36.7	53.1	10.2	0.0
Q9	探究授業を通じて、自分の考えや意見が深まった。	49.0	49.0	2.0	0.0
Q10	探究授業を通じて、自分のことが好きになった。	16.3	34.7	38.8	8.2
Q11	探究授業を通じて、自分が動けば社会は変えられると思った。	18.4	51.0	24.5	6.1

ほぼ全ての項目について肯定的意見（3、4）を半数以上の生徒が回答している。一昨年から同様な調査を行っているが昨年に引き続き肯定的に捉えている生徒が多いことも特徴であり、探究の授業が生徒にとって学びの土壌になっていることがわかる。地域との関わりについては、今年度もコロナ禍により接触が制限される環境であ

ったものの、9割の生徒が肯定しており、本校の探究活動が地域と密接に関連していることがわかる。Q6のように探究と教科の関わりについても肯定的意見は8割以上となり、今年度はこの項目が一番伸長した。（昨年 77.1→今年 85.7）教員が意識して取り組んでいる「探究と教科学習との往還」についても有効に活用されていることが伺える。また社会と関わりについても肯定的意見の割合は高く、Q9「探究授業を通じて自分の意見が深まった」については98%の生徒が肯定的に捉えている。Q10「探究授業を通じて自分のことが好きになった」という項目については他と比較して肯定的意見が少ないが、それでもほぼ半数の生徒が肯定的に捉えており、自分のことを見つめる良い機会になっていると思われる。

### 取組別評価

1～3年の間に実施してきた主な取組を示し、その中で印象に残った取組、力がついた取組を調査した。結果を下表に示す（実施時期：令和4年2月、回答生徒数：49人）。

表 印象に残った取組、力がついた取組（数値は割合）

		印象に残った取組	力がついた取組
A	1年次 マインドマップ講座	31%	10%
B	1年次 フューチャーマッピング	6%	8%
C	1年次 演劇（バスツアー・FW）	47%	29%
D	2年次 探究オリエンテーション	6%	12%
E	2年次 ゼミごとに分かれての活動	33%	33%
F	2年次 探究講座（調べ方講座）	6%	10%
G	2年次 ポスター作成講座	20%	18%
H	2年次 理科×福島学	10%	8%
I	2年次 社会×福島学	6%	6%
J	2年次 ゼミ内発表会	12%	18%
K	2年次 プレ発表会	31%	20%
L	2年次 4期生の未来創造探究発表会	22%	24%
M	3年次 未来創造探究発表会	41%	55%
N	その他	6%	4%

回答については複数回答も可としてアンケートを行っており、平均すると一人あたり2.6個程度（昨年平均2.5個）回答している。印象に残った取組と力がついた取組で数値は似通っている。最も印象に残り、また力が付いた取組は「発表会」であり、自分が発表する経験により生徒が成長している様子が伺える。生徒にとって、印象に残った活動と力のついた活動にはある程度の相関関係が見られる。今後も、各年次で力がついた取り組みについては、ブラッシュアップをしながら継続していくことが必要だと思われる。

## 5. 5 進路や在り方生き方への影響に関する評価

探究活動が卒業時の進路や在り方生き方にどのような影響を与えたのか調べるために、3年次生徒にアンケートを行った。なお、このアンケートは平成30年度から始めており、今年度が4回目である。

実施日：令和4年2月

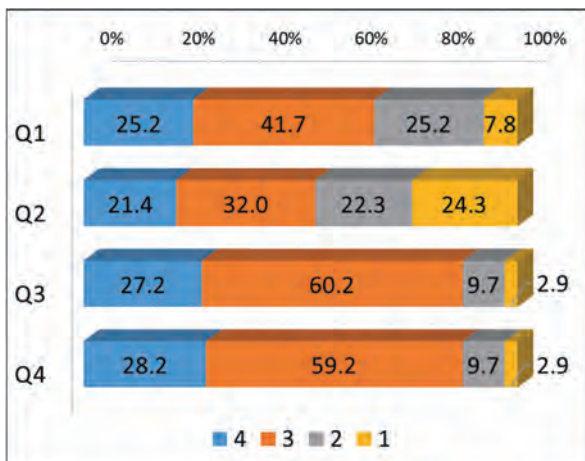
対象生徒：5期生3年次生徒 103人

内容：以下のアンケート項目に対して、1～4の4観点で選択、さらに具体的事例などを記述で回答。

結果：

質問項目		4	3	2	1
Q1 未来創造探究は、あなたの卒業後の具体的な進路選択に影響を及ぼしましたか？	5期生	25.2	41.7	25.2	7.8
	4期生	23.4	42.3	27.9	6.3
	3期生	18.6	31.9	34.5	15.0
Q2 未来創造探究での活動を、入社試験や入学試験に活用しましたか？	5期生	25.2	32.0	22.3	24.3
	4期生	32.7	33.6	20.9	12.7
	3期生	24.8	34.5	22.1	18.6
Q3 未来創造探究は、あなたが将来「社会とどう関わって生きていきたいか」を見出すことに繋がりましたか？	5期生	27.2	60.2	9.7	2.9
	4期生	31.3	57.1	10.7	0.9
	3期生	25.7	54.9	16.8	2.7
Q4 未来創造探究は、あなたが自分の価値観を考えることに繋がりましたか？	5期生	28.2	59.2	9.7	2.9
	4期生	35.7	54.5	8.9	0.9
	3期生	38.9	47.8	10.6	2.7

- 4 大きく影響した（繋がった・活用した）  
 3 ある程度影響した（繋がった・活用した）  
 2 あまり影響しなかった（繋がらなかった・活用しなかった）  
 1 全く影響しなかった（繋がらなかった・活用しなかった）  
 表中の値は割合（%）である。



Q1、Q2については高卒時の進路選択、いわば短期的な進路について、探究活動の影響があったかどうかについてのアンケートである。Q1では67%の生徒が進路選択に影響があったと回答している。またQ2においても6割近くの生徒が試験に探究活動を活用したと回答している。3期生、4期生と比較して、Q1は肯定的評価は引き続き定着しており、Q2では5期生は例年よりも一般受験にチャレンジしている生徒が多いため、数値は下がった。しかし、生徒の記述コメントからは探究が具体的に進路指導に結びついている例が多く見られた。「面接で探究のことを語った」や「受験のプレゼンで探究の発表が役に立った」というコメントが多く見られた。

Q3、Q4は長期的な観点から、社会との関わりや自身の在り方生き方に関するアンケートである。いずれも抽象度の高い問いであるにも関わらず8～9割の生徒が肯定的に捉える結果となった。Q3では「将来のことは何も考えていなかったが、社会に貢献していける人になりたいと思った。」「目の前の地域との関わりを深めることで、社会などの大きな見方ができるようになった。」といった記述が見られた。Q4は価値観についての問いだが、これに対する肯定的意見が最も高くなっていた。

「探究を通して、人と人とのつながりの大切さ、自分で問いを見つけ出し、どうすれば解決するか、アクションをおこしながら学びを深めていく大切さや復興とは小さなことから活動をしていくことなど、考えや価値観が一年次から大きく変わった。」といった記述が見られた。また、3期生、4期生と比較して、こちらの項目も3、4を回答する生徒が増えており、探究活動を行う効果が年々高まっていると言える。

高校生と社会の関わりを問う『18歳意識調査「第20回-社会や国に対する意識調査-」』（日本財団、2019年11月）（<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2019/20191130-38555.html> 2022年3月閲覧）と本校生の今回のデータを比較すると、本校生は社会に対する課題意識を明確に持ち、社会に積極的に関わろうとする意欲が高いことが特徴といえるであろう。

	自分を大人と思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を動かせると思う	自分の国に誇りを感じたい社会意識がある	社会問題について、自分や身近な人から行動を起こしたい
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

参考資料：18歳意識調査「第20回-社会や国に対する意識調査-」（日本財団）

## 5. 6 学校アンケートによる評価

本校の教育活動全般を評価するため、毎年1回、保護者、生徒、教員によるアンケートを行っている。このうち、本事業に関係するものについてピックアップした。

対象：本校舎高校1～3年の生徒、保護者、教員

回答数：保護者218名、生徒268人、教員75人

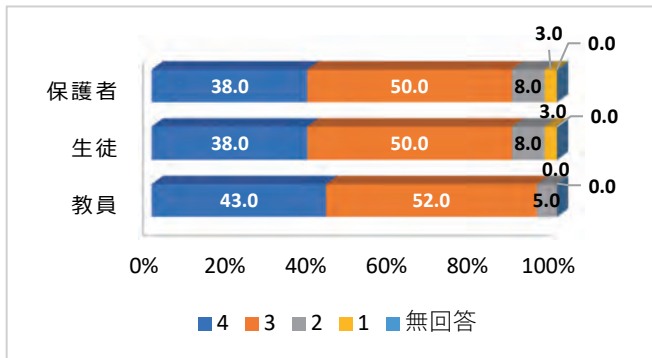
回答：以下の4段階および無回答による回答

4：思う 3：ある程度思う

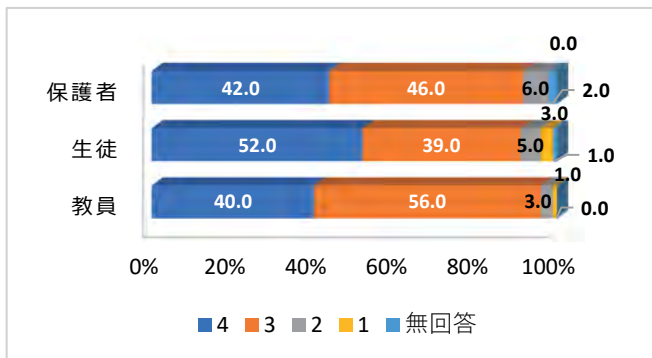
2：あまり思わない 1：思わない

アンケート項目と結果：

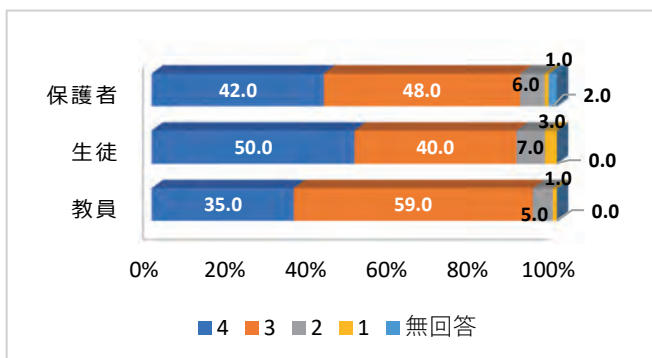
Q1 アクティブラーニングをはじめ、探究する力を育てる充実した授業が行われている



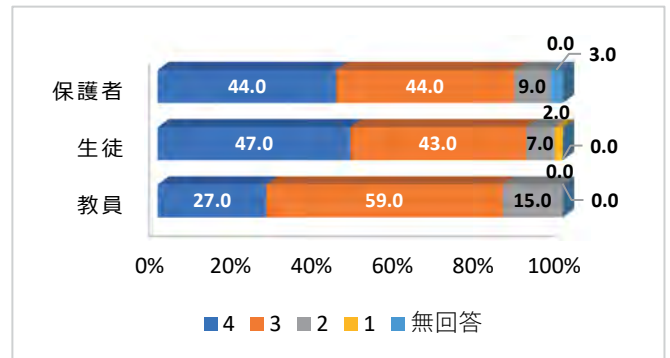
Q2 地域の課題に向き合う授業や活動が行われている。



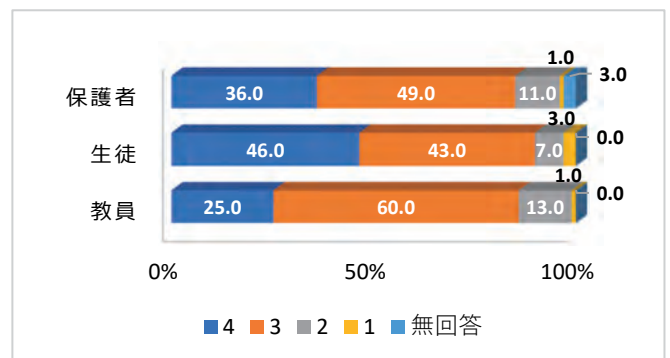
Q3 地域の課題に取り組むために、地域の方々や国内外の様々な組織と連携している。



Q4 地域の課題に向き合う授業や活動が、復興を目指す地域にとってプラスになっている。



Q5 地域だけでなくグローバルな視点(SDGsなど)を持つような取組が展開されている。



回答いただいた保護者、生徒、教員、いずれも肯定的意見が非常に高く、本事業の取組は高く評価されている。Q1をみると、生徒・保護者ともにアクティブラーニングや探究する力を育てる授業がふたば未来学園の取り組みと認知されている様子が見える。

Q2については昨年度の生徒の肯定的評価(84%)から91%に大きく上昇した。また教員についても昨年度の(87.8%)から96%と上昇し、地域の課題解決に向けた授業を行う学校文化が根付いてきた。

Q3は外部連携の状況についてのアンケートである。昨年度の生徒の肯定的評価(79.9%)から90%と上昇し、コロナ禍にあっても協働的な学習を行うことができた。

Q4は探究活動の地域へ与える効果についてである。この質問についても肯定的意見が8～9割ほどであるが、教員の肯定的意見が3者のなかで一番低くなっていることは残念である。生徒が実践している内容は地域の復興にも寄与することも教員間で目線合わせをする必要がある。Q5はグローバルな視点についてである。これも全体としては肯定的意見が多いものの、教員の肯定的意見が低い。教員の肯定的評価自体は75.7%から85%へ上昇しているため、積極的に自校の取り組みを振り返る必要があると考えられる。



## 5. 7 設定した目標の達成度

本事業で設定した目標と今年度の達成度について以下に示す。またそれぞれの項目について以下にまとめる。

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
a	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 本校で規定する人材育成要件・ルーブリックレベルの3年次最終調査における平均値					単位：なし
	本事業対象生徒：	2.63	3.10	2.62	2.90	3.5
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：ルーブリック評価は年に2回程度定期的実施する。生徒の自己評価であるが、生徒同士のピアレビューや教員との面談などで客観性を高める。途中経過のチェックも可能であり、定量的評価として好適である。						
b	(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 卒業時における、将来的な地域への貢献意識（社会との関わり）や、本事業による自身の価値観への影響の肯定的意見の割合で70%以上					単位：%
	本事業対象生徒：	83.2	84	89	87.4	70
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：アンケートは生徒の自己評価であるが、理由も書かせるため信頼性は高い。進学する生徒もあり、定着状況は長期的な視点で地元への還流を見据えた指標として取り上げることとする。						
c	(その他本構想における取組の達成目標) 本事業に関する保護者アンケートによる肯定的意見の割合					単位：%
	本事業対象生徒：		調査なし	67	88.5	70
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：保護者を対象とした学校評価アンケートの中に本事業に関する項目を加えて、保護者による本事業に対する意識調査を行う。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域の個人、団体との協働による課題探究プロジェクト数（3年次生）					単位：件
		31	40	52	60	50
	目標設定の考え方：本件数は、地域の方々との連携の度合いを示す指標として好適である。全校生の1年間を対象とする。					
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 視察、研修、発表会聴講等で来校する教育関係者、地域関係者等の人数					単位：件
		調査なし	調査なし	178	192	250
	目標設定の考え方：来校者数は本校の注目度を表す指標となる。※ただしコロナ禍の状況で未確定な要素が大きい。					
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 生徒の外部発表、コンテスト応募件数					単位：件
		調査なし	35	42	44	45
	目標設定の考え方：外部発表、コンテスト応募件数は、本校の完成度の高いプロジェクト数の指標となる。					

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値(年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 本校の活動に関わっていただく地域の活動団体または個人の年間のべ件数					単位：件
		150	165	301	310	200
	目標設定の考え方：関わっていただく地域の団体の数はそのまま活動状況を表す指標となる。※ただし、コロナ禍の状況であるため、オンラインでの対応活動指標に含めることとする。					



### 1a 本校で規定する人材育成要件・ルーブリックレベルの3年次最終調査における平均値

本校の開校以来、ルーブリックの最終調査における平均値は以下の表のように推移してきた（詳細は5.1参照）。

1期生 H29年度卒	2期生 H30年度卒	3期生 H31年度卒	4期生 R2年度卒	5期生 R3年度卒
1.99	2.63	3.10	2.62	2.90

1～3期生まで値が順調に伸びていたが、4期生は3期生よりも低下した。5期生はそこから2.90まで上昇した。本事業の最終年度となる令和4年度において「3.5」以上を目指しており、これを達成できるように引き続き取り組みたい。多くの生徒は年次が上がるにつれ評価が高くなり、探究活動も自走できるようになっていくが、一部、レベル0や1の評価のままの生徒もおり、そのような生徒について指導を手厚くする等、丁寧な伴走、指導を教員側で心掛けたい。その意味において、ルーブリックを「形成的評価」として活用したり、生徒と定期的に面談等を行ったりすることがより重要となる。

### 1b 卒業時における、将来的な地域への貢献意識（社会との関わり）や、本事業による自身の価値観への影響の肯定的意見の割合

この項目については2期生からアンケートを行っており、今年度の調査で4回目となる（詳細は5.5参照）。ここでは以下の2つのアンケートの平均を指標としている。  
Q①未来創造探究は、あなたが将来「社会とどう関わって生きていきたいか」を見出すことに繋がりましたか？  
Q②未来創造探究は、あなたが自分の価値観を考えることに繋がりましたか？

今年度、肯定的意見の割合は、Q①では87.4%、Q②では87.4%であり、目標である70%を大きく上回る結果となった。この値は4回実施しているなかで昨年より微減だったが、ここ2年は上昇している。このことから本校の探究活動は自分たちの生き方・在り方を深く考える非常に良い機会となっていることがわかる。

### 1c 本事業に関する保護者アンケートによる肯定的意見の割合

例年実施している学校評価アンケートのなかにも、今年度より本事業に関連する項目を追加した（詳細は5.6参照）。5つのアンケート項目のうち、肯定的意見（3および4の回答）について各アンケートの平均をとり、この値で評価することとした。結果としては72.7%となり、

昨年達成できなかった70%の目標を超えた。5項目のアンケートのうち、授業についての項目で昨年は保護者の未回答が多かったが（35%）、今年度は5%とおおきくさがり、本校での授業の取り組みが、保護者にもご理解いただけるようになったと考えている。

### 2a 地域の個人、団体との協働による課題探究プロジェクト数

本校の課題探究は、地域に関わるテーマとすることを基本としている。ここではそのうち地域の方と連携、協働しながら進めるテーマ数を取り上げることとした。今年度、3年次の課題探究のプロジェクトのうち、これに該当するものは60件あり、目標としている50件以上を達成することができた。高校2年次や中学生の探究プロジェクトを含めると常時200以上のプロジェクトが動いており、学校全体としても探究学習が活性化している。

### 2b 視察、研修、発表会聴講等で来校する教育関係者、地域関係者等の人数

本校への来校者数は昨年度まで調査しておらず、今年度よりカウントを開始した。今年度もコロナ禍により来校者がいない時期もあったが、最終的に192名の方に来校いただいた。今年度は直接来校した方（実質3か月の間）が集中し、オンラインで開催した生徒探究発表会では99名の方が外部から参加された。本校の探究学習が県内外から注目されていることから、本校の教育活動が今後も積極的に外部の視察を受け入れ、本校の教育活動の他への普及に寄与したい。

### 2c 生徒の外部発表、コンテスト応募件数

今年度の具体的な取組を以下に示す。件数は最終的に51件となり、今年度の目標である45件を上回ることができた。今年度の成果としては、

- ・Glocal High School Meetings 2022（1月、本事業（グローバル型）に指定された高校による探究活動コンテスト、本校から日本語部門1件、英語部門1件発表、日本語部門で金賞（生徒間投票特別賞）、英語発表部門で金賞（探究成果発表委員会特別賞）を受賞した。
- ・第21回福島県総合学科高等学校生徒研究発表会（1月、本校から2件発表）
- ・マイプロジェクトアワード福島 summit（1月、福島県内高校生対象の発表会、本校から10件応募、このうち1件が福島県代表として全国 summit へ進出）
- ・マイプロジェクトアワード全国 summit（3月、福島県

代表として1発表)

- ・第8回ふくしま学(楽)会(7月、早稲田大学が主催する産官学による地域復興に取り組む学会、本校から2件発表。またパネリストとして生徒1名が登壇。)
- ・第9回ふくしま学(楽)会(1月、早稲田大学が主催する産官学による地域復興に取り組む学会、本校から3件発表。広島研修で学んだ生徒たちを中心に発表を行った。)
- ・ふたばアワード(11月、1~3年による学年横断型の地域課題探究発表会、18発表)
- ・ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト(10月、福島県内高校生対象の発表会、本校から4件応募、優秀賞2本、入選、福島大AC賞受賞)

### **3a 本校の活動に関わっていただく地域の活動団体または個人の年間のべ件数**

第2章に詳細を示したが、今年度、本校の探究活動関連でお世話になった方は310件(3月15日現在)となっており、今年度の目標(300名)をやや上回った。探究活動の特定のゼミの連携数が突出しているという面もあるが、概ねどのゼミにおいても地域や外部の方との連携は進んでいる。昨年度からコンソーシアムが立ち上がり、加えてふくしま学(楽)会のつながりから外部の専門家ともつながることができ、外部連携を推進する環境が整ってきた。引き続き、外部の方の協力も得ながら活動の活性化を図りたい。グローバル型指定から2年で数値が倍増し、学校と地域の連携が質的にも量的にも深化していることが表れている。

## 6 研究開発の成果と課題

平成27年度から令和元年度までの5年間にわたり、スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定に取り組み、昨年度より指定されている本事業も、2年目が終了した。ここでは成果と課題を総括する。今年度は昨年度に立ち上げたコンソーシアムを本格的に活用していく段階に入った。また本校の設立経緯に立ち返り、双葉郡8町村という広域エリア全域での活動を意識して展開した。次年度は本事業の最終年度であり、成果と課題をまとめるとともに、探究学習についての伴走方法を県内外の学校や地域に情報発信をしていく必要がある。また課題の本質に迫れるような探究活動になるよう、指導法についても引き続き検討していく。

### 6.1 研究開発の成果

#### (1) 探究活動を支える外部との組織連携の進展

本事業を実施するにあたり、双葉郡8町村をカバーする広域コンソーシアムを結成し、本校の教育活動や本事業の取組について共有することができた。本校の探究活動について、広域で組織的に支援していただく初めての組織が立ち上がり、これまで個人での繋がりに頼っていた仕組みから変化したことは昨年度の大きな成果である。本年度は特に1年次の演劇プログラムでコンソーシアムの方々に演劇の取材先を紹介していただくなど、質的・量的に深化することができた。また、コンソーシアムの正式なメンバーではないが、ふくしま学（楽）会を通じて早稲田大学との連携をさらに強め、早稲田大学高大連携リエゾンマネージャー（本校常駐）による組織的連携枠組みの中にはこれまで本校では接点が少なかった理工系の領域の専門家も含まれており、この連携により生徒の探究テーマの領域が広がる可能性があり、今後の展開が期待される。

また、連携していた個人、グループを「地域知」「専門知」として整理し、これまで手薄だった「専門知」の方々との連携を強化することができた。この連携の糸口となったのは、ふくしま学（楽）会である。ふくしま学（楽）会はこれまで主に発表の場として活用していたが、関わり方が変わり、探究活動の強力なサポーターとしての役割を担っていただけるようになった。結果的にこのことが探究活動の進展に大きく寄与することとなった。

#### (2) 探究活動の面的な拡がり、量的、質的な進展

震災、原発事故により休校になった双葉郡5校の伝統を引き継ぐ形で開校したという本校の設立経緯に立ち返り、今年度も双葉郡全8町村をフィールドにすることを意識して探究活動を推進した。この結果、実際に目指していた領域に活動を拡げることができた。また、地域との方々の企画に参加するという関わり方ではなく、計画

の段階から対等な立場で参加し、ともに作り上げる「共創」的な探究が昨年よりも増えてきた。生徒の活動についてはその地域の方々に高く評価していただき、本事業の目的としている「教育と地域復興の相乗効果」の形に近づいているともいえる。

探究のプロジェクト数、外部発表件数は年を経るごとに増えてきた。これまでほとんどいなかった1年生の自発的な探究活動が始まったこともあり、生徒の探究に対する意欲の高まりが感じられた。

外部発表では、本事業に取り組んでいる全国の高校生の発表会である‘Glocal High School Meetings 2022’において、日本語部門では2年連続金賞、英語発表部門でも金賞のW受賞は本校を含め全国で2校のみであった。このことは本校の探究の質が着実に高まっていることの現れと言える。

#### (3) 探究活動への導入プログラムの進展

今年度から学校設定科目「地域創造と人間生活」が始まった。この科目では「困難な地域社会の現状とSociety5.0時代の変化を踏まえた能力と態度を養い、自己の在り方生き方を見出すカリキュラムを開発」することを目指し、3年間を貫いた探究活動の実践を意識した内容にカリキュラムの改善を行った。具体的には地域バスツアーの重点化、プチ探究やヒューマンライブラリーの導入、演劇プログラムの再編等を行い、探究活動を早期に導入する可能性について探ってきた。今年度の演劇プログラムの充実と、追取材を行うことで、より地域の課題を多面的に見ることに成功できたと思う。

また次年度はふたば未来中学校から高校に入る最初の学年となるため、中高6年間を見通したカリキュラムの開発を検討してきた。演劇プログラムから探究学習への移行期にどのようなプログラムを組み込みかが課題であったが、演劇プログラムの製作において地域の対立構造を地域に住む人のみに着目するのではなく、人と人が生み出す関係の分析を行う視点を加え深化できた。

#### (4) オンラインの活用

今年度も昨年度同様コロナ禍により、休校、行事の中止、授業や外部連携の制約等、学校活動に多くの支障が生じた。一方、このような中でも「学びを止めない」手段として活用したのはオンラインである。オンライン授業を行うにあたって、校内ではICTワーキンググループを中心に、環境整備、授業実践、教員のリテラシー獲得のための研修等がただちに行われた。これによりオンラインを日常的に活用することができるようになり、全国や県内でも先進的な事例として紹介された。探究活動では、これまで距離的な制約により連携が難しいと考えていた方々と簡単につながるようになり、質を高めることができた。また校内発表会についてもオンラインを活用し、遠方の方に気軽に参加していただけるようになった。「オンラインの普及」という意味においては、コロナ禍は良い影響をもたらしたと言えるが、海外研修をはじめとする様々な取組の実施に向けては、大きな試練となった。このような状況でも生徒と教員で様々なアイデアを出し、試練を乗り越える柔軟な対応ができた。この点も成果として取り上げたい。

海外研修について現地で研修ができない状況ではあったが、中止とするのではなく代替研修を実施することとした。代替研修でも海外研修に参加するのと同程度の学びが得られるように複数のプログラムを組み、参加する生徒を募った。参加希望者は海外研修の時と同程度集まり、生徒も海外に行けなくても獲得できる学びの意味をしっかりと捉えてくれた。代替研修のプログラム作成には生徒が主体的に動き、またオンラインも活用して現地との交流も行う等、現在の環境下、できる限りの実践を行った。緊急時でも臨機応変に対応することで「学びを止めない」ことができることを生徒、教員ともに学ぶことができた。

#### (5) 教員の指導力向上に向けた取組

昨年に引き続き、今年度も教員の指導力向上に向けた取組を組織的に実践することができた。具体的には以下のような取組が行われた。

- ・未来研究会（全体で行う教員研修）（年間11回）
- ・企画・研究開発部（15名程度）による定例ミーティング（週に一度実施。探究関連の取組についての議論、情報共有の場）
- ・各学年の探究担当者（各学年20名程度）による月次会（月に一度実施。生徒の指導の在り方等についての議論、情報共有の場）

- ・2, 3年の各ゼミ担当者（各3名程度）による定例ミーティング（週に一度実施。ゼミ内の探究テーマの指導、進捗確認の場）
- ・生徒の資質能力の状況については、年に2回ループリック評価を行い、その動向について企画・研究開発部が集約、分析を行い、探究担当者との共有、対策検討等を行った。
- ・生徒一人ひとりに対しては、ループリック評価をもとに、2年生以降は各ゼミ内での生徒同士によるピアレビューや担当教員との面談（ループリック面談）を行い、生徒自身の活動の振り返りや目標設定の機会とした。これらの取組が校内でほぼ定着してきたことは大きな成果である。ただし、今年度は校務多忙化の解消のために、各ゼミ担当者の定例会のメンバーをゼミリーダーのみに厳選したり、回数を減らすなどの取り組みを行った。しかし、このことはゼミの教員間の共有の機会を減らすことになり、あまり多忙化解消の効果よりもデメリットが目立つ結果となってしまった。運営指導委員会の田熊委員長からの指摘もあったように、メンバーの「目線合わせ」のための打ち合わせは減らしてはいけない。



## 6. 2 課題と今後の方向性

### (1) カリキュラムの変更と探究の前倒し

次年度から新学習指導要領が始まり、また本校では、ふたば未来学園中学校からの1期生が高校に入学する最初の年となる。新学習指導要領では「総合的な探究の時間」をはじめとして探究的な取組が本格的に他校でも導入されることになる。本校の教育課程も大きく変わる。特に新入生となる8期生のアカデミック系列では週36時間のカリキュラムが組まれている。半期ごとに前期は地域創造と人間生活2単位、後期は未来創造探究2単位、夏休みなどの期間を活用し未来創造探究1単位(35時間)に充てる形となる。これまでの学年と比べて、探究の活動時期が約半年ほど前倒しすることにより、様々な変更点が生じている。以上の点を踏まえつつ、新しい探究サイクルの形を模索していきたい。

### (2) 外部連携の活用促進

昨年度構築したコンソーシアムや、ふくしま学(楽)会との連携について、引き続き協働していきたい。これまでの取組の様子から、組織的連携を加速させれば生徒の探究活動にはプラスになることは間違いない。本校の生徒の特質や探究活動の特徴を理解していただいたり、配慮が必要な点を共有したり、お互いに情報共有をしながら進めていきたい。

またコンソーシアムのメンバーには理工系の関係者が多い一方で、本校ではその分野に興味関心を抱く生徒はそれほど多くはない。双葉郡地域は原子力発電所の廃炉やイノベーション・コースト構想、復興庁が進めている学術教育拠点構想等があり、今後理工系人材の活躍できる場が増えることが想定される。このような地域性も見通して文理バランスよく人材育成を図っていきたい。

### (3) 課題の本質に迫る探究活動の指導法

探究活動の深まりが見られる一方で、以下のようなケースも毎年見受けられる。

- ・風評、風化といった一般的な言葉で物事を捉えたり、巷にあふれる情報を鵜呑みにしたりする等、課題を表面的にしか捉えられない。
- ・課題を自分の印象やイメージだけで捉えて、データに基づいた調査を行っていない。
- ・教員から教えてもらった専門家や地域の方にはアクセスできるが、自ら開拓しようとしなない。地域の有名な方にはアクセスするが、市井の方々にはアクセスしようとしなない。

- ・調査研究のみで実践研究が伴わない。調査研究と実践研究の区別がつかない。
- ・調査研究、実践研究そのものが目的化してしまい、本来目指すべき目的がはっきりしない。
- ・実践研究まで進んだとしても言語化ができず、自分がどんな課題に対峙し、どんな解決をしてきたのか文章でまとめられない。

まずはこういった生徒の状態を把握する必要があるが、生徒も指導側の教員も感覚の隔たりがあり、目線合わせが必要である。今年度は論文ルーブリックを作成し、探究の論文指導について、一定の方向性を示せた。今後、これらのルーブリック作成と運用を検討していく。

また探究活動の指導法については企画研究開発部での定例ミーティングや2年生の探究活動の担当教員による月次会等を中心に議論を進めているが、理論的な指導法に偏りがちであった。こういう場で生徒の活動のケーススタディー等、実践事例を共有して指導法を検討する方向性も検討したい。

### (4) 教員のウェルビーイングの向上と多忙化解消

ふたば未来学園中学校・高校は探究学習の先進校として県内外からも認知されるようになってきた。その分、教員がかかえる校務量は多く、教員の長時間労働やオーバーワークが問題点としてあげられる。一方、その中でもなくてははいけないものもある。例えば校務の中で削減してはいけないものは「目線合わせ」のための会議や「理念を共有」する会議である。校務の内容を精選しつつ、教員のウェルビーイングを図るうえで、「自分たちが必要だと思う教育活動は何か」を教員間で議論し、校務の棚卸しをすることが必要不可欠である。

### (5) 目標管理

目的を達成する指標として掲げている目標について、今年度はいくつか未達成の項目があった。特に本校の人材育成要件であるルーブリックの値については、3.5といふかなり野心的な目標を掲げているとはいえ最終年度では確実に目標達成できるように取り組みたい。とはいえ、この数値はあくまで生徒の資質能力を伸ばさせるガイドに過ぎないため、数値に囚われすぎず、生徒の実践内容や活動の様子を丁寧に見ながら指導を進めたい。そのためには教員と生徒との関わり方について教員側が知見を深めていく必要がある。本校では教員のチームによる指導体制がある程度確立されており、この体制を活かして生徒の指導力を向上させたい。

令和3年度教育課程単位計画表

福島県立ふたば未来学園高等学校（本校舎）

〈普通教科・科目〉

全日制の課程 総合学科

教科	科目	入学年度		令和3年度			令和2年度			令和元年度			備 考
		年次		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	
国語	国語総合	4				4			4				現代文B、古典Bは、2・3年次継続履修
	国語表現											3	
	現代文A				2			2				2	
	現代文B				2	2		2	2			2	
	古典B				2・3	2・3		2・3	2・3			2・3	
歴史	世界史A		2	2			2	2			2	2	世界史Aまたは世界史Bと日本史Aまたは日本史Bまたは地理Bの計2科目を履修 地理Bは、2・3年次継続履修
	世界史B		3				3				3		
	日本史A		2	2			2	2			2	2	
	日本史B		3				3				3		
	地理B		2	2			2	2			2	2	
公民	現代社会	2			2		2		2		2		現代社会は、いずれかの開講年次で履修
	倫理				2				2			2	
	政治・経済				2				2			2	
数学	数学Ⅰ	3				3			3				数学Aは、いずれかの開講年次で履修 数学Bは、2・3年次のいずれかで履修
	数学Ⅱ			4				4			4		
	数学Ⅲ											6	
	数学A	2		2		2		2		2	2		
	数学B			2・3	2		2・3	2			2・3	2	
	数学活用			2				2			2		
理科	科学と人間生活	2				2			2				1年次に科学と人間生活か、化学基礎および生物基礎のいずれかを、2年次に基礎の付する科目1科目を履修（ただし、生物基礎は1・2年次続けての履修は不可） 物理、化学、生物は、基礎を付した科目を履修した者が選択可 化学は、2・3年次継続履修
	物理基礎		2				2			2			
	物理					5						5	
	化学基礎	2				2			2				
	化学			3	2			3	2		3	2	
	生物基礎	2	2			2	2		2	2			
	生物					5						5	
保健体育	体育	2	3	2		2	3	2	2	3	2		
	保健	1	1			1	1		1	1			
芸術	音楽Ⅰ	2				2			2				音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰから1科目を選択 芸術Ⅱは、1年次に「Ⅰ」を付す科目を履修した者が2・3年次いずれかで選択可
	音楽Ⅱ			2				2			2		
	美術Ⅰ	2				2			2				
	美術Ⅱ			2	2			2	2		2	2	
	書道Ⅰ	2				2			2				
	書道Ⅱ			2	2			2	2		2	2	
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3				3			3				英語表現Ⅰは、1・3年次のいずれかで履修 英語表現Ⅱは、2・3年次継続履修
	コミュニケーション英語Ⅱ			4				4			4		
	コミュニケーション英語Ⅲ					4			4			4	
	英語表現Ⅰ	2			2		2		2		2	2	
	英語表現Ⅱ			2	2			2	2		2	2	
	英語会話				2			2			2	2	
家庭	家庭基礎	2				2			2				
情報	情報の科学	2	2			2	2		2	2		1・2年次のいずれかで履修	

〈専門教科・科目及び学校設定教科・科目〉

教科	科目	令和3年度			令和2年度			令和元年度			備 考
		入学年度			入学年度			入学年度			
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
農 業	農 業 と 環 境		2			2			2		課題研究は、2・3年次継続履修 総合実習は、2・3年次継続履修 食品製造は、原則2・3年次継続履修
	課 題 研 究		3	3		3	3		3	3	
	総 合 実 習		3	3		3	3		3	3	
	農 業 情 報 処 理			2			2			2	
	野 菜			2			2			2	
	草 花		2			2			2		
	食 品 製 造		2	2		2	2		2	2	
	食 品 化 学										
	微 生 物 利 用			2			2			2	
	植 物 ハ イ テ ク ノ ロ ジ ー										
	農 業 土 木 設 計										
	農 業 土 木 施 工										
造 園 技 術			2			2			2		
測 量											
工 業	工 業 技 術 基 礎		3			3			3		
	課 題 研 究			3			3			3	
	実 習			3			3			3	
	製 図		2			2			2		
	生 産 シ ス テ ム 技 術			2			2			2	
	環 境 工 学 基 礎			2			2			2	
	電 気 基 礎		3			3			3		
	電 力 技 術			2			2			2	
	衛 生 ・ 防 災 設 備										
	社 会 基 盤 工 学			2			2			2	
	地 球 環 境 化 学		2			2			2		
	ビ ジ ネ ス 基 礎		2			2			2		
課 題 研 究		3	3		3	3		3	3		
マ ー ケ テ ィ ン グ		2			2			2			
商 品 開 発			2			2			2		
広 告 と 販 売 促 進			2			2			2		
簿 記		3			3			3			
財 務 会 計 Ⅰ			3			3			3		
原 価 計 算		2	2		2	2		2	2		
情 報 処 理											
ビ ジ ネ ス 情 報			2			2			2		
家 庭	子 ども の 発 達 と 保 育		2	2		2	2		2	2	
	子 ども 文 化										
	生 活 と 福 祉		2・3			2・3			2・3		
	フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 基 礎										
	服 飾 手 芸										
情 報	フ ー ド デ ザ イン			4			4			4	
	情 報 テ ク ノ ロ ジ ー										
福 祉	情 報 メ デ ィ ア			2			2			2	
	ア ル コ リ ス ム と フ ロ グ ラ ム			2			2			2	
	社 会 福 祉 基 礎		2			2			2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術		3			3			3		
	生 活 支 援 技 術			4			4			4	
体 育	介 護 総 合 演 習			4			4			4	
	こ ころ と か ら だ の 理 解		2			2			2		
	ス ポ ー ツ Ⅱ	10	10	10	10	10	2・10	10	10	2・10	
	ス ポ ー ツ Ⅲ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
音 楽	ス ポ ー ツ Ⅳ										
	ソ ル フ ェ ー ジ ュ			2			2			2	
美 術	鑑 賞 研 究			2			2			2	
	器 楽			2			2			2	
英 語	描 画										
	鑑 賞 研 究										
人 文	英 語 演 習			3			3			3	
	総 合 英 語 演 習			4			4			4	
	国 語 演 習			2			2			2	
	世 界 史 演 習			5			5			5	
理 数	日 本 史 演 習			5			5			5	
	表 現 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン			2			2			2	
	数 学 演 習			4			4			4	
	総 合 数 学 演 習			6			6			6	
	物 理 演 習										
	化 学 演 習			2			2			2	
	生 物 演 習			2			2			2	
	地 学 演 習			2			2			2	
応 用 数 学			2			2			2		
工 業	地 域 エ ネ ル ギ ー			2			2			2	
探 究	地 域 創 造 と 人 間 生 活	2									
総 合	産 業 社 会 と 人 間				2			2			
総 合	的 な 探 究 の 時 間		3	3		3	3		3	3	
小	計		74~			74~			74~		
ホ	ー ム ル ー ム 活 動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
合	計		77~			77~			77~		
組	編 成		4			4			4		



福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック (6 April 2021 Ver.)

学力概念	No	資質・能力・態度(まごめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
知識 Knowledge "What we know"	A	<b>社会的課題に関する知識・理解</b> 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目的の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目的の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。	
	B	<b>英語活用能力</b> 英語を使ってのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR A2レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2レベル)
	C-1	<b>思考力</b> 物事を論理的に考え、批判的思考で振り返ることができる。	与えられた情報を整理できる。	目的のある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げたてて考えられる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	弱美と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考える。本質を追求することができる。	弱美と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考える。本質を追求することができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、多面的・根源的な問いを立て、本質的に考えることができる。
	C-2	<b>創造力</b> 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基づいた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを生み出そうと、自分なりのアイデアを生み出そうと行動できる。	目的の課題に対して、これまでに得た知識や技術を関連づけながら、自分なりのアイデアを表現しようとして行動できる。	行動する中で、出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな価値的価値を創造することができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな価値的価値を創造することができる。
	D	<b>表現・発信力</b> どのような場でも臆することなく、自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも臆せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えた上、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えた上、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って腑に落ちる形で説得力のある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	<b>他者との協働力</b> 異文化・異なる感覚の人・異年齢等と乗れ越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことにより一人で取り組むことができる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけて、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。
	F	<b>マネージメント力</b> 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を待たず、解決に向けた適切な目標を設定し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担し、目標に向けた行動ができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担し、目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	<b>前向き・チャレンジ</b> 自分自身に存在として考え、課題解決のために自分の役割を見つめ、決断して取り組むことができる。	自分を意味する存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分を意味する存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
	H	<b>寛容さ</b> 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやる気持ちで接し、協調して共に高めようとする態度を育むことができる。	集団や他者の中で、他者を気遣うことができる。	集団や他者に対して、思いやりを持って行動し、周囲の幸せを考慮することができる。	集団や他者に対して、思いやりを持って行動し、周囲の幸せを考慮することができる。	集団や他者に対して、思いやりを持って行動し、周囲の幸せを考慮することができる。	集団や他者に対して、思いやりを持って行動し、周囲の幸せを考慮することができる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと捉えて受け入れられる。
	I	<b>能動的市民性</b> 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くするための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語ることができる。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語ることができる。
J	<b>自分を変える力</b> 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意欲を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づき、自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中で、自分の役割や意識を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大高的に行動できる。	社会の中で、自分の役割や意識を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大高的に行動できる。	

協働  
創造

自立

令和4年1月27日  
高校教育課

令和3年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」  
第2回コンソーシアム協議会 記録

日時 令和4年1月27日（木） 13:30～15:00  
会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン会議）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会	代表	笠井 淳一	
2	福島大学人間発達文化学類	特任教授	中田 スウラ	
3	福島相双復興推進機構	常務理事	遠藤 和人	専務理事代理
4	福島イノベーション・コースト構想推進機構	教育・人材育成部長	山内 正之	
5	NPO法人カタリバ 双葉みらいラボ	拠点長	横山 和毅	
6	ふたば未来学園中学校・高等学校	校長	柳沼 英樹	
7	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	教育次長代理
8	ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
9	ふたば未来学園高等学校	教諭	齋藤 夏菜子	企画・研究開発部副主任
	高校教育課	指導主事	赤岡 奈津美	

1 開会（13:30）

2 主催者あいさつ（高校教育課 志賀勲主任指導主事）

3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 柳沼英樹 校長）

- 本日は、コロナ感染防止対策のため、本校の出席者が最少人数となりますこと、ご了承いただきたい。最終年度に向けて、コンソーシアム委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。

4 説明

(1) 令和3年度研究開発実施状況【林教諭】

- 1年次における地域課題把握のためのフィールドワークから演劇までの流れを強化した。
- コンソーシアムのご協力のもと、取材先を広げることができた。
- 本稿の活動に関わっていただく地域の団体や個人は、224件を超え、目標を達成している。
- 論文指導において、ルーブリックを活用した。

(2) 令和4年度研究開発実施計画等について【林教諭】

- 令和4年度入学生（特に一貫生）の探究レベルをどう引き上げるか検討したい。
- 生徒の探究を通して学びと地域復興の相乗効果を創出できるよう、今後も継続して取り組みたい。
- 取材先の外側を取り巻く複雑な対立・分断の構造を描き出すために、生徒がより広範な地域の方々と向き合い、課題の深掘りをする必要がある。

- 最終年度となるため、情報の共有、県内外への発信等の効果的な方法を検討したい。

## 5 演劇発表

- 1年次の生徒による演劇「トリチウム」を動画で視聴。
- 概要：トリチウムなどの放射性物質を含む処理水の放出について、様々な立場の方々を取材し、それぞれの役になりきり、演劇にまとめた。
- 平田オリザ氏からの講評：国の立場の方の葛藤にしっかり向き合っていた。椅子の配置で心情をうまく表していた。人間の複雑さを深掘りし、フィクションの力を使って探究してもらいたい。インタビュー先の人に共感して、これを伝えたいという気持ちが強くなることは当たり前だが、ここで踏ん張って、深掘りをしてほしい。ロジカルシンキングとクリティカルシンキングで考えられるかが大切である。国の立場で国民から理解を得ようとしている方がどうすれば困るかを考えてほしい。例えば、その人のお父さんが漁師だったらどうなるのか。これが演劇を作るということ。別の言い方をすれば、意地悪になるということ。原発事故などの不条理と戦う皆さんには、もっと深掘りしてほしい。

## 6 協議

- 遠藤和人氏（福島相双復興推進機構）

- ・演劇をやることの意義について、お尋ねしたい。

【齋藤】フィールドワークにおいて取材をすることで、様々な立場の方の気持ちや葛藤を理解することができる。また、班員同士で話し合いをしながら作品制作をすることは、「合意形成のトレーニング」にもある。「トリチウム」の演劇では、追加の取材を行い、当事者の視点から課題を追究しようという姿勢が見られた。

- 中田スウラ氏（福島大学）

- ・生徒の外部発表、コンテストの応募について、重複して参加していることはあるのか。

【林】実績としては、43件応募したが、重複は2件のみである。低学年での応募も見られる。

- 福島イノベーション・コースト構想推進機構山内正之氏

- ・論文指導におけるループリックは非常に有効だと思うが、どういった内容になるか。

【林】本校の論文の特徴はセルフエッセイが含まれること。自分が震災とどのように向き合ってきたかが探究に大きく関わる。その上で、論をまとめるために、アブストラクトシートを作成させた。

- 笠井淳一氏（双葉郡教育復興ビジョン推進協議会）

- ・双葉郡独自に、ふるさとや復興に関する探究的な学習として、「ふるさと創造学」を推進しているが、ふたば未来学園の取組は、大変参考になる。

- ・演劇における取組を共有できたらいいのではないかと。

【林】ふるさと創造学発表会后、コロナ禍で探究があまり進まなかった生徒たちが小・中学生をもっと巻き込んで活動したいと言っていた。中高交流会等が生徒の探究の交流の場になるとありがたい。

- 横山和毅氏（認定NPO法人カタリバ）

- ・地域の課題とは、そもそもどういったものになるか。様々な学校で探究学習が行われているが、挙げられた課題を見てみると、人口減少、エネルギー問題などがよく挙げられている。地域における本質的な課題は、何かを発見させることが大切。

【林】引き続き高校とカタリバの連携による学びの協働・協創をお願いしたい。

## 7 閉会（15：00）



令和4年1月25日  
高校教育課

令和3年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」  
第2回運営指導委員会 記録

日時 令和4年1月25日（火） 15:00～16:30  
会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン開催）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	OECD 教育局	シニア政策アナリスト	田熊 美保	
2	慶應義塾大学	教授	飯盛 義徳	
3	ふたば未来学園高校	校長	柳沼 英樹	
4	ふたば未来学園高校	副校長	南郷 市兵	
5	ふたば未来学園高校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
6	ふたば未来学園高校	教諭	齋藤 夏菜子	企画・研究開発部副主任
7	ふたば未来学園高校	教諭	高野 寛之	企画・研究開発部
8	ふたば未来学園高校	教諭	塩田 陸	企画・研究開発部
9	ふたば未来学園高校	常勤講師	山内 姫	企画・研究開発部
10	ふたば未来学園高校	教諭	荒 康義	企画・研究開発部、3年次主任
11	ふたば未来学園高校	教諭	鈴木 知洋	企画・研究開発部、2年次担任
12	ふたば未来学園中学校	教諭	新田 健斗	企画、3年生担任
13	NPO 法人カタリバ	拠点長	横山 和毅	
14	NPO 法人カタリバ	職員	内海 博介	
	高校教育課	課長	平澤 洋介	
	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	
	高校教育課	指導主事	赤岡 奈津美	

- 1 開会（15:00）
- 2 主催者あいさつ（高校教育課 平澤 洋介 課長）
- 3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 柳沼 英樹 校長）
  - 地域の皆様のご支援をいただき探求活動ができたことに感謝したい。コロナ禍における制限や限界を感じる中、教職員・生徒一丸となって、地域とのつながりを持たせていただくことができた。
  - 今年度の取組を分析していただき、最終年度に向けた課題について、運営指導委員の皆様のご意見の伺いをお願いしたい。
- 4 委員長あいさつ 田熊美保氏
  - 2022年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会では、日本語・英語発表部門の両部門での金賞受賞につきまして、おめでとうございます。前回同様、こちらから指導という形ではなく、皆さんが解を見つけられるよう、対話を中心に進めたい。

## 5 説明及び協議

### (1) 「ふたばメディア」について（生徒より）

- SNSとWebサイトを利用した複合メディアで探究活動の発信をしている。未来創造探究における問題点（探究活動の集約と発信がされていない、一過性の取組になっている）を解決するために立ち上げた。
- 年間1万2千円の活動費がかかるため、地域の事業所の広告を載せるようにした。
- 卒業生、在校生、地域の人々とのつながりを可視化した。メディアとして、データベースとしての新たな可能性がある。調査のアクション（意識調査やアンケートなど）のデータを共有すれば地域の財産となり、データに基づいた活動につながっていく。

### (2) 質疑応答

#### <飯盛義徳氏>

- 継続性の担保、引き継ぎについてはどう考えているか。  
【生徒】後継者を探しているところである。候補者はいるが、発信しながら探している。
- 情報の保管だけではなく、更新が重要。いつも同じ情報だと見なくなる。協力してくれる人がインセンティブを感じるか、やって良かったと思えるかについては、どうしているか。  
【生徒】5年支援してくれる2社の協賛事業者がいる。影響力が必要不可欠であり、情報発信で魅力を伝えたいと考えている。

#### <田熊美保氏>

- ふたばメディアの目指す目的は何か、何か変えたいものはあるか。  
【生徒】探究活動を集約することで地域を復興させることが目的である。その中で、ふたばメディアを通して、双葉地区の魅力を伝えたり、探究活動の底上げを図ったりしたい。
- 探究活動の共有については、ふたば未来学園の先生方も問題意識を持っている。学校内だけでなく、他県や世界の人々と共有するためには、データベースをカテゴリー化し、共通言語があるとなつたりやすい。イスラエルで行われているブロックチェーンで生徒の成長を可視化する実験と似ている。

### (3) 今年度の研究開発実施状況（林教諭）

#### ① 未来創造探究実施状況

- ・コロナ禍でもコンスタントに実施できた。
- ・1年次の演劇において、コンソシアムにご協力いただき、取材先を広げることができた。
- ・探究活動を論文としてまとめるために、3年次において、論文ループリックを活用し、指導しやすくなった。
- ・6月に開催したみらいフォーラムは、文化祭の代替行事である。海外研修の成果やミャンマーからの留学生による発表、情報発信をテーマにパネルディスカッションなどを行うことができた。

#### ② 目標設定シートのアウトカムについて

- ・本校で規定する人材育成要件・ループリックレベルは、3年次最終評価が2.90となった。年々上昇傾向であるが、3.5が目標。これは、野心的な目標である。
- ・2020年から2021年は、マネジメントの項目が上がっていない。コロナの影響で計画通りに進まないこと原因と考える。
- ・ほかの項目については、目標が達成されている。

#### ③ 目標設定シートのアウトプットについて

- ・プロジェクト数は、3年生が約60、常に200プロジェクト動いている。数が多くなっているため、教員がどう関わるか課題。
- ・直接来校者数は、192人。コンテスト等応募件数、43件。概ね目標を達成している。
- ・関わっていただく地域の方の延べ人数は、260～270人くらいになる。企画の段階から協働的な関わりが見られ、質的变化が見られた。

- ④ 来年度に向けて
- ・中学校からの一貫生においては、探究の前倒しが可能。高校から入学する生徒をいかに巻き込むかを考えている。
  - ・探究発表会は複数日を設定する予定。
  - ・これまで御指導いただいたように、地域が活性化する探究活動が重要と考えている。今回のふたばメディアのように、いかに探究を引き継いでいくかも課題である。
  - ・教員の多忙化が見られる。教員のウェルビーイングも考えたい。
  - ・教員間で探究のノウハウの共有する時間は必要。
  - ・最終年度において、取組をいかに発信するかが課題。

#### (4) 質疑応答

##### <飯盛義徳氏>

- 論文指導において、どのような指導をされているか、分量はどのくらいかかせているか。  
**【荒】** I B (国際バカロレア) の Extended Essay (課題論文) を参考にした。要旨を最初にかかせると。要旨を骨格とし、目次をつけて肉付けする。世界の課題につながるように考察する。レベル 1 から 5 までである。今までは、分量は多ければいいという指導であったが、読みやすい 8, 0 0 0 字~1 0, 0 0 0 字程度の分量で書くよう指導している。
- 毎年ゼロスタートは大変であるため、例えば、大学 4 年生による発表会において、下級生にも建設的なコメントを書かせるという方法は有効である。下級生に論文の型を理解したり、作成の見通しを持たせたりすることができる。上級生と下級生の「共創」が見られる。半学半教(あるときは学び、あるときは教える)の関係性こそが「共創」であると考えられる。  
**【柳沼校長】** プレゼンのスキルは高まっている。読む人にわかりやすく伝えること、学年を追って系統立てて論文指導していくことが課題。下級生に見てもらおう方法について参考にさせていただきたい。
- 書くときの説得力と妥当性は、話すときとは異なる。書き方の基本を教えることは大事。引用、参照などのルールも学ぶ必要がある。大学では、ライティングコンサルタント(博士課程の学生)から論文の書き方や引用の仕方を学ぶという知の循環がある。文章を書くこともグローバルの要件だと思う。

##### <田熊美保氏>

- グローカルという考え方はいろいろなところで見られる。日本の探究活動を見ていると、地域と世界を分けて考えているので、地域と世界を結びつけようという意識が強い。ヨーロッパでは、グローバルとは地続きの発想。書く指導においても、グローカルの発想が大事。ふたば未来の取組がアカデミックライティングの高大接続になるといい。
- 先生方のウェルビーイングのために、学校全体のシステムチェンジについて、どう考えるか。  
**【荒】** 探究の指導としては、教えなければいけないと一人で抱えるとキャパオーバーする。一緒に楽しんで考えていくジェネレーター立場になったり、ほかの先生方と役割分担をしたりするといい。  
**【齋藤】** 演劇においては、毎年同じようにやれば楽かもしれないが、生徒の特性に合わせてやりたいため、労力はなかなか減らない。
- **【横山】** 柔軟な考え方ができるといいが、なかなか難しいこともある。カタリバとしても、先生方の変容に伴走したい。開校からやるが増えているので、何をやらないかという議論が必要。先生方のウェルビーイングと生徒の学びの両立を目指すのはどうか。企画研究開発部の存在が大きいの。先生方に対話の文化があるのが素晴らしいので、維持してほしい。
- 先生同士のメンターシステムはあるか  
**【横山】** 探究指導において、長年いらっしゃる先生と新しい先生という組み合わせにしたり、月次会(月 1 回のミーティング)でゼミごとの課題や好事例の共有をしたりしている。
- 対話において、インフォーマルな関係性を作れるといい。探究か教科かと分けて考えるのではなく、連携させるから負担が減るといえる考え方にする。大事なことを抜き出すといい。



【林】会議の回数や出席者を減らしたが、先生方のノウハウの共有や擦り合わせの重要性を感じている。

- ドイツの学校では、会議のための会議は減らすが、目線合わせ、歩幅合わせ、呼吸合わせの会議は必要と言われている。

【荒】クロスカリキュラムは、本来どういうものをめざすのか。

- 先生が授業をデザインするというよりも、共創のアプローチでもある、生徒も授業をデザインする主体と考えるパターンもある。生徒が持っている知識を活用することも有効である。

## (5) まとめ

＜飯盛義徳氏＞

- ふたば未来学園は、全国の先頭ランナーならでは大変さがある。ふたば未来の先生方や生徒の活躍を全国の学校が注視している。正答がある取組ではないが、全国各地に萌芽的な取組が見られる。地域活動と学校の教育活動をつなげる研究をされている方がいるので、そういった知見も生かしてほしい。

＜田熊美保氏＞

- 知りたいことがあれば、こういった会議だけではなく、いつでも私たちに気軽に尋ねてほしい。皆さんの知見をまとめて発信することは、次世代の生徒たちのウェルビーイングにつながる。

＜南郷副校長＞

- 「ふたばメディア」における探究活動では、教育を俯瞰して見ながら課題を指摘している。まさに学びと地域復興の相乗効果のサイクルをどう作っていくかという議論とつながっている。まだまだこれではだめだという意識やプラットフォームの具現化が来年度、考えるべきことである。また、ケースメソッドをどう入れれば、探究が深化するか、いかにコンテキストベース、コンピテンシーベースの学びに変えていくか、楔を打っていきたい。また、業務の軽減化についても、しっかり考えたい。

＜柳沼校長＞

- 多忙な状況を減らすには、メリハリをつけてやる必要がある。多忙感を減らすために、チームでやる、成功体験を分け合う体制づくりをしていきたい。多忙な状況を解決するためにはどうしたらいいか、解が見つからないが、チャレンジしていきたい。

## 6 閉会（16：30）

令和3年度 5期生プロジェクト紹介一覧

原子力防災探究ゼミ			
探究テーマ		探究テーマ	
マイクラでつくる双葉郡		村おこし in 葛尾村 !!	
内容	メンバー	内容	メンバー
①福島の中でも外でも福島や原発の情報に触れる機会がない。②1、吉川彰浩さんの話し合いで私たち高校生の視点を含めた未来も創ろうという考えを得た。2、福島学(案)会に参加した。③間違った情報を正しい情報と思い込んでいる人や、身近にある危険や特徴を知らない人が多い。そのため自分の目で見たほうが何が正しいか判断できると考え、バーチャル上に今の原子力発電所を再現している。④福島を等身大に感じられたり、自分の目で見て考えるきっかけになってほしいと思っています。	菅波 竜人 猪狩 大樹 森 俊輔 山内 直 渡邊 快 浅川 悠	自分たちの解決したい課題は、葛尾村の小・中学生の人数が少なく、スポーツ大会などのイベントに人が集まらないことです。葛尾村の小・中学生は自分たちの住んでいるいわき市と比べてとても人数が少なく、人が集まらないことが自分たちの課題です。解決に向けたアクションはまだやってはいませんが、今後、葛尾村の教育委員会さんと葛力創造舎の下枝さんと協力をし、葛尾村の小・中学生と仲良くなってイベントに参加してもらえるように学校などに行き、交流を深めていきたいと思っています。解決のためのアクションは上に書いたことと同じです。全国や世界の課題と照らし合わせて少子高齢化だと思っています。	市川 爽海 島山 潤也 園部 瑠伊
探究テーマ		探究テーマ	
「開けてびっくり! 浪江の宝箱!」		鉄たまごという地域の可能性	
内容	メンバー	内容	メンバー
①住民の帰還率が低く、若い人が県外や地域外に出てしまうことが多いことから、住民の方が帰ってきたいと思える町にする。②浪江町に実際に足を運ぶ。アンケートを行う。浪江町以外の双葉郡内他の町と比較して考える。③ふたば未来学園の中高生を対象としたワークショップを行い、浪江町の伝統的な魅力や新しく行っている活動を見て、浪江町の魅力を知ってもらった。また、浪江町の魅力を生かした商品を考えてもらう。浪江町の「浜の輝」を使った料理を考え、浪江町商工会青年部の皆さんと料理対決のイベントを開催した。④福島県の双葉郡で避難解除が最近された町では、まだまだ10年前に時が止まったように建物などが残っている。少しずつ町を戻していくには、地域を盛り上げ戻ってくる人を増やすことが大事だと思う。それは世界や全国で過疎化が進んでいる地域や、同じように災害や被害を受けた地域も同様だと考える。	荒川 礼奈	①貧血で悩む友人や地域の高齢者の貧血問題について、地域の砂鉄から製鉄を行い鉄製品(鉄たまご)を作る。お湯を沸かすときに鉄たまごを入れ、そのお湯を飲むことで鉄分の補給を行う。②「まほろん」に行く→浜通の製鉄の歴史や製鉄の方法を学ぶ。岩手県南部製鉄所を制作している工房に修行に行く→鉄鉄を溶かし鑄物をつくる工程等を学ぶ。福島市の刀匠藤安将平氏の工房に行く、古代鐵研究所所長吉田秀章氏の講話→海砂から砂鉄の分別、炉の作り方製鉄の方法③・小高町村上海岸、鹿島町右田浜海岸、四倉海岸、広野海岸の4カ所から砂を採取。→分析を依頼・鉄穴流しをするための材料購入・道具の作成・鉄穴流しの実施 広野と村上について、砂3kgから2回行い、とれた量と成分の分析・製鉄炉を製作するための材料購入・道具の作成・平工業高校から機材の借用・7/14(水)第1回製鉄・8/18(水)第2回製鉄④広野町や近隣の海岸から採れる砂鉄から鉄製品が作ることができる可能性。現在日本は鉄鉱石や石炭を100%輸入に頼っている。資源供給の見直しになるのではないかと、また広野町の砂鉄から刃物等の製品を作れば、町おこしや産業の一つとして有効になるかも知れない。	木田 晏奈 宮迫 柚果
探究テーマ		探究テーマ	
環境事業でシビックプライドを作ろう		物語をきっかけに	
内容	メンバー	内容	メンバー
双葉郡八町村の経済循環率をまわし、環境にやさしいという新しいイメージを作り他県や世界からのイメージチェンジをはかること。震災前後の経済循環率をデータを使い比較。双葉郡に新しいイメージを定着させるには、何かいいのがあるか、一環境に配慮したものはなにか、ネットを使い調査。環境に配慮された商品を作り、どうやってサステナブルな社会・地球環境にしていくのか。地球温暖化が進み、世界では多くの国が温暖化・自然環境に対し政策を打ち出し環境経済にお金が回るようになってきた。その流れにのった探究活動である。	木田 晏奈 草野 真緒	福島への興味を呼び込みたい。また風評被害克服。福島県、また双葉郡の特産品や観光名所を調べました。小説投稿サイトで福島県を舞台にした小説の投稿。興味を持ってもらうきっかけ作り。復興の定義とは何かを考えた時に、震災を忘れず、しかし震災が原因の悪い面(風評被害)などは忘れられていくことではないかと考えました。	猪狩 玖美
探究テーマ		探究テーマ	
Future Quest		双葉郡内の未来時代を描く	
内容	メンバー	内容	メンバー
①負のイメージが残る双葉郡の町づくり ②放射線ワークショップ・廃炉フォーラム、3.11を学ぶ会、双葉郡バスツアー、双葉町街づくり会議、広島研修、大川小見学 ③桜ウォークゴミ拾い、ハイスクールアカデミー、双葉町6号線花壇・看板づくり、自動販売機設置 ④SDGsの10(人や国の不平等をなくそう)16(平和と公正を全てのの人に)と風評被害を無くす取り組み。11(住み続けられる町づくり)と町づくり活動が繋がるのでは?	渡辺 空	双葉郡内では、東日本大震災から10年が経ちましたがまだまだ復興が進められていない中でも絵を描いてやっています。また、解決に向けた調査アクションでは富岡町役場に行って復興のまちづくりのことを話をしました。解決のためのアクションでは、絵を描いたりするなどの作業をしています。全国などの課題と照らし合わせた考察では、皆さん方が戻ってこられるようにするために絵を描いて見せています。	長谷川優貴

ゼミ総合			
探究テーマ		探究テーマ	
ふたばの花革命(メディア×原子力防災)		VR in Futaba(メディア×原子力防災)	
内容	メンバー	内容	メンバー
① 町民の方々のストレス軽減。そして楽しみ、癒しを与えたい。さらにこのご時世、コロナで自粛期間が増えているので軽いひまつぶしになればいいなと考えました。② 私はストレス軽減するには、体や心に癒しが必要だと思います。そしてネットで『癒しになるもの』と検索しました。すると、マッサージ、香り、温もり、肌触り、他にも木の揺らぎ、綺麗な景色、色彩など様々な物がありました。そしてコロナ対策しつつ時間がある時に作れるものでも思い出として形に残るものはないかと考えました。そこで考えたのがアロマティックパーです。③ そして私たちの今後の活動としては双葉郡の町の花でドライフラワーを作成。もちろん町の花以外でもドライフラワーの作成を試みたいと考えています。さらにナラロマさんが開発したゆずのアロマオイルを使用してアロマティックパーを作成していきたいと思っています④地域への貢献	下鍋桜瑛 八景好香	① 双葉郡に対して悪いイメージの情報が世の中に回っている。(原子力発電所の処理水問題など)双葉郡を良いところと思って貰えるようにするべきだと思い、今ふたば未来学園にいる私たちが伝えていくべきだと思った。双葉郡のことを知ってもらい自分事として捉えてもらうこと+コロナ禍で来てもらうことは難しい、遠くの方はなかなか来づらいということから、来てもらうためのきっかけ作りをしようとした。 ② 双葉町や広野町などを実際に見て周り自分たちでいい所を探しに行った。 ③ SNSなどを使い世界に発信したら良いと考え、動画を撮って発信した。VRとiPhone、それぞれのカメラで2つの動画を撮ってどちらの方が発信しやすいか比べた。YouTubeにあげた。 ④ VR動画を見てもうことは全国的にも来たいと思ってもらえることに有効であると言われている。国土交通省の資料によると、旅行前にVR又はARを使用した動画をみて、行ってみたいと思った人の回答が、強く思う46%、まあ思う46%という割合で8割以上になっている。これを見ても、VR動画を見ることは訪問意欲をあげるための施策として有効であると言える。現在コロナ禍でなかなか旅行などができないわけでもなく、観光業は低迷しつつある。オンラインイベントも、VR動画で発信することでコロナ禍の現状でも感染のリスクを冒さず楽しむことができるのではないかと考察する。	清野妃南子 村木亜花莉 横山日向子
探究テーマ		探究テーマ	
		富岡元気づけっぺ!!(メディア×アグリ×福祉)	
		内容	メンバー
		① 震災で活気がなくなってしまった ② 富岡観光協会さんと話した ③ 富岡観光協会さんの活動をInstagramを使って発信している ④ 富岡町を沢山のひとに知ってもらう	渡邊梨音 佐伯咲蓮子 宮本エリカ
		<b>観点</b>	
		① 解決したい課題 ② 解決にむけた調査アクション ③ 解決のためのアクション ④ 全国や世界の課題と照ら合わせた考察	

メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
ルーブリック、うちの言葉で訳してみた。		富岡の酒粕を使った新メニュー		大熊町民との繋がりを作る	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私達は、ルーブリック内の言葉がわからず、適当に行っている生徒がいることを知った。そこで、ルーブリック制作に携わった先生方に、行う意図や本来の実施方法を聞き、現在のルーブリックでは、一人一人の正確なデータを得られていないのではないかと考えた。ルーブリックを改訂し、副校長先生、校長先生に提案する。そして可能であれば、学校で私達が改訂したルーブリックを使用して貰おうと考えた。	加藤 鳴菜 白岩 眞奈	富岡町で作った日本酒から生まれる酒粕を用いて、新しいメニューを考えている。コンセプトにも出る予定。	青柳 彩音	自分達は大熊町を昔のような活気のある街に戻すためにはどうすればいいのかというテーマで探究しています。そのため大熊町出身者や大熊に興味がある人向けのイベントを企画、開催をしたり震災前の地図を作りたいと考えています。次に今まで自分たちが行ってきたアクションは大熊出身者の1名に昔の大熊町の現状と、今避難指示の解除された大川原地区の現状について教えてもらいその方を招いて座談会を開催しました。この2つのアクションから色々なことを学びました。	志賀 港 堀川 愛斗 志賀 弘崇
わかものごたがり		ペットとの避難		「他人事」を「知り合い事」に	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
東日本大震災後、双葉郡には避難指示が出され人口が減少した。地域内では交流が減り、外部からは原発事故があった場所というイメージだけが先行することで双葉郡に人が集まりづらくなる状況に危機感を覚えた。これからの双葉郡を守るために、これから大人になり産業に携わる若い世代が、地域について学び、衰退していく負の連鎖から脱却しようと考えた。そこで、私たち高校生が交流イベントなどを通じて情報発信をすることで印象だけでなく事実に基づいた情報を知ってもらい、マイナスな印象だけが浮かぶことを減らす取り組みを行った。	渡辺あさひ 小野澤彩乃	ペットとの避難について関心がない人、最低限のことを知らない人が多いことに着目しました。調査のアクションでは、ネットで避難に必要なもの、情報などを調べました。また、生徒向けのアンケートの作成で現状を調べました。解決のためのアクションでは、ポスターの作成、パンフレットの作成を現在進行形でしています。	鈴木 暹	双葉郡の中でも特に人口減少と高齢化が進む葛尾村に焦点を当て、関係人口を増やしていくことを目的としたプロジェクトです。主にコミュニケーションに関するワークショップや対話をういたイベントを行っています。葛尾村に関心を持って復興に協力してくれる人を増やし、村が壊れるのを防ぐことが目標です。自分事とまではいかなくても、関心を持つ人を増やしその輪を広げていくことはできると考えました。葛尾村の、人が少ないという弱点を逆手にとり、豊かな自然の中で対話することで、葛尾村の魅力に触れてもらいやすくなります。	政井 優花 半澤 詩菜
LGBTQと福島		震災について語ろう		ペットショップの実態と殺処分を減らしたい	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私が探究しているテーマは、「LGBTQを身近に感じるために」です。この探究テーマを決めたきっかけは自分が当事者であることが大きいです。このテーマのためのアクションは、LGBTQの周りからの印象や同年代のLGBTQの当事者に話を聞いてみたり、実行予定なのが、ジェンダレスファッションを体験してもらうことです。このテーマを実行している上で、また視野は狭いですが、この高校でLGBTQの普及が進めるといいなと考えます。	佐藤 愛	①もっと人が集まるようにしたかった。 ② ③ない ④震災を経験している東北地方の人たちがあんまり震災を忘れてる人が多かった	吉田 愛佳 佐藤 菜 横田 うらら	震災やコロナの影響で動物たちが幸せになれず、殺処分されていることが悲しく、変えたいと思った。保護活動のボランティアと情報収集を行うとともに、日本とドイツのペット事情を比較し、日本のペットショップのあり方を考察した。	長谷川翔大 佐藤 舞
正しい情報を私の言葉で		もったいないバナナ		すべての子どもにも豊かな生活を	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
福島に関する情報を得る手段が少ないことや、福島についての関心がないことから生まれる情報格差が原因で起こる偏見・差別問題を少しでも解決するために、Youtubeという多くの人が利用しているメディアを通して福島の現状などを配信する活動を行っている。福島＝原発＝難しいなどという印象を変えるために、福島の復興の象徴とも呼ばれているふたば未来学園の生徒である私の学校生活の様子など、比較的興味を持ってもらいやすい内容の動画を作ることを意識して活動している。実際にはどのような偏見・差別問題があるのか、福島県外の高校生は現在の福島についてどのくらい知っているのかを知るために、マイプロジェクトアワードなどに参加して意見交換を行った。また、NY研修を通して、世界でも同じように情報格差によって偏見・差別問題によって苦しんでいる人々がいることを知った。現在世界中で大流行しているコロナウイルスがその一例である。コロナウイルスの影響のため、なかなか思うように活動することが出来ないが、その中でもできることを見つけ、この探究活動を進めている。	古内 千聖	①栽培後に大量に廃棄されるバナナの葉っぱを使って、ビニール袋を使わずバナナを販売する。そして、環境を考えた広野のバナナを広める。→バナナ園にインタビューした際に中津さんが「バナナを美味しく作ることも大切だけど、環境を考えて育てることを大切にやっています」と聞いたから。②インタビュー2回本やネットで情報収集③バナナの葉を煮てみる・そのままの葉を使ってバナナを包んでみる④新しい包装方法でバナナを売ること、ゴミ(捨てても葉っぱだから肥料みたいになる)が減ったり、二酸化炭素を削減できる。・広野のバナナは栽培で無農薬とともに、販売も環境に優しくすることで新たな付加価値が生まれる。・普段大量に廃棄されていた葉っぱを使うことで、コストも抑えて環境にも配慮できる。	戸田麻奈未	①日本で起きている子どもたちの貧困を知り、わたしたちの目線で同世代と伝えたい。②弁護士の日波さんとアンド舎と連携をとり、わたしたち高校生にできることは何かを考える。③アンケート調査。子どもの貧困を伝えるためのポスター作成④子どもの貧困は世界でも問題視されており、その解決がSDGsの目標達成に近付くと考えている。世界で起きている問題ならば日本ではどうか考え目を向けてみると様々な問題があることが分かった。その貧困の原因が何からくるかをわたしたちなりに考え、日本での子どもたちの貧困解決の手助けをしたいと考えている。	田中 愛琉 多田 優輝
futabamedia		Local Wedding		韓国と日本が仲良くなるには？	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
『去ってしまった者たちから受け継いだものはさらに『先』に進めなければならない!!』というわけで、SNSとWEBサイトの複合メディアを作りました。 詳細は サイトURL futabamedia.com instagram futabamedia.com	長岡嘉人 八島光 諏訪光 青田康介	①未婚化、地域の活性化②葛尾村の祝言式の主催者の方とオンラインで祝言式のことについて聞いたり、探究の相談をした。③祝言式の引き出物として広野町のバナナを使った大福が饅頭のレシピを考えて、食品製造の先生に提出し、可能だと言われたので実際に作ってみる。④地元のものを使って地元で結婚式を行い、それがSNSや式場などを通して色々な地域の方の目に入って、自分たちも地元のものを使った結婚式を地元でしたいという人が増え、未婚化が少しは解消されるかもしれない。地元の食材などを使うことで、土産を知ってもらえて、風評被害も減っていくと思う。	渡辺 初美 大井 瑠月	① 日韓の悪いイメージや偏見を少しでも無くして仲良くなって欲しい②③・早稲田大学のシンボウム・早稲田大学の助教グアンホ先生と対談・バクさんと対談・元カトリバのスタッフのおかからの紹介で韓国語講座のイベント・韓国料理④・日韓の国民同士では仲が悪いではないが政治的な面でありよりよくはない状況である・韓国人は反日教育を受けていると感じていないが高齢者の方達が熱のこもった話を若い世代にするためその話を信じてしまう人がいることで誤解がうまれてしまう	山田あさか 吉田 春音

再生可能エネルギー探究ゼミ		アグリビジネスゼミ	
探究テーマ トリチウム処理水から学ぶ		探究テーマ 大熊×いちご×私	
内容	メンバー	内容	メンバー
キーワード:トリチウム 地元を学ぶ 科学リテラシー 私たちは、当時報道に大きく取り上げられていた原子力発電所の処理水について考えることで、地域のつながりから学びを深められると考えた。課題追究のために、論争となっていた点の議論や、モデルに伴ったシミュレーションを実感した。また、さらにミクロ的な視点で「水」そのものについて知らなくてはと思い、地元の浅見川の水質分析や、浄水場見学を行った。再エネゼミ所属だが、科学的な視点からのアプローチを行い、そこに情報メディア面の課題も見出すことができた。	猪狩宙 大越里輝 坂本颯太	大熊町では現在新特産品「いちご」を生産している。自分達は「食べることが好き」という共通点から「食」に関する探究を行っている。そして住民が最も少ない大熊町に目を向けた。現在大熊町は町内居住者がとても少ないことから「交流が少ない」と考え、コミュニケーションの場が極めて少ないと仮説を立てた。そこで交流会を開くこととした。……	久保木ふうか
探究テーマ 川		探究テーマ ニーハオーはばたけ広野バナナ	
内容	メンバー	内容	メンバー
解決したい課題は地球温暖化問題です。解決に向けた調査アクションは、川清掃に参加、ヤマメ移送に参加、スジエビを発見、スジエビの殻には炭酸カルシウムが含まれているので脱皮した時に二酸化炭素を吸収する、よってスジエビをたくさん脱皮させれば二酸化炭素を減らすことができ地球温暖化対策になる。世界的に地球温暖化は抑えないといけない重要な課題なので私たちの探究で地球温暖化対策をすることができます。3つのキーワード 浅見川・バイオミネラリゼーション・地球温暖化	鈴木 蓮 坂本 侑次 坂本峻太郎 菜花 侑生	①観光客がこない→食べにくる物がない ②ロールモデル森岡。食べにくるもので観光客を増やす。 ③そもそも浜に名物がない。名物を生み出す店がない。 ④新名物をつくる。お店を変革する。 ⑤名物をつくる。 セットミールビュッフェ	紺野空良 野口聖羅 坂本菜摘
探究テーマ リモネン		探究テーマ みんなバナナ好きだよねえ	
内容	メンバー	内容	メンバー
①広野の特産品(みかん)の皮が捨てられてしまっていて勿体無いということ。 ②みかんの皮にはリモネンという物質が含まれていてそれを使って何か出来ないかを考えた。 ③リモネンを取り出す為に水蒸気蒸留や、溶媒抽出法、ソックスレー抽出器を使って実験を行った。身近にある道具だけでも行った。 ④全国でも柑橘類の皮を捨てずに何かに使えればゴミも減るし、商品として売れることも出来ると思います。	石崎隆盛 坂本碧性 渡邊広樹	広野町にバナナがあるためこれからアクションをしようと思います。(バナナチップス、バナナカステラを使って料理します。)	山本龍矢 白土佳楠
探究テーマ 温度差発電		探究テーマ 古着にもう一度光を	
内容	メンバー	内容	メンバー
双葉郡は震災以前は原発によって栄えていたが震災以降は人口が減少し町によっては産業が少ない所もある。地域を発展させるためには新しい産業の開発が必要になる。その問題を発展途上の発電方式である温度差発電によって解決しようと考えた。温度差発電は、酸化したジエチルエーテルでタービンを回し再び液化させて循環することで発電するもので、それを作成するために実験を行った。去年は水槽で温度差を再現する実験をし、今年はソックスレー抽出機という実験器具でエーテルを循環させた。現在は発電機を作る準備を行なっている。	青山蓮 塚越優作	①解決したい課題は、まだ使える古着、小さくなった服を捨てるという問題です。②解決に向けての調査アクションでは古着を集めている会社を探そうということをしました。古着を集めている会社や業者はたくさんありましたが同じ活動目標を持っている人を探するのは大変でした③ザ・パープルという古着などを集めてる会社に全面協力をしてもらい古着をもらいその古着からエプロンを作り地域の人に着てもらい古着でもエプロンになることができるということを知ってもらいリユースを広めていきたいです④僕が解決したい問題はsdfsの12番作る責任、使う責任ですこの活動と世界の課題は繋がっていると僕は思う	神田 悠斗
探究テーマ 凍み天復活		探究テーマ 凍み天復活	
内容	メンバー	内容	メンバー
凍み天	藁谷 綺流		



スポーツと健康探究ゼミ			
探究テーマ		探究テーマ	
町民楽々大作戦		カメラでパジャリ広野町	
内容 ①高齢者の認知症予防②介護老人ホームの花ぶさ苑に話を聞き、高齢者の実状やどのような認知症予防をしているのかを聞いた。ネットや本で認知症についてや、認知症をスポーツを使って予防する取り組みを考えた。③介護老人ホーム花ぶさ苑に協力してもらいリモートでの認知症予防のトレーニングを実施した。④世界的に、高齢化が進んでいる。また、コロナウイルスにより体を動かす活動や密になる活動が制限されている。自分たちが行っているリモートでの認知症予防活動が広がっていけば認知症予防を続けることができ、世界で認知症の高齢者が減少していくと考えた。	メンバー 井土 峻佑 朝倉 啓期 田中 日向 太田 翔麻 鈴木 豪人 市川 龍信	内容 ①肥満度が高い、子供の体力低下②インターネット検索③カメラマンさんにアポ取り、カメラマンさんにインタビュー、動ける場所の検索SNSのアカウントの開設④世界の課題 競技スポーツの人口が少ない 解決策 競技スポーツに関する写真、動画を載せる つながりカメラ、SNSを使って課題解決へアプローチできる。考察 健康のための生涯スポーツをする人が増えてきている。	メンバー 渡部 陽 小磯 愛斗 山田 脩斗
探究テーマ		探究テーマ	
Listen&Move 熱中症予防		町の活性化のために何ができるのか	
内容 ① 熱中症の患者が高齢者に多いと言う課題② ネットで熱中症予防やなぜ熱中症になるのかなどの知識を取り入れた。いわきFCの岩清水さん、ミツフジの池上さんに協力してもらいデバイスをお借りした。③ 広桜荘(老後施設)で熱中症予防などについて講演会を開きレクリエーション形式で体を動かし、体力作りという形で行った。④熱中症は水分補給がとても重要視されているが、世界にはまともに綺麗な水を飲める国は多くはない。そのため、水分不足で亡くなってしまっている人という課題。	メンバー 小林倫太郎 萩原 聖也	内容 解決したい課題は現状を調べて町が活性化していると思い、町を活性化させたい課題です。そして解決に向けた調査アクションは町の活性化をするために、スポーツチームを設立したら活性化できると考え、いわきFCさんにスポーツチームの立ち立ちや経緯についてお話しを聞かせてもらい、自分達なりに考察しました。そして解決のためのアクションは町の現状について調べ、それを解決するために、インターネットで他県がどのような取り組みをしているのかを調べました。最後に全国や世界の課題と照らし合わせた考察について日本では過疎化が進んでおり、自分達のプロジェクトが全国で広がれば、過疎化に少し貢献できると思いました。	メンバー 吉田 翼 齋藤 広
探究テーマ		探究テーマ	
スポーツの力で世界と繋がる		TikTok ～いきいきプロジェクト～	
内容 ①さまざまな国のスポーツ環境を理解してもらい、更なる飛躍、発展に繋げる。②インターネットを使ってスポーツ問題について調べる。→日本と世界に縁がないことを知る。コロナ禍でも気軽に世界と繋がるためのツール作成。③YouTubeに動画を投稿して、世界中の誰もが視聴することができる環境作成。自分たちが情報発信者になること。④日本と世界では、スポーツに対する価値観がそもそも違うことや環境の違いなど。また、コミュニケーション能力の向上や国境を越えて繋がることが実現できる。	メンバー アスラブリゲ ネスタ ミルロイ 西間木祐太郎 渡部 拓斗 佐藤 大斗	内容 広野町の高齢者に視点を置き、基礎体力、身体機能の低下という課題を改善するため、保健センターの方やつくし会という高齢者の方々が集まる集会所の方と話し合い、協力の依頼をしました。そして、直接集会所に行き、高齢者の方々と一緒にダンスをすることが出来ました。SNSを通じて、私たちの活動を世界中に配信し、高齢者の方が運動をするきっかけになればと思います。	メンバー 小林 璃々 遠藤 佳歩
探究テーマ		探究テーマ	
障がい者スポーツの振興		貧血に悩む女性アスリートを少しでも減らそう	
内容 私たちは地域の障がい者スポーツの人口が少ないことを知り、近くの富岡支援学校を対象として障がい者スポーツの振興を課題としました。これまでに、知的障がい者のスポーツ、近くのスポーツ団体、富岡支援学校生徒の卒業後の進路について調べてきました。また、富岡支援学校の先生と話し合い、何度か質問や相談をさせていただき問題を解決する手助けとなりました。今後は実際に特別支援学校の体育の授業に参加し、体の動かし方を指導していく予定です。この探求活動を通して、世界にはスポーツを頼む文化がない国があることや施設や支える人材が少ないことがスポーツ振興が進まない要因であることを知りました。知的障がい者スポーツも共通する要因があり、この問題が解決できれば全ての人が運動を楽しむことができスポーツ振興が進んでいくのではないかと思います。	メンバー 松尾 駿 武井 凜生	内容 ①貧血に悩む女性アスリートを少しでも減らすことです。②貧血についての資料集め(ネット)、潮田玲子さんと貧血や女性の生理についてオンラインミーティング、第1回アンケート作りをやりました。③ふたば未来学園の中高生を対象に交流会を開くことです。一回の交流会を15分程度で行い、それをできたら2、3回やりたいと考えています。そして、交流会終了後参加者にアンケートをとり交流会後の変化について調べたいです。この間潮田玲子さんとオンラインミーティングをさせてもらったので、交流会に潮田さんがオンラインで参加してくれるか検討中です。④貧血が改善されて、女性アスリートのパフォーマンスが上がれば世界レベルも上がり、女性スポーツの差別や女性スポーツの禁止などの問題も減っていくと思います。過度な体重減量が原因でスポーツを辞めてしまう人もいますのでそこも貧血と関連づけて考えていきたいと思っています。	メンバー 小野 涼奈 田部 真唯 杉山 薫
探究テーマ		探究テーマ	
子どもの運動能力と向上		二ツ沼公園プロジェクト	
内容 ①子どもの運動能力の低下②いわきアスレチックアカデミーに行き指導の仕方や1つ1つの種目の目的を学んだ。スポーツテストをもとに行うため種目を行い記録測定と動画撮影。実践して撮影した動画とプロの陸上選手フォームをネットと比較した。③広野小へ確認後アクション④福島県の小学生は全国の小学生と比べて肥満率が高いことや日本の社会問題として子どもの運動する機会が少なくなるとスポーツイベントを開催する機会が減少していることから私たちが運動する楽しさを伝え、生涯にわたるスポーツに携われるようなきっかけ作りをすること。	メンバー 遠藤 春輝 須藤 颯斗 渡邊 真大	内容 まず課題として、地域の活性化、子供達の運動不足の改善に注目し、この2つの改善を目標にしようと思えました。解決に向けた調査アクションとして、まずはインターネット、学校の資料などから、地域の事を調べることから始めました。そして、二ツ沼公園さんに協力してもらいプロジェクトを進めようと思えました。解決のためのアクションとして、施設の見学、施設の関係者へのインタビューを行いました。最後に考察として、このプロジェクトは短期間では達成できないと分かりました、少しずつでもプロジェクトの規模を広げるために、次世代への引き継ぎを行おうと決めました。	メンバー 大塚 天 川俣 峻大

健康と福祉探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
コミュニケーションでつながるパト		認知症 もっと楽しく 毎日を(ゲーム編)		音楽療法で認知症対策	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私の家族が介護の仕事をしており、高齢者とのコミュニケーションに興味を持った。広野町は孤独死が多いことを知り、調査してきた。日本の高齢化率は26.7%で広野町の高齢化率は36.54%である。広野町は高齢化率が高く、孤独死も増えると予測される。孤独死の問題の一つは亡くなって長い間発見されないことである。孤独死された方、家族にとっても辛いことである。それを予防するため、自然と繋がりをもてる環境にしていきたいと考えた。高齢者のコミュニケーションをとるため、檜葉町の住宅街で実践を行った。会話をすることで自然と心が温まり、笑顔になることが分かった。交流館とカフェを合わせた場所を提案したいと考えている。	鈴木崇浩	認知症の発症により、ボーとする時間が増えるなどの生活変化によって、認知症が進行していくケースがある。このことが、世界でも課題になっており、自分の作ったゲームをその時間に使うことで、進行が抑えられると考えている。そこで、高野病院の協力を得て、二つのカードゲームを作った。「カードの大きさ」「硬度」「明らかに違う形」これら三つの新しい課題を抑えて新しい天気カードを作った。探究を進めていく上で、認知症患者に興味を持ってもらえるようにすることも大切であることが分かった。将来は、福祉系の職業に就きたいと考えている。この探究を生かして、関わっていき色々なことに興味を持ってもらえるよう行動していきたい。	矢内賢佑	私は、認知症の発症を遅らせる・予防することを目標に活動してきました。なぜ認知症予防をするきっかけになったのかあるニュースを見たからです。日本では認知症を発症する割合が年齢層が増えていくに連れて増えてきています。そこで記憶に残りやすく、不安や痛みを軽減、過去の記憶を思い出すことができる音楽の力を利用して活動してきました。今回、座りながら認知症予防を高齢者としたかったのですが、コロナの影響で断念することになり学生だけで行いました。ですがこのアクションを応用してまた挑戦してみたいと思います。	鈴木明日香
Enjoy with the elderly		aroma&refresh		高齢者の健康を支える食生活	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
2025年には「団塊の世代」が要介護者となり、現在よりもさらに要介護者の増加が予測される。高齢者になることができるに限られる。特に施設で生活している高齢者いつも同じ場所で同じことをしての繰り返しで変化が少ない。そこで高齢者の日常生活に変化をもたらしたいと思ひ広野町のデイサービスと一緒にレクリエーションを行ったり、入浴介助をするなど様々な実践活動を重ねた。	矢野 南夢	若者との間に壁を感じる高齢者が多く、「ハンドマッサージ」や「足浴」などのイベントを通して笑顔と健康を届けたい。今後、施設訪問やイベントに参加し、一人でも多くの人に元氣になつてほしい。「1リフレッシュ」をして欲しい。アロマスプレーを作っている。	阿部桃花	福島県の課題として、高齢者のQOLの低下に着目した。日本では、高齢化が進んでおり、現在高齢者の充実した生活が求められている。福島県の高齢化率は、全国平均を上回っている。また、高齢者は社会的孤立から外出する頻度も減り、生活リズムの低下から、低栄養になったり、生活の質であるQOLが低下している。高齢者にとって、質の良い食事は、楽しみや生きがいに繋がり、社会参加の意欲を向上させるなどメリットが多くある。そこで、食事の改善とQOLの向上を目指して、高齢者向けの献立を考えた。	高橋知那
ハンドケアで高齢者と交流		広野町探検隊～仲良し大作戦～		高齢者と高校生～偏見の壁をなくそう～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
高齢者と高校生の交流する機会を増やすこと。そのためにまずは自分から外向いて、高齢者の方と交流し、お互いのことを知る。広桜荘に行き実際にハンドケアを体験してもらった。高齢者と高校生お互いの印象が悪いこと。	秦 佳乃	私達は、肥満率を低下させるために、広野町を楽しく歩いて探検しながら解消させようと考えました。解消するためには、食事管理と運動が大切です。食事管理は、し過ぎると良くないし、難しいので、私達は、楽しく運動をして肥満対策をしようと考えました。広野町の広い地形や、たくさんのお土産を売って、子供たちと楽しく探検をしようと思ひました。探検をすることで、今まで知らなかった広野町の良いところを知るとともに、たくさん歩くことで肥満予防にもなり、一石二鳥だと思ひました。想定していたよりも多くの子供たちに参加していただきました。「また参加したい」という声もあって、この調子でたくさん子供たちに広野町の良さを広めていきたいという気持ちになりました。	根本聖菜 坂本華葉 皆川叶美	私はおじいちゃん、おばあちゃんが好きです。ですが、高齢者と高校生には壁を感じることがありました。身近な人にアンケートを取ったところ、高齢者に対するイメージとして、いいところを沢山あげてもらいましたが、中には正直に好きじゃないと答えてくれた人もいました。そんな人に高齢者のいい所を伝えたいため、実際に関わって、気づいたことを伝えたいことを友達にお話をしました。	横田 琴音
Make your life in a shelter better ~これからの災害に備えて~		The challenged		高齢者に生きがいを～交換ノートで幸せ～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
①将来自衛隊員になり、災害派遣に行ったときに被災者の不安を少しでも無くしてあげたいから。 ②夏休みの課題でコロナ対策を通じた避難所について調べた。 ・インスタグラムでアンケートを実施(1回目:投票、2回目:投票とアンケート) ・福祉避難所について調べた ・非常持ち出し袋について先生方にインタビュー ③避難所生活はほとんど不便だということ、プライベートが無いということ。 ④最終的には学校全体を使った避難所体験を目標に、最初は少人数で実現させること、外国の避難所と比較して取り入れられることは取り入れること。	新妻紗玖良	前々からなぜ障がい者と聞いただけでマイナスで酷いことが思い浮かぶのか謎だった。同じ人間なのになぜ壁ができるのだろうか疑問に思っていたし、私の叔母も障害を持って生まれてきて私が幼い頃に亡くなってしまっ記憶がほとんどないが、母から叔母の話聞いてると私は叔母のことが大好きだったそう。そんなこともあり、障がい者と健常者との壁をなくそう、もし障害に対する偏見を持っていたらマイナスなことではなく、プラスなイメージに変えたいと思ひ障がいについてもっと理解してほしいと思った。	小野桃楓	現在、高齢化が進んでいると同時に少子化の影響で高齢者の方は若い世代の人達と交流する機会が減っている。そのため、私は高齢者の方と関わる機会を増やし、高齢者の方に「幸せ」や「楽しさ」を少しでも多く感じてもらうために、高齢者の方と一緒にできる手芸などを考えたが、コロナにより難しくなりました。そのため、交換ノートに変更しノートでコミュニケーションを取っている。これから、若い世代と高齢者が関わりを持つ機会を増やして欲しい。今回の探究で学んだことを生かし、高齢者のQOLを向上させられるように介護職員として頑張りたい。	桜井瑞穂
子どもロコモ改善プロジェクト					
内容	メンバー				
子供ロコモの原因は、震災後や今のコロナ禍の影響で運動不足やスマホ依存症による姿勢の悪さなどから助長されていると私は考えています。そこで、おこなった調査は日本臨床整形外科学会全国ストップザロコモ協議会の方に今の現状を伺いました。また、解決のためには広野小学校で小学4～6年生を対象に、月1回運動不足の解消で子供ロコモ改善へとつなげる活動をおこなっています。内容は楽しんで、友達とまたやってみたくと思つてもらふような運動遊びです。最後に、子どもロコモ改善は大きな課題です。今は少人数対象ではありますが、後々全国の色々な方へ子どもロコモとこの活動を知ってもらい少しずつでも症状が改善に向かって欲しいです。	鈴木寧々				

令和3年度 6期生プロジェクト紹介一覧

原子力防災探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
絵本×震災の記憶		ゴミ×絵本×カレンダー		子供の積極的な地域社会参画で地域復興はできるのか	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
震災を知らない世代の増加や震災の記憶の風化、震災を体験した人の高齢化に伴う震災の記憶の曖昧、今もなお残る双葉郡内をはじめとする被災地への風評被害などの背景をもとに、双葉郡内の人に東日本大震災について話を聞き、その話をもとに子供から大人まで読むことができる震災に関する絵本を製作し、その絵本を読んだ人が地震が起きた時にパニックを起こさないように防災意識を高めることを目指す。	草野真優 猪狩晴日	私は今の海洋ゴミの現状を多くの人にとって欲しいと思いました。そのために子供から大人まで読める絵本にしました。でも絵本は1度読んだら終わりということが多いので絵本とカレンダーを合わせることで毎日見ることができ、楽しく海洋ゴミについて知ることができるんじゃないかなと思いました。この絵本カレンダーで多くの人がゴミに対して関心をもち一人一人が一緒に考えて行動できるきっかけにしたいと思いました。	高久明日花	小学校の時、地域復興事業に参加したことから地域に自分の声が届き実際に地域の大人が動きだしたり、笑顔になっていく様子を見て地域から求められていると感じられました。この経験から双葉郡では子供の声を行政や地域の大人たちが聞いているのか、また子供は自分の地域に対し存在意義を感じているのかという問いを持ちこの探究を始めました。これからは双葉郡の小学生が自分自身で考え子供が社会参画のできる環境・町づくりをしていきたいと思っています。	浦山夏美
どうしたら本を読んでもらえるか		再エネで広野町に彩りを		土壌・川底放射線量から考察する探究	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
中学校では必ず朝の学活の5分前に読書の時間があつたのに対し、高校では決まった時間がなく本を読む機会がなくなったことがきっかけです。そして、本校の図書室利用数(6月分)の中学と高校の貸し出し数の差を調べたところ200以上の差がありました。また10人に高校になってどれくらい読んだかアンケートをとったところほぼ全員が読んでいない結果になりました。広野町には本屋や図書館がないので本の魅力を伝えるためにこれから活動を広げたいと思っています	小野楓花 白土愛実	小水力の開発をし、作った小水力発電を使って地域のためになにかできないかと考えた再エネ班のメンバーと、小中高の通学路に街灯が少なく、夜道が危ないと感じ、自分に何ができるかを考えたメンバーで、再エネを使って広野町に街灯の代わりとなるイルミネーションをしたいと思い、協力して探究を進めることになりました。小水力と太陽光、風力(仮)を使ったイルミネーションの明かりで、広野町を明るく元気にします。	中島一葉 鈴木一真 西間木健太 貝沼秀基	具体的な概要はまだ定まっていますが、着々と方針が固まり、本格的な行動ができるように準備を進めています。他校との交流から吸収出来る有益な情報を基に計画を立てていきます。(現在は基盤がまだ完全ではないので未発展な段階です)他校との交流(例)福島高専の先生による土壌汚染に関する講座に参加しました。そこではいままでも知り得なかった貴重な情報をいただきました。先述の高専以外も参加するふたばのこれらに関する政策を疑似的に考える企画にも参加して、街づくりなどに関する重要なデータも手に入れました。とにかく積極的に使えそうな有益な情報は手に入れて探究に活かしています。	大谷心亮 国井太陽
地元の食材で地元を活性化させよう		高齢者と若者のコミュニケーションを作る		居心地の良い学校を ～インクルーシブ教育で障がい者と健常者の壁を無くす～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私たちは地元の食材に注目して探究をしています。私たち自身地元の特産品を考えた時に思いつかず悩んだことがきっかけです。そこからインターネットや施設を訪問して特産品を調べ、その食材を沢山味わえるものという事でライスパークを作ることにしました。ライスパークを作りましたがその後の活動に迷ってしまい路線を変更させることにしました。私たちは防災に目を向けて地元の食材を使った非常食のようなものを作ろうと考えているところです。	藍原さやか 高橋衣織	私の理想は、福島＝震災ではなく郷土料理などの話題も増えてほしいことと、高齢者と若者のコミュニケーションが増えて地域に賑わいがあり地域に誇りを持って居られるようになってほしいことです。それで、私はアクションとシミュレーション発表会にでて色んな方からの意見などを聞いたり、福島、双葉郡の郷土料理はどんなものがあるのか?などと調べました。これからは双葉郡に郷土料理は本当にあるのかを調査したいです。	松村美優	私は中高生の障がい者と健常者の壁をなくしたい!そんな思いから今のプロジェクトを始めました。今のふたば未来は障がい者に対する差別や偏見が多いように感じています。そこで私はインクルーシブ教育に目をつけました。インクルーシブ教育を行うことにより、障がい者も健常者も普通の学校生活を行うことができ、差別や偏見がなくなるのでは?なくなることによって、みんなで楽しく普通の学校生活ができるのではないかと、そんな優しい学校になって欲しいです。	阿部虹輝
A hidden AED		一人一人が考えられる防災		世代を超えた居場所づくり	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私たちは、日本のAEDの設置率は世界一なのに、心肺停止になった方の20人に1人しかAEDが使用されていないことを知りました。その他いろいろ調べた結果、need will canがそろっているAEDについての探究を行うことにしました。一番の目的は、AEDの位置を誰でもわかるようにすることです。そこに、その他の応急手当、AEDのデザイン、地域とのつながりも加えたいと考えています。全国的に普及させたいものは、全国AEDマップの登録とAEDの案内表示で、双葉郡やいわきでは、そこに地域とのつながりを入れるつもりです。具体的な方法として、フォーラムやサミットなど各種のプレゼンテーションに出て、全国に広げます。地域に関しては、大人向けと中高年向けに講習会のようなものを行う予定です。	久保田明日香 児玉花心	このテーマを設定したのは、津波で流された祖母の跡地に別の人の家が立っていると聞いた私は、津波が来たことも忘れてしまうのではないかとという危機感からこのテーマにしました。そこで、防災マップに過去あった災害情報をのせたらわかりやすいのではないかと、思い、情報を調べるため、調査しました。主な調査は三つあります。一つ目は広野町史を読みました。水害、飢饉、冷害、波浪が多い一方で、津波、地震に関する記述は少なかったです。二つ目は、国土地理院 災害伝承碑より地震、津波に関する石碑を調べました。岩手、宮城など他の県は多くありましたが、福島県は東日本大震災以前の災害情報は多くありませんでした。三つ目はいわき市役所の方にお話をうかがえる機会を伺ったので災害について聞いてみました。いわき市役所の方に震災までは災害がなく過ごしやすい土地と言われていたそうです。この三つの調査から福島県浜通り地域では、津波地震の少ない地域だったことがわかりました。このことにより防災マップにのせられる情報が少ないとおもったので別の方法で探求を行いたいけれどわからなくなってしまう思今悩んでいます。	大和田蒼空	“私は双葉郡でコミュニティの再生、居場所作りが問題になっていることと、自分が昔に経験した体験から、世代を超えた居場所作りという探究を始めようと思った。双葉郡では、東日本大震災により発生した原発事故の影響によりまだまだ多くの人が避難している人もいます。そしてほとんどの人が長年住み慣れた場所を離れて住み慣れた地域の住民同士とも離れ離れになり人と人との交流が疎遠になっているという問題があった。住民の中に一人暮らしの高齢者の方も多いと聞き、それに関する問題も聞き、居場所作りという探究にしたいと思った。また居場所の問題は高齢者だけの問題じゃないと思い、高齢者に限定せず小さい子供から高齢者までの世代を超えた居場所作りをしたいと思った。”	猪狩 羽琉



原子力防災探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
しおのみち		流木の可能性		檜葉町の特産品で商品開発	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
元々は、海洋ごみを軸に探究をすすめてきました。しかし、震災のこともきょうみを持ち始めました。おもに防災です。また内容は明確ではなかったのですが、ふかぼりしてきました。そこでも行き詰まりました。ラボや先生に相談してきました。そして私は「海と人との関係」はどのようなものがベストなのか？というになりました。これを軸としてまずは塩をつづけている私の祖父に話を聞きます。	吉田百華	ぼくは流木について発表します。流木を有効活用するために、色々考えた結果、ハスクチップやパークチップなどのウッドチップを作るかと考えました。しかし、機械が必要でできないと判断しました。いまは、アクアリウム用のりゅうや流木をインテリアとして使用できるように加工しようと考えています。インテリアにするときにライトにするなど実際に使えるようなものをつくりたいです。	大和田朝斗	初めは友達二人と私の3人で、自分たちが経験した震災のことを小学生、中学生に伝え震災のことを知ってもらおうという探究をテーマにやっていたが上手くいかなかったり個人的にやりたいことが見つかり、その探究を辞めました。今は一人で探究を進めていて20日に質問をしながら場という所へ行ってきました。現在のやな場には鮭はいないけど私のばあちゃん、その友達数人が檜葉産の、柚、さつまいも、米などを使ってお惣菜やお弁当を作って道の駅に販売しています。この前そのお手伝いをしてきました。	奥山優愛
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
補食の可能性		ふたばメディア		Let's cheer up ふたば!!	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は、将来管理栄養士になりたいと食に関することをテーマにしたと考えていました。自分自身、陸上部と広野駅伝チームに所属していてスポーツと食を繋げたいと思っていました。栄養教諭の先生の話聞いて補食は運動している人にとって調子をを整えることを知り、食とスポーツと補食を合わせることにしました。あと、SDGsで食品ロスに興味もあり、家庭内での残りやすいものに目をつけて補食をできないかと考えています。これまでの調査は栄養教諭の先生の話や、本校の女子サッカー部の先生の話や聞いていました。話を聞いていて私は、補食をとることについて個人でやっていると思っていましたが、本校の女子サッカー部はご飯を食べる際例えば乳製品が足りなかったら、足りない分を先生とやりとりしながら摂取していることが分かりました。私は、少しでもいいからサポートのできることがあればやりたいと思いました。	松本安春己	ふたばメディアを継承してそれを広める手段を探究の一つとしてやろうとしたら想像以上に活動してなく息詰まっていたやばい事と今まで行われてきた探究を振り返ってマンネリ化等の課題が起こっていないか調べてみたい。ふたばメディアに関しては今後色々話してどう改善するか考えていきたいと思っています。探究に関する考察に関しては先生から資料を買ってまとめていきたいと思っています。要するにまだ計画段階で何も進んでません。これから頑張ります。	長谷川優人	「双葉郡から双葉郡の今、応援、感謝を繋げる」小学2年生から始めたチアダンスの活動の中で出会った人々の想い、震災時たぐさんの人々に応援された経験から、今度は私が地元である富岡、双葉郡から様々なところに応援を返したいと思いプロジェクトを立ち上げた。地域イベントでのダンスパフォーマンス、フチ体験の実施の中で子どもたちの自己表現力、地域の繋がりに課題を感じ、現在は広野・檜葉・富岡の各小学校の先生方へのインタビューを経て、3町合同ワークショップを開催中。今後はこの取り組みを8町村に広げ、子どもたちの変化を調べると共に、8町村のコミュニティ作りを目指していく。	和賀葉々香

メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
松ぼっくりジャム		キャップアートで浮世絵を広める		生理によりそう探究	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私の探究のテーマは「松ぼっくりジャム」です。部活どうで広野町散策を行った際に、案内をしてくださった町民の方が「広野町の松ぼっくりでなにか作れないか」と言ったのをきっかけに松ぼっくりに興味を持ち、調べてみたところ松ぼっくりジャムがあることを知り、その珍しさから広野町になにか貢献できないかと思いこのテーマにしました。また、広野町の松ぼっくりを使う際に、空間線量測定器を使って広野町の安全性も伝えられたらなと思っています。今は広野町で取った松ぼっくりを学校にある空間線量測定器で線量を測っている作業を行っています。1度ではなく何度か測り、より安全性を示せたらと考えています。そして、松ぼっくりジャムを使ってどうやって地域へ貢献できるのかを模索しています。	佐伯香音	私たちは、キャップアートで浮世絵を広めることを目標に活動しています。浮世絵は江戸時代に国民の間で人気でしたが、今となっては知られてはいませんが、興味を持っている人は多くはありません。私たちは、地域に何かできるかを考えたとき、ペットボトルのキャップが分別されていないことに注目しました。そこでキャップを使った浮世絵アートを作ることによってペットボトルとキャップの分別につながればよいと考えました。	鎌水茜里 安部真利愛	私は生理の貧困を世界的な問題と捉え、まずは身近なところから解決のためのアプローチを試みています。貧困は金銭的な面だけでなく、心面でも貧しさはあります。私は生理がある人もない人も、正しい理解と平等な機会があるべきだと考えています。自分に出来るアプローチはまだわずかですが、まずは自校の生徒からの声聞き、具体的にはトイレにナプキンの設置・生体睡眠の取得を試みています。最終目標としては、世界から生理に対する過剰な差別がなくなり、不便な思いが減ることです。	川名春香
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
殺処分について(仮)		非常食の準備を当たり前に		不自由なく過ごすとは？	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
そもそも殺処分というのがあることには何らかの要因があると考えます。思っていたよりお世話が大変・費用がかかる、懐いてくれない、うるさい、など小さなことで命を育てるということを放棄し、一時的な感情で無責任に尊い命を捨てていく人もいます。そのような勝手な理由で動物たちの命を奪われたくないと思い、まずその要因に私たちが寄り添っていくと考えました。探究活動で私たちにできることは限られていますが、内容としては、まず広野町のペットを飼っている方々に直接コミュニケーションを取りながら調査し、何か悩みや問題がないか聞き出したと思います(アクション1)。そして、広野町の方から出てきた課題を元に私たちができることを考えて実行しようと思います(アクション2)。その際、アクションを起こす前に、あがりそうな課題や悩みを私たちでも予想してみても、実際はどうか比べてみようと思います。そして、命を育てるうえで大切だと思うことや責任の大きさを、実際にペットを飼っている私たちなりにまとめ、聞いてくださる方に少しでも伝えられればと思います。	林日菜 吉田瑠佳	避難所での避難生活は心身にストレスを感じるものだと読んでいたことがあり、非常時や避難所でストレスなく過ごすためにはどうしたらいいか考え、食事であれば個人でできることがあると思った。備蓄する非常食の量や備えておかなければならないものの情報をまとめて発信したいと思っている。家で作れる非常食の紹介などもやっていきたいと考えている。多くの人が防災の意識を持ち、これから起こると想定されている南海トラフ地震や富士山噴火のときに自分やまわりの人の命を守り、幸せを感じながら過ごせるような社会になったらいいと考えている。	大和田紗希	私の探究のキーワードは、「バリアフリー」「障がい」「不自由を少なく」です。なぜこの探究のキーワードにしたかという、ふたば未来学園の生徒さん、私も含めてですが、大きな怪我をして不自由な生活をおくっている人、町民の方や広野町に訪れた体の不自由な人がいると思います。その人たちがどうやって不自由なく暮らせるかを考えた時に、広野駅のことを思い出しました。広野駅はどちらかと言えば駅自体も小さめで、エレベーターやエスカレーターなどありません。私自身怪我をするまで不自由を感じませんでしたが、怪我をしたときや、怪我をしている友達の手助けをしたときに「あれ？もしかしたら私が感じていた不自由ない暮らしは、他に障がいを持っている人からしたら、不自由ある暮らしなのでは？」と感じました。その時にこの三つのキーワードを見つけて、今回の探究キーワードにしました。	坂本涼



メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
絵本で東日本大震災を伝える		子どもの貧困を増やさないためには		福島を海外の人たちに伝える	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
東日本大震災についての絵本を作り、多くの人たちに正しい知識を持ってもらい、震災を知らない子供たちにも東日本大震災について、また、正しい知識を伝える。そして、また同じような大災害がおきた時、命を落とさないよう、知識を持って行動できる人が増えるようにしていきたい。絵本を通して、命の大切さや災害の怖さなども知ってもらい、当たり前前に生活できることへのありがたさや他人事ではなく、自分にも起こりうることだと自覚をもってもらう。	館尾亜里紗 高橋明日花	私の、研究テーマは子供たちの貧困を増やさないためにはどのようなことが出来るかを元に活動しています。今現在問題になっている虐待や育児放棄など様々な問題が挙げられます。そこで、寄付里親という言葉を見つけました。寄付里親とは社会全体で子供たちを支援するという取り組みです。アクションとして寄付里親のとらきみをしている大阪の人とズームで繋がりが詳しく聞きたいと思っています。	高崎菜々美	自分たちの実体験から、海外の人たちから福島は良くない印象のまま10年が経っているのではと感じた。中国と韓国に興味がある私たちは、その二つの国の人たちをメインに、双葉郡の自然や郷土料理などの魅力的なところについて発信していこうと思った。動画作りや外国の人との交流を考えている。そこで、発信方法や伝え方、対象を絞ったのでこれからアクションにうつりたいと思う。	渡邊光季 吉田優美
発達障がいに対する取り組み		ふるさとの記憶を伝えよう		福島と世界	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
発達障がいの子どもが増えている中で、日本では学校生活では補えない療育ができる施設が少ない。あったとしても、療育が行き届いているかわからない。その中で、私は、今の日本の現状や福島県内の現状をしていわき市での現状を調べ、比べてみる。実際に、小学校で支援学級に入っている子どもの親へのインタビューや、療育施設に通う子どもの親御さんの声を聞こうと思っている。将来私は、医療と連携した療育施設を立ち上げたいと考えている。	蛭田萌々花	この探究を通して私は、私たちより下の年代の人にも、自然豊かで教育熱心で魅力が沢山ある自分のふるさと、大熊町を知って欲しいと思っています。そして、自分たちのふるさとに誇りを持って欲しいと思っています。そこで、私は海外と教育に興味があるため、小さい子たちに英語を混ぜてふるさとを伝えていきたいと考えています。伝えることで自分の故郷を伝えられると共に小さい子たちと関わり新しい気づきを得ていきたいです。	新田 萌	オリンピックなどで、福島の食材が色々と言われてまわってそれを聞いた時に、正しい知識がないからこのようなことを言っているのでは無いかという疑問が生まれました。そこで、僕は元々Instagramなどで外国の方との交流などが多くあったので、少しでも多くの人に伝えれば、その人も周りの人に伝えられるのではないかと思います。Instagram、Twitterなどを通して、多くの知識や、情報などを発信しようというふうに考え、今回の探究をやらせていただきました。探究内容は主に、Instagramなどで、外国の方々と話をして、印象を聞き、これを改善するために、TwitterやInstagramで情報を流すという活動(?)を行っています。	堀川優斗
音楽から		Enjoy園歌		浜通り×聖地巡礼	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は、音楽を制作しにかかっている。音楽制作は、具体的に町の歌を作りたいと考えている。そしていまはコロナ化だが、音楽の発表を様々なところで行いたいと考えている。そして、コミュニケーションや、音楽のヒーリングで、様々な人の心を癒すことができるようにという思いを込めて探究に取り組んでいる。私は音楽はかかせないとおもう。誰しも音楽は聴くものだ。それを最大限活かす、なおかつ地域にあった誰でも口ずさめるような音楽を作成していきたいと思う	齋藤康洋	「震災前の園歌の覚え方は今も受け継がれているのだろうか？」という探究テーマで進めています。この探究をしようと思ったきっかけは、子どもが好きだからです。あとは、やりたい事がなかった自分の好きな分野でやってみようと思い、この探究になりました。まだ、明確ではないのですがやりたいアクションとして、旧幼稚園を使ってなにかやりたいなと思いました。もっと頑張りたいです！	八巻希美	「浜通りについてあまり知らなかった」「こんないい所があるのに、今まで気づかなかった」以前、浜通りの外(県内)に住む友人にこう言われました。この事があって、浜通りの魅力を外の人達にもっと知って欲しい。震災前以上に観光客を呼び込みたいと思い、このプロジェクトを発案しました。キーワードは「楽しい情報」と「聖地巡礼」。きっかけは楽しい物がいいな、という願いを込めています。	村山空留実 村上翔悟
風評被害と心理		郷土料理を広める		男性も保育の仕事を目指しやすい社会にするためには	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は風評被害と心理について探究しています。まず、私がなぜこの探究テーマにしたかという点、双葉郡の課題の中で興味がある課題は風評被害についてでした。私自身も父が単身赴任先で風評被害を受けたのがきっかけで興味がありました。それと私が大学に進学して心理学を学びたいと思っているのでこのふたつをうまく組み合わせられないかと思いこの探究テーマにしました。まず、福島に対する偏見、差別はこのようなものが挙げられます。被害にあったのに確信の無い情報のせいで風評被害に苦しめられています。風評被害はなぜおこるのかという点と日本政府の誤解を招くような発表が理由としてあげられます。その偏見、差別が福島の人々に及ぼした影響はこのようなものです。そこで思ったことはこのふたつを上手く組み合わせる探究出来ないかということです。	鈴木麻友	「今の若い人は郷土料理を知らなかったり知っているけど食べたことがないことがほとんどで自分たちもそうだと感じ自分たちでも郷土料理を勉強しながら若い人達に広めていこうと考えました。まず自分たちでできることを考え郷土料理を作ってみることにしました。最初は個人で夏休み中に福島の郷土料理の味噌かんづらを作り夏休み明けの探究の授業で豆みそを作りました。まだここまでしか活動はできていませんが、これからは他にも少し郷土料理を作れるようになって人に教えられるレベルになったら郷土料理をみんなで作るワークショップなどを開いていきたいと考えています。	鈴木杏 石井楓恋 渡辺咲枝里	このテーマに取り組んできて、まず初めに今の保育でどのような問題があるのかと考えました。保育問題について考えたいと思い、いくつか問題を挙げてその中で保育士不足について調べようと思いインタビューを行いました。インタビューを行ってきて教育実習生の大学生二人の話が特に気になりました。大まかにまとめると、男性が保育の仕事を目指しにくい社会があるのではないかとということです。これから取り組もうとしていることは、これから保育の道に進む男性にインタビューすること、低い年齢の人たちに向けて保育の魅力を発信するという事です。	青木康汰
古着リサイクル		双葉郡を海外へ		果物の砂糖で情報発信	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
古着リサイクル(リメイク)によって、古着の捨てられる数を減らし、環境に貢献する。古着をリサイクルし、タオルやハンカチ、ぞうきんなどにする事で使えなくなった洋服でも寿命を伸ばし、資源の長期化を図りたい。洋服のリメイクをすることで、男女どちらでも着やすい服や、どんな世代でも着れそうなファッションを作ってみよう。国内だけでなく国外への洋服の足りない国へ支援することで世界的にも古着の重要性を知らせたい。	下河邊 望来	私のプロジェクト内容は、海外の高校生とオンライン交流会をして双葉郡を知ってもらうことです。内容としては、震災を経験したことのある人から経験談を詳しく聞きその話を海外の高校生に教えたり、その人と呼んで話してもらったり交流の場を主催する予定です。交流する前に、福島の印象を聞いて5段階評価してもらい、紹介した後も5段階評価してもらい知る前と後で変化をはっきりさせたいと思いました。	小野寺真白	双葉郡の果物を使って砂糖を作り、その砂糖でジャムを作る。そこから地域活性化を目指す。果物から砂糖を作る方法、双葉郡で作る果物達、ドライ柿の作り方、ドライ柿のいい所、果物から作る砂糖のメリット(普通の砂糖と何が違うのか)	穂積琴音 橋本樽子 馬目逸希

再生可能エネルギー探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
風(風力)の研究 (仮)		再エネで広野町に彩りを		土壌	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
調べること 風力発電の仕組み。今ある3つの風力発電(一般的なもの、洋上風力発電、マグナス式風力発電)を分析する。(メリット・デメリット、設置・稼働時における事故、材質、重量等) 風が吹くのはどんな条件がそろった時なのか。対角線上にある窓を開けると風が通るのはなぜか? 風力発電を設置するのに適した場所の条件とその条件に合致する場所。広野町の風向、風速など(アメダス観測)。 やってみたいこと(できるかどうかはわからない)は人工的な風の発生。弱い風でも発電できる風力発電装置の製作	渡辺彩夏	小水力の開発をし、作った小水力発電を使って地域のためになにかできないかと考えた原子力防災のひとつはさんと一緒に、小中高の通学路に街灯が少なく、夜道が危ないと感じ、自分に何ができるかを考えたひとはさんとで、再エネを使って広野町に街灯の代わりとなるイルミネーションをしたいと思います、協力して探究を進めることになりました。小水力と太陽光、風力(仮)を使ったイルミネーションの明かりで、広野町を明るく元気にします。	貝沼秀基 鈴木一真 西間木健太 中島一葉	概要としては現在中間貯蔵施設に貯蔵してある約808.3万m <sup>3</sup> の土壌から最終処分量を低減するための再生利用が鍵とされており、その貯蔵されている汚染土壌の中から再生利用可能濃度の土壌を異物除去、濃度分別、品質調整を行い、公共工事等で管理した上で、やっと再生利用が可能状態です。このような過程をこなせるのは高校生の僕達では無理と判断し、もっと他の方法で簡易的にある程度濃度が低い汚染された土壌を再生利用をし、地域や社会に福島県安全性をもっと理解出来たらいいなと思いこのプロジェクトを実行しようと考えました。	遠藤聖太 小松藍人
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
二酸化炭素削減		「水素」について広める		探究テーマ	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
二酸化炭素と、地球温暖化の問題を繋げて二酸化炭素と温室効果ガスの違いや、二酸化炭素を削減するメリットや、取り組み、それら取り組みによってそれぞれどの程度二酸化炭素を削減できるのかをまとめました。また、二酸化炭素排出率の現状や企業や国の取り組み、実際に私たちにできる省エネや水の節約など簡単に二酸化炭素削減に貢献できる方法などをまとめました。聞き手が見やすいようにまとめました	平田遥翔 佐藤翔	わたしたちの探究テーマは水素についての知識を地域の人たちに広める活動です。この探究をやろうと思った理由は、双葉郡には福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)があるが地域の人たちはどのくらい水素についての知識があるかを調べ伝えるためにこの探究をしようと思いました。まず自分たちは、水素についての知識が浅いので、人に教えられるくらいの知識を身に着けるとことから始めました。これからは、学校や地域の人たちに伝える活動をしていきたいと思います。	門馬新 鈴木博士 横山海斗 渡部拓斗		

アグリビジネス探究ゼミ					
双葉郡の魅力伝える化粧品開発			ふたばの新土産 せっけんせっけん		
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私がこのプロジェクトを始めた理由は、少子高齢化・過疎化や双葉郡の魅力が知らないことが気になったからです。なので商業で学んだことと、自分が興味を持っている美容を組み合わせたいと思いました。双葉郡産の果物を使った化粧品を開発し、それを使って魅力を発信して双葉郡に興味を持ってもらいたいと考えています。また、双葉郡産の果物を使用することで風評被害の削減にも繋がったらいなと思いました。	山内菜々	双葉には八町村があって、それぞれの特産物はいっぱいあるけど、双葉郡を代表する特産物は少ないと思いました。今コロナで頻りに手を洗う際に使われる石けんにそれぞれの代表的なものを入れていきたい。例えば、川内の蛙、檜葉藍染め、富岡の桜、浪江の焼きそば、広野のみかんやバナナ、大熊のいちご、葛尾村のヤギ、双葉だるまをイメージした石鹸を作りたいと思います。これをきっかけ、県内も県外も、話題となり、もっと興味を持ってくださる人が増えたら、嬉しいです。	佐川生華		

健康と福祉探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
交流で心もからだも健康に。		地域リング		介護士増員計画 ～NEXT GENERATION MEMBER～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は震災前、檜葉町に住んでいました。そして震災後、いわきに避難して高校入学と同時に戻ってきました。その時まず感じたのが、震災前と比べると地域の人との交流の場がなくなってしまった、減ってしまった、悲しいということでした。知り合いからも同じような話を何度も聞いて、以前のような活発な交流を復活させたい、地域の人・高齢者の方にもっと元気になってもらいたい、そう思いこれまで探究を進めてきました。今は大きなアクションを起こしてはいませんが、これからイベントを開いたり、zoomで交流をしたりしたいと思っています。興味のある人はぜひ参加してみてください！	松本 花	探究テーマは「地域リング」で、目的は子供と高齢者と障がい者の交流を増やすことです。この探究をやろうと思ったきっかけは、元々運動を通して子供が高齢者と障がい者の別々の探究をやっていました。ですが、運動を通して交流することが共通点だったこともあり、子供と高齢者と障がい者のみんなで交流をするということにしても面白いのではないかと、と思い、この探究を始めました。私たちの最終的な目標は、運動を通して地域の交流を増やし、互いに助け合える活発な地域を作ることです。	有賀菜月 村上舞	私の探究の目的は、福祉科で生活援助従事者研修というものを行っている、今後高齢者が増えていき、介護士が少なくなっていくということを知ったからです。介護というものは誰にとっても、決して遠い存在ではなく、家族やお友達などのお世話をすると共に役立つものです。なので、介護職に興味がある人でも、介護職に興味がない人でも、介護職に興味はあるけど大変そう…辛そう…などと思っている人に少しでもいいから、仕事内容を知ってほしいと思いました。	大山未来
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
幼児と音楽・幼児と運動		障害者の避難について		探究テーマ	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私たちは、「幼児と音楽」「幼児と運動」をテーマに探究活動を行っています。また、コロナの影響でなかなか交流する機会が少なくなっている現状を感じ、子供たちの笑顔を増やしたいと思いました。そのことと、自分たちの好きなことである音楽や運動を結びつけたテーマになりました。これからの時代の中心となる子どもたちが、もっと元気に楽しく過ごせる状況が増えていくために、今ある施設や何かをいかしていきたいと考えています！	片山希良里 大川原菜々海	“東日本大震災の津波によって障害者の多くは津波から逃げきれずに死亡してしまったり集団での避難生活で辛い思いをしました。その多くが、地域住民の声掛けで助かったかもしれない命もありました。避難所ではハイリアプリーが整っていない、自分から障害について発信出来ずにいる人がいました。障害を持っている人が地域との関わりを持って災害時に安全に避難やその後の生活に少しでも不安をなくしたいです。”	三村咲綾		

健康と福祉探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
LGBTを理解する		中高生が将来にわたって、役立つ正しい食生活をみにつけるには？		DANCEでたくさんのSMILEを！	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
まずは全体(日本だけでなく全国)を通してLGBTがどういうものなのかを何んとなぐりではなく詳しく正しく理解してもらい、理解したうえで自分の身近な地域から濃くひろめていくと共にLGBTの人が生きやすく、住みやすい街、地域を目指すことです。そのために自分で決めたアイディアは、自分がLGBTを理解するというテーマにするきっかけとなった動画をみせること。これは、自分がどれだけ真剣に取り組んでいるかがわかるといいます。そして、広告を作って差別の深刻さを知ってもらう、他人事ではなく、ひとりひとりが自分のことのように考えてもらうこと。これは、少しでも差別や偏見の目をなくすように努力するためのです。	あゆちゃん	自分は、中高生が将来にわたって、役立つ正しい食生活をみにつけるには？を問いに活動しています。まず、福島で問題になっているのが生活習慣病です。しかも、福島県でメタボ率がワースト4位なんです。その原因のひとつが食生活です。これをきっかけに私はどうすれば、健康な食生活を送れるのかを調べることになりました。今のところネットで調べたのでは、肥満や高塩分摂取の要因となる食行動をしています。例えば、朝食欠食、味がとても濃い食事ばかりとる。野菜を食べる頻度は毎日1回未満。と言った結果が見られました。本当に残念でした。なので私は将来がある中高生を対象にアンケートを取ろうことになりました。結果はまだです。その結果を元に、また色々なことを調べていきたいと思っています。	吉田な	私たちは、今コロナなどでなかなか外出できない地元や地域の子どものために私たちができることはどんなことをテーマにして探求活動しています。なぜこの探求活動をやるのかと思ったかという、まずコロナで自由に出歩けないことによりストレスが溜まってしまっている現状に着目しました。そこで私たちに共通している体を動かしたりすることが好き、人と関わる仕事が好きという共通点から、ダンスで体を動かし人と関わりながら何か出来るのではないかと考えました。またダンスには身体や心を活性化させたりする効果があります。このような効果からコロナによるストレスを軽減し、笑顔になれる日を増やすことができるのではないかと考えました。	大柿 百加 星涼乃

スポーツと健康探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
健康を通して肥満を減らそう		コロナ禍でもスポーツ観客数を増やそう		スポーツを通して広野町を健康で活気のある町にするためには？	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
“私たちは健康を通して肥満を減らそうというテーマで活動しています。そこで私たちは私たちの一週間の食事の栄養素を調べ何が足りているのか何が足りないのか、取りすぎているのは何かを調査しました。それで私たちは炭水化物や糖質を取りすぎていることがわかりました。また、逆にビタミンやタンパク質が足りないこともわかりました。そこで私たちは1日必要なカロリーや栄養などについて調べ、必要な栄養を取れる食べ物を作ることになりました。それを完成させたらそれを皆さんに広め健康で生活習慣の整った社会を目指します。”	柳沢紅芽 門馬洋平 平子朝陽	“まずはスポーツ観戦をするために、どのようなコロナ対策をしているか、色々な人に連絡を取りました。まずは、高校野球連盟の鈴木様に連絡させていただきました。鈴木様には、夏の高校野球のコロナ対策について聞きました。そうすると、コロナで運営する側の人数を減らすことはできるがその分人手不足になってしまう。ということがわかりました。そして次は観戦者の立場になって見ました。そこでは、ビール販売、飲食、席はあまり開けてないなどがわかりました。しかし、マスク、計温、消毒は徹底的にやりました。そして、まん延防止が解除後と帽子の時の対策などは違うのかと聞きたく、いわきFCさんにお話を聞く予定です”	横田慶太	肥満度が高い福島県、そこから運動不足が課題だと感じて運動で広野町を活気のある町にしようとおもった。活気のある町にするために、小学校低学年、高齢者向けにスポーツイベントを行いたいと考えた。理由は低学年の子たちに運動や体を動かすことの楽しさを感じてもらえれば、成長していくにつれ活気のある町になっていくとおもったからだ。また高齢者を対象にした理由は、少子高齢化が進んでいて高齢者が多いので運動や体を動かすことの楽しさを感じてもらえれば人数が多いので広野町が健康で活気のある町になると思ったから。実際に小学校低学年向けにイベントを行った。すぐ夢中になって楽しんでくれた。先生方にもほめていただいた。またやりたい、楽しかった、好きになった、という声がたくさん聞けた。目指す町に近づけたと思う。これからは活気のある町にするためにスポーツイベントなどをもっと行って体を動かすことを好きになってもらえるようにしたい。	山口龍之介 さとうれお 遠宮こうせい かんのたくみ しおたりく 磯上ゆうた 高橋じゆうさ
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
スポGOMIで町をきれいにする		スポーツをする人のけがをしなない体作りを支える			
内容	メンバー	内容	メンバー		
私のプロジェクトは、スポGOMIというスポーツを取り入れたゴミ拾いを、探究として取り組めるよう少しオリジナルを入れて開催し、自分たちがお世話になっている広野町をきれいにするというものです。ですが、ただ町をきれいにするだけでなく、町をきれいに保つ意識、ゴミを捨てるべき場所に捨てるという意識を町民の皆さんに持ってもらうことを目標に取り組んでいます。イベントを通してただ町をきれいにするだけでは継続的に町をきれいにできないと思います。ですので、きれいにするというところに視点を置くのではなく、どのようにすれば町民の皆さんに町をきれいに保つ意識を持ってもらえるのか、ということを大切にしています。	梅津心	私たちの班は、マイキーワード『スポーツ』という共通点を持った野球部とサッカー部計四人で集まりました。私たちの探究テーマはスポーツをする人の、けがをしなないからだづくりを支える。です。けがで、スポーツをやめるひとをなくしたいということで、このテーマにしました。まず、ケガをしなないからだを作るには、と、考えたときプロテインを飲み体を作ろうと考えました。そのために皆さんにプロテインに関するアンケートに答えていただきました。しかし、管理栄養士の水口さんにお話を聞き、アドバイスを頂いたところケガをしなない体を作るには、炭水化物を摂取しない限り効率よく疲労回復や栄養を吸収しないとおっしゃっていました。そこで僕たちはそのアドバイスをもとに、現在試行錯誤を繰り返しています。今はプロテインを手軽に、苦手な人も食べれるようにアイスにするプロテインアイスプロジェクトと、ケガについてのプロジェクトをしています。	吉田翔 添田心斗 大矢聖聖 佐藤哉汰		



スポーツと健康探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
バドミントンで地域活性化		肥満児を減らそう		運動しながらゴミ拾い	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>“みかんクラブに行った時にバドミントン競技者が少なかったため、バドミントンに力を入れている私たちが自分たちの経験を活かしてバドミントン競技者を増やす。</p> <p>みかんクラブに行き、小学生対象のバドミントン教室に見学して感染対策や、小学生への対応、練習内容など、色々なところを見て学んで、実際に自分たちが小学生対象でバドミントンを開く。そこで学んだこと、大切なことを実行していく。</p> <p>小学生や広野町にバドミントンのたのしさを伝える。”</p>	岩野滉也 齋藤駿 崎野翔太 藤田真亨 松本雛 渡邊愛夕	<p>私たちは、肥満児を減らそうというテーマでやっています。駅を歩いている時や街を歩いている時に小学生とすれ違うと肥満体型の人が多くなると感じ、このテーマでやっています。気になって調べた時に福島県は肥満児が多いというデータが出たので気になって調べたいと思いました。まずは広野小学校でアンケートや運動をして、小学生に運動する楽しさを教えてあげたいと思っています。探究の終わりに小学生に運動の楽しさを知らせていきたいと思っています。</p>	持館大晟 比佐優津希 半谷洋凱 坂本羅太	<p>“広野町からゴミ捨て場やゴミが落ちていないとても綺麗な町を作るために効率よく、そして自分達の好きなスポーツを関連させてゴミ拾いが出来ないか？</p> <p>ここからスポーツをどのように関連付けられるかとても難しいところですが、しかし、まずは広野町を知るための行動を起こす必要があると思う。</p> <p>この広野町に住んでいる人、何かの縁でこの町に関連がある人に、自慢出来るような町にできるように活動する。”</p>	遠藤悠斗 吉田涼
パークゴルフ		運動不足を無くして行こう		FMGS	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>自分たちは肥満率を低下させることを目標として立てました。だがどうやって低下せよと考えた時に、先輩のパークゴルフという探究があり、もしかしたらパークゴルフで肥満率を低下させること出来るんじゃないかと思いき、パークゴルフの探究を引き継ぐことになりました。</p> <p>まず動きとしては、高校生を対象とした肥満率のアンケートを取りました。次の動きとしては自分達が実際にパークゴルフを体験しに行き、ルールやコツなどを知ることから初めていきます。できれば、広野町の人を集めてイベントなどの開催を目標としています。</p>	奈良原志道 庭瀬宙太	<p>“自分が行っているプロジェクトは運動不足を無くして行こうです。</p> <p>このプロジェクトは地域の人の運動不足を無くし地域の活性化をはかっていこうというものです。</p> <p>まず自分がこのプロジェクトを通して行きたいことは運動というものの大切さを年齢問わず伝えていきたいということです。今のご時世、外へ出かける事が少ない中で運動不足にならないためにどうすればいいのかという考えが大事になってくると思います。そのような情報を自分が地域の人に発信していきたいと思っています。そして最終的には地域の人と運動を通して交流をはかって少しでも運動不足の人を無くしていこうというプロジェクトです。”</p>	高橋和暉	<p>女子サッカーの人口を増やすにはどうしたらいいかを考え、まずはサッカーに関わる人は女子サッカーについてどう考えているのか、どのように思っているのかを質問しそこで回答を元にどうすれば女子サッカーを様々な人に知ってもらえるようになるかと考え、Instagramの開設をして女子サッカーの動画や写真を載せました。少しでもInstagramを見た人が女子サッカーについて興味をもってもらうように女子サッカーをやりたいとおもって貰えるような投稿にしたいです。これからはイベントの開催、様々なSNSの開設・更新をしていきたいです。</p>	福富心春 戸崎良有子
野球人口を増やす		Easy Sportsでnotニガテ		動いて話して伝えよう	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>私たちがなぜこの探究テーマにしたかと言うと、自分らは野球をやっており、野球人口が減っていると聞いたこと。また、広野町の運動不足を解消するため、双葉郡は昔、野球が盛んな地域だったので、なんで野球が減少しているかをインターネットで調べたところ、野球に対する悪いイメージを持っている人が多く、良いイメージもあるが良いイメージより悪いイメージが強く興味をもってもらえないのが今の現状です。</p>	岩佐翔多郎 安孫子恵太	<p>これまでに2学年全体に向けてスポーツに対してのアンケートをとり、運動が苦手や嫌いな理由は幼い頃からスポーツをやっているかやっていないかが関係すると思ったので小学生の低学年向けにスポーツの楽しさを伝え、多くの子供たちにスポーツに興味を持って貰えるようなスポーツを自分達で考え、そのオリジナルスポーツを広め、たくさんの人に知ってもらい、実行してもらえようとする。</p>	緑川然 渡部羽孔	<p>私たちは、体育館に高齢者、幼い子どもなど幅広い年代の人を集め、高齢者が今の子供に昔の遊びなどを教えて、交流を増やす。また、今の子供はゲームばかりしているので、体を動かして、ゲーム以外のことに興味を持って欲しいと思いき、このようなプロジェクトを考えました。このプロジェクトをすることで、小さい子供も高齢者も健康に繋がると思っています！</p>	齋藤久遠 柴田千帆
サッカー部で広野町をげんきにさせる		怪我をなくして笑顔広がる世界を創る		外遊び減少解決	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>自分たちの探究テーマはサッカー部を通して原町を元気にするです。探究テーマを決めた理由は先生にサッカー部を通して何か活動すれば良いんじゃないかと言われる、一番身近な広野町の、町民の方々がサッカースポーツに興味を持ちサッカー部の試合を見ることを楽しみにしてくれるような活気のある街にしたいと思ったからです。そこで今、自分たちは、スポーツに興味があるか、生活している中で楽しみにしていることはあるかと言うアンケートを役所に出そうとしています。また富岡高校の元校長先生の青木先生にどうして富岡高校のサッカー部は地域の方々に応援されるチームだったのかお話を聞くアポをとり、お話を聞きたいと思っています。これが僕たちの現状です。</p>	足立賢彦 村上真斗 山澤優和	<p>僕たちは、主に二つのあるべき姿を探究していきます。1.スポーツ選手が怪我に対する正しい知識をもって、安心に全力でスポーツができるようになるというものです。まずは自分たちが正しい知識を学びそれをスポーツをやりたくても怪我で悩んでいる人たちに発信して少しでも力になりたいからです。具体的にはYouTubeやサイトなどを使い伝えていきます。</p> <p>2.地域の人が正しい知識をもって安心して生活できるようになるというものです。自分たちの探究で地域の活性化に繋がっていきたく思ったからです。具体的には実際に講習会を行ったり、ポスターを作ったりして伝えていきます。</p>	遠藤太勇 松崎元輝	<p>まずは、この町では外で遊んだりしている子をあまり見たりしないので、ぼくたち二人でみかんクラブさんに協力をお願いして、町の子供達に外で遊ぶ楽しさを知ってもらうことから始めます！そして、数人がはじめることで、周りの友達も一緒にやり始めてくれればこの町の外遊び減少解決に近づいていけると思います。次に、小学生にアンケートをとり、どのくらい外で遊んでいるのかと言う割合を調べることで、この町の子供達の割合を調べる人とならない人の共通点を把握し、遊んでいる子はそのまま継続してもらい、遊ばない人は、僕たちと一緒に動いたりして、外遊びの楽しさに気づいていってもらえたらいいなと思います。最後に外遊び減少を解決して、子供達が元気に遊ぶことによって町が活性化されて行くように活動を進めて行きたいと思っています</p>	草野彰仁 井堀優陽



# 大熊産イチゴのパンを特産品に

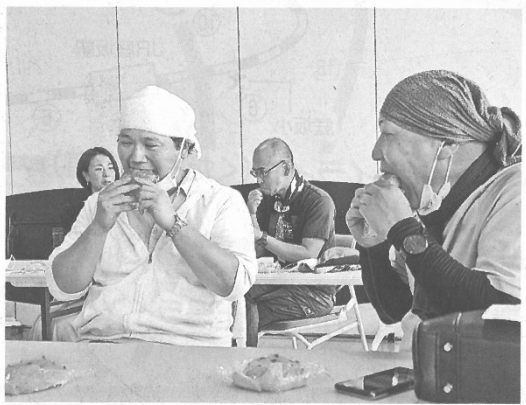
ふたば未来学園高 久保木さんが試作



試作品のパンを見せる久保木さん

ふたば未来学園高三年の久保木ふうかさん（モ）いわき市は大熊町産のイチゴを使ったパンを試作した。九月までに完成させる予定。完成後は大熊町のイベントで配布したり町内の店舗で販売したりして新たな町の特産品の一つとして発信する。

## UFOのような形特徴



パンを試食する参加者

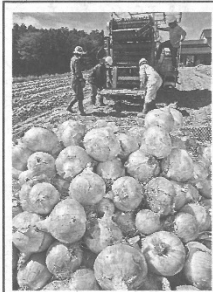
久保木さんは地域の課題を見つけて解決策を考へる同校の授業「未来創造探求」で食と関わりのある取り組みができないと題を掲げた。大熊町でイチゴ栽培施設を運営する「ネクスファームおおくま」の提案やパンの製作などに取り組んできた。完成した試作品のパンはUFOのような形をしている。東日本大震災前に町内で人気があり、町民に親しまれていた「UFOパン」を参考にした。ネクスファームおおくまが生産したイチゴを乾燥させて生地に加えた。

久保木さんはデザインの提案やパンの製作などに取り組んできた。完成した試作品のパンはUFOのような形をしている。東日本大震災前に町内で人気があり、町民に親しまれていた「UFOパン」を参考にした。ネクスファームおおくまが生産したイチゴを乾燥させて生地に加えた。二十一日、大熊町役場でパンの試食会が開かれた。町やおおくままちづくり公社の職員らが参加した。久保木さんは「パンを通して町民のコミュニケーションが生まれたらうれしい」と話した。

# どっちがウマイ？

ふたば未来高餃子 VS 商工会青年部パスタ

## 浪江で栽培 タマネギ「浜の輝」使用



浪江町で生産されているタマネギ「浜の輝」



オニオン餃子「オニオンざ」をPRする荒川さん(左)とオニオンパスタ「オニパス」を売り込む前司さん

### 21、22日道の駅で販売、来場者投票 町の新名物に

浪江町商工会青年部は、町内で栽培されている県オリジナル品種のタマネギ「浜の輝(かがやき)」を使った料理対決を企画した。青年部チームが勝負する。企画名は「令和浪江町たまねぎ合戦」。

「令和浪江町たまねぎ合戦」は、二十一日、二十二日の両日、道の駅なみえで販売し、来場者に投票してもらう。勝った一品は、町内の飲食店などで提供される計画だ。

ふたば未来は、オニオン餃子「オニオンざ」を出品する。大きめに切ったタマネギの食感が楽しめる。請戸漁港に水揚げされたシラスも入れた。

三年の荒川礼奈さん(もも)は「栄養満点。なみえ焼そばに」

「オニオンざ」を出品する。大きめに切ったタマネギの食感が楽しめる。請戸漁港に水揚げされたシラスも入れた。三年の荒川礼奈さん(もも)は「栄養満点。なみえ焼そばに」

「浜の輝」は、東京電力福島第一原発事故後の相双地方の営農再開を進めようと、県が栽培を推奨している。浪江町では、農家十一人が生産組

「浜の輝」は、東京電力福島第一原発事故後の相双地方の営農再開を進めようと、県が栽培を推奨している。浪江町では、農家十一人が生産組

「浜の輝」は、東京電力福島第一原発事故後の相双地方の営農再開を進めようと、県が栽培を推奨している。浪江町では、農家十一人が生産組

「浜の輝」は、東京電力福島第一原発事故後の相双地方の営農再開を進めようと、県が栽培を推奨している。浪江町では、農家十一人が生産組

「浜の輝」は、東京電力福島第一原発事故後の相双地方の営農再開を進めようと、県が栽培を推奨している。浪江町では、農家十一人が生産組

次ぐ名物になってほしい」と合を組織して栽培し、産地化を目指している。





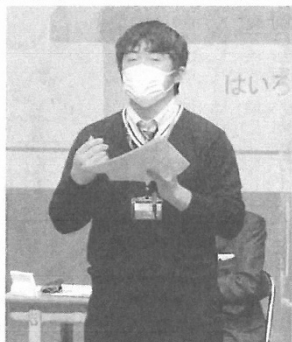
# 多様性踏まえ情報発信を

## 浪江で廃炉国際フォーラム

東京電力福島第一原発の廃炉に向けた課題に理解を促す「第五回福島第一廃炉国際フォーラム」は三十一日、浪江町地域スポーツセンターで始まった。初日は地元住民や有識者らによるパネルディスカッションを開催。廃炉作業に関し、地域や年代など多様性を踏まえた情報発信の重要性について認識を共有した。

東日本大震災・原子力災害伝承館の高村昇館長が司会を務めた。浪江町の任意団体「なみとも」の小林奈保子代表は、廃炉や放射性

物質トリチウムを含んだ処理水の海洋放出方針などに関する情報発信について、現状ではターゲットが不明確と指摘。「情報を届けた相手に応じた発信が必要だ」と訴えた。原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）の山名元（はじむ）理事長は「情報がしっかりと伝わるよう努力をしていく」と語った。フォーラムはNDFの主催。開沼博東京大大学院情報学環准教授（いわき市出身）が総合プロデューサーを務め、約二百人が来場した。昨年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止したため、二年ぶりの開催。最終日の一日はいわき市のアリオスで開く。



廃炉などに関する意見を発表する高校生

### 廃炉と古里の復興 県内高校生が意見

フォーラムでは、NDFなどが事前に催したワークショップに参加したワークショップに参

加した県内の高校生が、廃炉の在り方や地域復興について発表した。会津学鳳高、日大東北高、ふたば未来学園高、福島高専の四校から計六人が登壇した。生徒らは「若者に廃炉を自分事として捉えてもらうような取り組みが必要」「双葉郡に足を運んでもらう機会を増やすべき」など、古里復興に向けた自身の意見を述べた。有識者らは生徒の発表に熱心に聞き入っていた。